

れを信じてゐます。後生ですから、それを拒まないで下さい。殊に上に述べたこと、私が軍務を去りたいと思つてゐることを言つて下さい。(だが殊に、あれが、即ち、全部の特赦があり得べきか如何かよく聞いて下さい。それを見逃さないやうにして下さい。)私を文官にして貰ふ権利と、ロシアに歸ることが出来ることと、殊に出版することが出来ることとを許して貰へるでせうか。特に、注意して、私の手紙をトトレベンに読んで下さい。

詩に訴へることは出来ずまいか。私は、雜誌で、晩餐の時、マイコフが彼に詩をよんだと言ふことをよみました。彼らは知り合つてゐないのでせうか。もし、知り合つてゐるのなら、秘密にマイコフにそれを話して、私の爲にトトレベンにとりなしてくれやうに、彼の家へ一所に連れて行つてくれるやうに頼んで下さい。あなたは、トトレベンの一番末の弟のアドルフは御會ひになる機會はございませんか。彼こそ私の友です。彼に私のことを話して下さい。彼は兄の腕の中に飛びこんで行つて、私のことを引き上げてくれるやうに頼んでくれるでせう。いゝですか、あなたは私のトトレベン宛の手紙を封のまゝにして、彼に渡して下さい。それが吉か凶か、凡てのことを御報らせ下さるやうに、大忙しで報導をして下さい。然し、こゝに困つたことがあります。それは、ラモットが、管割區域の事件の爲に、今出發してゐるはしまいかと言ふことです。彼は一月の間そこへ行かなければならないのです。私は彼が出發してはるまいと思ひます。實際、それが確かであるやうに思はれます。御返事を大急ぎで下さい。私はまた一つのことを恐れてゐます。例へば、オドエフスキイ公爵にやる私の手紙は、快く受けとられるでせうか。あなたは、がっかりして丁つて、いや／＼ながら、トトレベンの所に御出になるのではないでせうか。友よ、私を見捨

てないで下さい。私を絶望に陥れないで下さい。

第二の御願ひ。私の兄が如何してゐるのか、詳かに直ぐに書いて送つて下さい。彼は私を如何思つてゐるのでせう。昔は彼は私を熱烈に愛してくれました。私と別れを告げ乍ら泣いてくれました。彼は私に對して冷淡になつたのではないでせうか。彼の性格は變つて了つたのでせうか。斯う思ふとどんなに私は悲しいでせう。彼はもう金を儲けることの外、考へないのでせうか。凡ての過去を忘れて了つたのでせうか。私はさう信ずることは出来ません。だが、七八ヶ月も彼が手紙をよこさないことを、如何して彼は説明することが出来るでせうか。彼は何でも書いてゐます。そして、私がコメントフスキイの手から送つた檢閲から逃れた手紙にも、質問を發してやりましたが、彼は何も答へないのです。それから、私は、昔を思ひ起すやうな親密さが彼の中になくなつたのを認めました。私が兄に助力して貰ひたいと言ふ頼みを托したコメントフスキイに、兄が、『シベリアに止つてゐた方がいゝのだ。』と言つたことを、私は決して忘れることがないでせう。十二月に我々は手紙を書いてやりました、(あなたの兄弟の手からです、覚えておいて下さい。)私は金を請求して、ラモットの名で私に送つてくれと頼みました。私がどんなに困つてゐたかは、あなたは御存知です。それでも、一言も返事がありません。彼は金をもつてゐないことを、私も悟つてゐます。彼は商賣を始めてゐます。だが、非常の場合には、人は人々を救はんとするものです。のみならず、私は長い間彼の負擔となつてはゐないでせう。私はすつかり彼に返すつもりです。そして、私が金を請求したとしても、別れた時、彼の言葉を思ひ出したからです。此中に同封した彼宛の手紙のなかに、先きに頼んだ百ルウブルの外に、出来る丈送つて貰ひたいと頼みました。私は急の場合にそれが必要でした。(私

が自由を得たら、私は直ちにクズネズクに行かうと思ひます。そして、金がなければ、それは不可能です。のみならず、彼女がバルナウルに行くとするれば、自分の方から其金を調へるやうに彼女にすゝめるつもりです。私はあなたにすつかり書くことが出来ません。だが、金は私には絶対に缺くべからざるものです。生涯に只一度外、斯様に必要なことはありません。貨幣三百ルウブルあつたら私は助かります。然し、既に十二月に請求した百ルウブルを入れて、二百ルウブルでもいいのです。いゝですか、凡てこんなことは、あなたに友達として書いたのです。あなた御自分でいくらか與へるのだと御想像なすつてはいけません。私はあなたの前には全く恐縮してゐるのです。何故と言つて、あなたには、非常な負債をしてゐるのですから。とにかく、私が兄に書いた手紙をよんで下さい。私が今あなたに書いたことを、兄に御見せなすつて下さるな。だが、私はあなたに説明として書いて送るのです。彼にすつかり話して下さい。小説の中の叔父や親戚のやうに、彼は私の戀を非難してゐるのではないでせうか。そして、私なんぞに係つてゐるなど、あなたに忠告してゐるのではないでせうか。然し、私は三十五歳になつたのです。彼は何を考へてゐるのでせう。多分、彼は、私が彼の送つてくれる金の爲にのみ彼を愛してゐるのだと信じてゐるのでせう。餘りです。私はこれでも自分の誇りを持つてゐます。私はパンのみで食つてゐるのです。斯様な感情から送られた金を受取るよりか、我々は、即ち、彼女と私は寧ろ死にませう。私は施物を願つてゐるではありません。私が欲しいのは兄弟です、金ではありません。私は昔彼と議論したことはありましたが。然し、我々にお互に優しく愛し合つてゐるのです。あなたに誓つて言ひますが、私は彼の爲に生命を擲つてもいいのです。私は悪い性格をもつてゐますが、眞面目なことになる、私は、自分の友を辯護

します。我々が捕へられた時に、その驚怖の始めの瞬間には、自分自身のことを考へるのがいゝやうに思はれます。でも、私は彼のことの外考へませんでした。彼の逮捕が家族にどんな打撃を及ぼすか、彼の哀れな妻は如何に驚くだらうと言ふ外は考へませんでした。私は、誤つて捕へられた第三番目の弟に、此誤りを捕へた人出来る丈長く打ち明けなないやうに、また、兄が金をもつてゐないと思つたので、彼に金を送るやうにと頼みました。彼は凡ての過去を忘れたのでせうか。私が金を請求してやつた爲に、それらどんな時かと言ふと、私の生涯の最も危険な時です、その爲に、彼は私を怒つてゐるのでせうか。彼があなたをどんな風に待遇するか、あなたが彼を何と思ふか、書いてよこして下さい。(彼が此事件を如何に考へてゐるか、正直の所を書いて下さい。)そして、わが善良な友よ、あなたの憐れた心のみで判じて下さい。私の事に就いて、マイコフと出来る丈正直にやつて下さい。彼はすぐれた人物で私を愛してゐるのです。いゝですか、彼に秘密にして下さい。

第三の御願ひ。後生だから、私を理解して下さい。私を助けて下さい、私が彼女を愛してゐる爲に、私の生涯を幾分か傷けるかもしれないなどと考へないで下さい。……私が家族を養ふことが出来ることは、慥かです。私は働きます。私は書きませう。何故と言つて、もし、今、何ら特赦を與へてくれないとしても、私は文官に轉することが出来るでせう、早速、十四等官になつて、俸給をとり、殊に出版すること、匿名でもいゝから出版することが出来ませう。私は金をもらひませう。それは直ぐにと言ふ譯ではありません。その時になつて、事件は片がつきませう。

最後に、後生ですから、大至急で、私の事件のなりゆきを報らせて下さい。出来る丈詳細にです。私は

全信頼をあなたにかけてゐます。私の兄に助けられるやうにすゝめて下さい。彼に對して私の辯護人となつて下さい。此結婚で私が自分の幸福のみを求めてゐるのではないと言ふことを信するやうにさせて下さい。我々は生活するに澤山はいらぬこと、私には力があり、元氣があつて、自分の家族を食ふ位は出来ることを信じさせて下さい。私が書くことゝ出版することゝが許されたら、私は救はれ、もう何人の厄介にもならないと言ふこと、私は彼らの助けを願はないこと、殊に、私は直ぐに結婚するのではなく、何か慥かなものを得るのを待つてゐることを言つて下さい。彼女の方では、私の運命が慥かに定りがつく望みをもつてゐるなら、喜んで待つて下さい。私はもう三十五歳で、彼のやうに理性的であることを言つて下さい。さようなら、親愛な友よ。

あゝ、忘れしました、兄に、後生ですから、私の金のことを言つて下さい。もしこれが最後として、私を助けられるやうにすゝめて見て下さい。それで、私がどんな境遇になつてゐるか了解して下さい。私を見捨てないで下さい。こんな境遇には、一生に一度しか陥らないものです。それで、こんな時でなければ、何日、友の助けを乞ひに行くことがあります。あなたを接吻します。あなたを抱擁します。如何してお暮しですか。あなたのことは私は何にも知りません。私はあなたの御手紙を一日千秋の思ひで待つてゐます。此手紙を終るのが名残惜しいのです。私はまた、借金と絶望とをもつて、只一人ほつちになつて了りました。

エフ・ドストイエフスキー

同じ人に

一八五六年四月十三日 セミマラチンチクにて

我善良な友よ。あなたが三月十二日に書いて下つた御手紙、一昨日非常な喜びをもつて讀んだ親しい親切な御手紙に、取り急ぎ御返事を認めます。でも、近頃になつて、私は迅速な返事を期待することを止めました。何故と言つて、十五日前にロシアから到着したテムチンスキイが、あなたがカザンに留められてゐたと言つたからです。それから、人がモスコウ(スピリドノフ)から手紙をよこして、あなたはモスコウに一二日しか御出でがなく、三月九日にあなたはベテルスブルグに赴かれたと言つてよこしたからです。是らの凡ての噂によつて、私は早くともあなたの手紙を復活祭の後の週間にうけ取るだらうと思ひました。そして、今其前に受取つたのでした。あなたが、どれ程私を幸福にし、私が如何にあなたの御手紙を渴望してゐたかは、あなたは御信じになることは出来ませぬ。でも、私があなたからそれを受取ることに、あなたが私を御忘れにならないこと、私に對して處置を講じて下さること——それを私は少しも疑ひませんでした。そして、私はあなたが私を御忘れになつたとは如何しても思ひませんでした。私はあなたが、最も立派な最も善良な心を持つて居られることをよく知つて居ります。あなたが私が愛し申上げる丈の價值のあることをよく知つて居りました。近頃、私がどんな境遇に陥つたかあなたは御信じになることも出来

ますまい。……だが、我々はそれを後で話しませう。そして、順序として、善良なアレクサンドル・エゴロキツチ、あなたの手紙のことから始めに書かうと思ひます。

我が親愛なる忘れ難き友よ、あなたは七月にシベリアに御出でにならうとして、セミバラチンスクをお通りになるだらうと御書きになりました。あなたが意志を變へられずに、シベリアに歸らうとなされ、バルナウルに冬を過しに御出になると言はれた事を、私は如何に嬉しく思つたか、御信じになる事は出来ませぬ。私はあなたを太陽の如くに待つてゐます。だが、友よ、こゝに廣まつてゐる噂は本當ですか。司令官が、特別の任務の爲に、あなたを彼自身にオムスクに、附屬せしめたと言ふことです。(人々は、あなたがオムスクを御通りにならなかつたことを彼が非常に驚いてゐたと言つてゐます。)明確に言へば、あなたはそれを御欲しにならないと言ふことです。それで、恐らく、それを避ける爲に、それが變ることがないならば、サン・ペテルスブルグに御止りになつて、もう御歸りにならない方が宜しいでせう。のみならず、あなたはもう既に御知りになつたに相違ありません。人々がこゝから慥かにあなたに書いて上げたに違ひありません。後生、友よ、後生ですから、それが慥かなことであるか、あなたはさうなすることが出来るか、私に知らせて下さい。あなたはいらつしやるのですか、さでうないので、何日です、如何なる資格ですか、そして、サン・ペテルスブルグで、如何に、あなたはあなたの事件を組み立てやうと思つて居られますか。今、あなたに御目にかゝると言ふ望みの外に、私にはあなたが、空氣のやうに缺くべからざる人なのです。そして、あなたは常に私に缺くべからざる人でした、そして、私はそれを忘れませぬ。私の兄があなたの御氣に召したこと、察する所、あなたは彼と交際して居られるとのことを知つて、私は如何

に嬉しく思つたか、あなたは御信じになることは出来ませぬ。後生ですから、さうして下さい。あなたは其を御後悔なさらないでせう。彼が始終、同じで、私を愛してゐることを知つて、如何に私は嬉しかつたでせう。私はあなたに、彼に對する私の疑ひに關するいろんなことを此前の手紙に書きました。だが、私は如何に悲しく恐ろしい境遇に居たか、兄のことを憶測して、如何に私が後悔してゐるか御察して下さい。私は彼を接吻すると言つて下さい。私は彼に手紙を書きませぬ。何故と言つて、私は辛うじてあなたに御返事をかく時を持つてゐるのみですから。私は間もなく彼に公式の手紙を書くでせう。それは、生きてゐて、健康であると言ふ事です。公式の手紙に、それ以上何を書くことが出来ませう。でも、次ぎの手紙で、私は彼にあなた宛の手紙の中に書いて送りませう。此前の手紙で、私は彼に尙百ルウブルを請求してやりました。友よ、それは私の爲ではない、私の爲に、今此世で最も尊いものゝ爲に、殊に、困つてゐるからです。もし彼が只私の請求に應じてくれることが出来ましたら、彼にさうして戴きたい。神は彼に報いませう、そして、その爲に、私を幸福にさせ、私を絶望から救つてくれませう。どんなことになるか誰が知らないことがありませう。のみならず、私が出版の許可を得たならば、その時私は金を得て、新生活を始め、もう彼を苦しめるやうなことはありません。私はそれをいつも厭々ながら言つてゐるのです。何故と言つて、兄は自分のパンを得なければなりませんから。友よ、私はあなたにトトレベンの所へ行つて、私の手紙を渡して下さるやうに書きました。あなたは多分さうなすつて下つたこととせう。あなたの御返事を待ち乍ら私の心が如何に恐れを感じてゐるかあなたは御信じになることは出来ませぬ。あなたが私に對してして下さる凡てのことを前以て感謝します。だが、只、後生ですから、私をおちつかせやうと思つて、

空しい望みを抱かせては下さいますな。事柄は、只、私に事實を書いて下さいと言ふこと丈です。私は兄並びにあなたに、マリア・ドミトリエヴナに手紙を書いて下さるやうに願ひました。そして、それが可能なら、なるべく早くです。私はあなたに私の願ひをもう一度します。後生ですから、さうして下さい。あなたは、人々が我々に何か恩恵を與へやうとしてゐる、と仰います。だが、それが慥かと言ふことを人々は秘密にしてゐます。どうぞ、我尊き方よ、私に關して何か前以て知ることは出来ませうか。それは私に非常に必要です、必要です。あなたが何か御知りになつたら、直ちに御報らせ下さい。私はコオカサのことなんぞ思つては居りません。バルナウル大隊のことなんぞも欲しません。今は、そんなことはくだらないことです。あなたは凡ての人々が皇帝を愛してゐると御書きになりました。私も彼を愛してゐます。私の進級は私に必要である事を自白します。然し、將校の階級に達しなければならぬものとすれば、尙長く待たなければなりません。今、戴冠式に當つて、私は何になつても満足しませう。最善にして最も恰なことは、慥かに出版の許可を得ることです。私はある特別の人の手から、あなたに、戴冠式に關する詩を間もなく御送りしやうと思つてゐます。でも、私はまた、公式の道を踏んで、それを送りませう。あなたは、慥かにハスフォルドに御會ひになるでせう。彼は戴冠式に出席しやうとしてゐます。私の詩を捧げるやうに彼に話しては頂きますまいか。さううまくして頂けませんか。

また、私が何日まであなたに手紙をやつていゝか報らせて下さい。何故と言つて、あなたが、サン・ペテルスブルグを御去りになるならば、手紙がなくなつて、うまく行かないでせう。私は、ロシアに關する論文のことをあなたに話しました。然し、それは、全くうまく政治的の小冊子となりました。私は、此論文

の一語も削除することを欲しません。私の考が斯様に愛國的であるにしても、小冊子を以て、私が出版を始めることを許してくれるとは有り得ないことです。けれども、それは眞面目な風を帯びてゐて、私は満足してゐるので、私の論文は、慥に私に興味を起させました。だが、私はそれを捨てました。出版の許可を拒まれるかも知れません。それでは、私の勞苦は失はれて了ふのです。今、私の時は、無駄に失つたり、個人的な書くと云ふ快樂の爲に過すには餘りに尊いのです。斯うして、政治的狀態は變つて了ひました。そこで、私は他の論文、「藝術に關する手紙」を書き始めました。マリア・ニコライエヴナ殿下は、學士院の總裁です。私は彼女に私の論文を捧げるの許可を願ひたいのです。それを署名なしに、印刷させませう。私の論文は十年間反省した賜です。私はオムスクで、その最後の言葉に至るまで、大變反省しました。そこには熱烈な獨創的なものが澤山あります。私はその論述の責に任じます。恐らく、多くの人々私の見方に共鳴しないでせう。だが、私は自分の考を信じて居ります。それ丈で十分です。私は前に、マボロン・マイコフにその論文を朗讀してくれるやうに頼みました。ある章はその小冊子の澤山の頁を占めてゐます。それは、全く、キリスト教が、藝術に於て演ずる役目に就いてゐます。でも、どこにそれをやつたらいゝでせう。もし、それを自費出版をすれば、購讀者はやつと百人位のものでせう。何故と言つて、それは小説でないからです。雑誌は金をくれます。然し、ソヴレメンニクが私に少しも同情を持たないのです。モスクギチアニンも尙更です。ルスキイ・ギエストニクは、カトコフのブウシユキンの作物批評の序文を公けにしましたが、その考は全く私と違つて居ります。もう、オテチエストエンニヤ・ザビスキの外はありません。けれど、それは如何なつてゐるでせう。私は何にも知りません。で、お願いですから、マイ

コフと私の兄に其を話して下さい。それを印刷して金を得ることが出来れば、また其は只計畫中であると
言ふやうに只御話し下さい。第一のことは、私が小説を書くと言ふことです。そして、それは話に取つて
喜びなのです。

それのみで、私は名をあげる事が出来、自分に注意を引かせる事が出来るのです。然し、儘に、眞
面目な論文(藝術に就いて)から始め、これに就いて出版の許可を願ふ方がいゝのです。何故と言つて、今
日に至るまで、小説をつまらぬものだと人々は見做してゐるからです。私にはそう言ふ様に思はれます。
文官に編入替され、明かにバルナウルに行つて、仕事すると言ふやうな方法があれば、どうぞ、それを見
逃さないで下さい。ハスフォオルでそれをお話なさることが出来れば、どうぞ、さうなすつて下さい。そ
して、話すことのみならず、實行することが出来れば、機会を失はず、バルナウルで文官に轉じてくれる
やうに、處置をとつて下さい。私にとつて、それが、最も近道で、最も安全な道です、のみならず、あな
たの戴冠式を待たなければならぬと言ふ意見に、全然賛成です。儘かに、我々が待つと言ふことよりも一
層いゝことがあるかも知れません。時は近づいてゐます。然し、神様は、そこからどれ丈の水が流れるこ
とが出来るか御存知です。私はあなたの御存知の私の境遇を話しました。

エフ・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八五六年五月廿三日、水曜。セミパラチンスクにて。

我が親愛な非常に善良なアレクサンドル・エゴロギツチ、取り急いで、(全くです)御返事を認めます。私
の手紙が大急ぎで亂筆になつたとしても、怒らないで下さい。私は凡てこれを後で辯解致します。第一に、
私は、あなたの下つた一切のこと、私に對するあなたの一切の御處置に對して無限に感謝致します。
親しき愛する人よ、あなたは私に取つて第二の兄弟です。トトレベンは、最も立派な心をもつた人です。
常にそう信じて居ります。彼は武士的な高尚な寛大な魂をもつた人です。彼の弟も同様の性格です。ど
うぞ、エルネストに、私があなたの手紙を読んで涙を流したと言つて下さい。そして、彼に對する感情をあ
らはす爲の言葉があるか如何か解らない位です。私の代りに、アドルフを接吻して下さい。彼は如何なる
ことでせう。事件はよく運んでゐます。私は、よくそれを信じてゐます。神が寛大な王に幸福を賜らんこ
とを。

彼に對して、凡てのものが熱烈に愛を捧げてゐると話してゐることは、斯うして確實になりました。

如何に其は私を喜ばしたことでせう。一層の信仰、一層の一致、そして、そこに愛を加ふれば、——凡
てのものは恐らく出来上るでせう。それで、誰が後に取り残らうと思ひませう。一般の人の衝動に加らな

いで、その爲に金を出さないのですか。お、神がそれを許し給はんことを。私の運命が一層早く定りがつかんことを。

あなたに何か送る様にとあなたは仰有る。あなたに、戴冠式の爲の詩と、「平和の解決」とを御送りします。それが善いにしても悪いにしても、それを印刷に附する許しを得ることを願つて、こゝで、政廳の手を経て送りました。(即ち、ビエエル・ミハイロフが、此願ひに就いて、ハスフォルドに通知をやりました。)私の意見では、印刷の許可を(文書で)公式に乞ふて、同時に、問題の著作を提供しないのは、拙づいやり方です。それですから、私は、詩作をもつて始めたのです。それをよんで、寫し取つて、王の下に送るやうに盡力して下さい。でも、斯う言ふことがあります。ハスフォルドを避けることは不可能です。何故と言つて、恐らく私の勤務はこゝですることになるかも知れないからです。ハスフォルドは、六月十日に、ベテルスブルグに行きます。彼は勿論ツアルに伺候します。彼は私の詩を持つて行つてくれるでせう。けれども、それを前以て告げ、特に私の爲めにうまく取りはからはなければなりません。ハスフォルドの到着する時、あなたはベテルスブルグに御出でせうか。彼にお會ひでせうか。あなたが御會ひになるならば、彼にトトレベンのごことは御話しにならないやうに願ひます。此事件の一切の成功を彼に歸するやうにすれば、彼は一層熱心によつてくれるでせう。然し、いゝと思ふことは、トトレベンが何處かで彼と出會ふか、若しくは、(だが、私は敢てトトレベンが斯う言ふ惠みをたれることを望むことは出来ません)ハスフォルドを訪問して、(それは非常にハスフォルドの氣に入ることとせう)私の出版許可の請願と共に、ツアルに私の詩を捧げることを彼に頼んでくれることです。同時に、人が彼に私の噂をすれば、即ち、人

が私が進級に價する人間か如何かときいたならば、私の爲に一言言つてくれるといふかも知れませぬ。お、え、凡てのことは、うまく運ぶでせう。友、斯うして、あなたが、ベテルスブルグに居り、ハスフォルドに從屬しないでもいゝのです。斯う言ふ考を、トトレベンに、なるべく注意して話して下さい。(何故と言つて、私は澤山頼んだのですから。)そして、彼がうけ入れると思ひになつたら、凡てを説明して下さい。あなたが斯う言ふ報らせを下つて、どれ程、私の勇氣を鼓舞して下つたか、あなたは御信じになることは出来ませぬ。(私はあなたに御會ひすることを待ち遠しく思つてゐます。お、それが間もなく出来るなら!) どれ程、我々は話し合ふべきことがあるでせう。お、神があなたに幸福を給へ、時々起る恐いことを與へ給はないことを、私はそう經驗から言ふのです。でも、ベテルスブルグに餘り長くゐないで下さい。どうぞ後生ですから、來て下さい。來て下さい。

私の兄に、彼を腕に抱き、私が彼に引き起した凡ての苦痛に就いて、御詫びを願つてゐると言つて下さい。私は彼の前に膝づいてゐるのです。私のあの事件は非常に悪くなつてゐます。そして、私は殆ど絶望してゐます。私の苦しんだ程苦しむのは困難なことです。然し、私があなたにすつかり言ふ丈言つて、あなたを困らさうとは思ひません。それで、斯うして、限らない悲觀と共に、私は一人ほつちであるのです。お、もしあなたがこゝにお出でだつたら、こんな風にはならないでせう……(譯者註、マリア・ドミトリエヴァとの戀愛事件を言ふものならん。次ぎのボオルとは彼女とイサイユフとの間の子なり。)

彼女は、ボオルを、シベリア幼年兵隊に入隊許可をして貰ふやうに取りはかつらてくれと私に頼んで來ました。小師團の中に、今年彼を入隊させて貰ふ爲に、ハスフォルドにあなたに宜しくやつて貰ひたいと

頼んでゐます。私は公平に彼のことを取りはからうと約束しました。それで、あなたに御願ひして、出来る丈のことをして頂きたいのです。然し、また、どうぞ御願ひします、兄に詳細のことを、今でなくとも、少くとも來年には、ポオルをバヴロフスク隊に入れられるか如何か眞面目に調べてくれるやうに説きすゝめて下さい。それが出来るなら、兄は出来る丈早く、詳細にマリヤ・ドミトリエヴナに手紙を書くやうにして下さい。彼が彼女の心を十分落ち着かせるやうにして下さい。アレクサンドル・エゴロギッチ、あなたは、キリストの愛の爲、私の爲、好機會を見つけてポオルをサン・ペテルスブルグに連れてゆくやうに彼女を説伏して下さい。そこに息子をつれて行つても彼女は動かなくてもいいこと、他の人々が彼をつれてゆくこと、ペテルスブルグでポオルが友を見つけることを言つて下さい。女に説きすゝめて、彼女を説伏して下さい。特に兄に願ひます。

エフ・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八五六年七月十四日。セミアラチンスクにて。

我が親愛なる尊きアレクサンドル・エゴロギッチ、取り急ぎ第一便で御返事を致します。けれど、私は長い間、せめて一行なりとあなたは書いて下さると待つてゐました。私はあなたに咎め立てをするのではあ

りません。あなたは私に取つて、いつも兄弟でありました。私はそれを感じ、それを知つてゐます。然し、あなたが、どの位、私があるあなたの友情を必要とし、始終、あなたのことをよく思ひ出してゐることを御存知でしたら。私は幾度となく、あなたに私の方から書かうと思ひました。でも、近い中に、あなたは出發して我々の此地に御出でになりはしまいか、私の手紙はあなたの手に入らないだらうと疑つてゐたのです。のみならず、何をあなたに書くことがありませう。人は決して、手紙の中に必要なことをすつかり書く譯には行きません。そして、今でも尙さうです。

あなたが私の爲に御盡力下つたことは、百倍も繰り返して感謝します。二人のトトレベンに御禮を言つて下さい。私に對して、あなたのやうな彼らのやうな心をもつて振舞ふ態度を、私は如何に喜んで眺めてゐるか、御想像も及びませぬ。あなたが、私に斯様な愛情を御示し下つたのに、私はあなたに何をしたいでせうか。斯様に立派な魂をもつた彼らに、私は何をしたいでせうか。神があなたに祝福を賜らんことを。斯うして、今、私はしつかりと希望を抱いてゐます。けれども、……もう既に遅、なりました。……私はせめてあなたから一行の手紙でもほしいと思ひました。(何故と言つて、私には一所にゐる人がありませんから。……)そして、あなたは沈黙して居られるのです。そして、今は、我々が會ふことが出来るか如何かは神様が御存知です。後生ですから、私を見捨てないで下さい。一言三言走り書きして下さるのに、何の骨折が入りませう。さうではありませんか。如何して一切のことが終りになるでせう。私には解りません。

後生ですから、あなたが何におなりになられたのか書いて下さい。あなたはらつしやるのですか、さ

うでさいのですか。私は何もあなたに忠告しやうとするのではありません。あなたはよく御存知の筈です。私はデムチンスキイから、アンドレイ・ロヂオノギツチが此冬、外國へ行くと言つたと言ふのをききました。それは本當でせうか。——それでは、あなたは何をなさるのでせう。

私は、サルツキイと他の人々に、オムスクで、ボオルに關する處置を講じてくれるやうに頼みました。(彼の父も亦彼女を忘れないで、彼女を助けてゐます。)救助のことは、うまく行きました。サルツキイは非常に親切です。彼は非常に丁寧な返事を私によこしました。彼は出来る丈のことはしたのです。然し、ボオルに關しては、空いてゐる地位のないこと、ツアルのみが、定員外に彼をおくことが出来るのだと言ひました。そして、人々は彼を候補生として編入するでせう。後生ですから、ハスフオールドに取りはからつて貰つて下さい。人々は今年彼をうけ入れるかも知れません。

私はまた緊急な御願ひを致します。あなたが出来るなら、それを許して下さい。さうでない、私はお願ひしやうと思ひません。友よ、私が進級をすれば、また、どんな場合でも、八月には、金が入ります。非常に急を要するのです。私の旅行がどの位の物入りになつたかあなたは御信じになることは出来ません。私は二度目の危険を冒したのです。私の負債は、貨幣千ルウブルに達しました。私は貧乏暮しをして居ります。けれども、私は缺くべからざる費用がゐるのです。私はそれを感じてゐます。(どうしても)必要です、金が必要です。今は、どんなことをしても、それがゐるのです。出来る丈、大至急で送、てくれるやうに、(幾度となくあなたに接吻して下さるやう御願ひした。)兄に、頼んで下さい。あなたに御願ひするのは下のことです。あなたが、私が出版の許可を得ることを實際に望んで下さり、信じて下さるな

らば、(だが、今の場合丈ですが)どうぞ、誰かに、(何故と言つてあなたに御持ち合せがないと信じてゐますから、)三百ルウブルを一月まで借りて下さい。何故と言つて、私が出版の許可を得れば、一月に返すべき金以上のものを得るでせう。私はあなたが御困りになるやうなことはしません。あなたに誰か借りた人があるとするばです。然し、之があなたを餘り煩はすこととなるなら、御心配しないで下さい。金を借りることは苦しいことです。あなたが借りられたら直ぐ送つて下さい。然し、ラモットと言ふ名義です。後生ですから、こんな要求をするのを許して下さい。第一、こんな事柄に就いてあなたの境遇を知りませんし、第二に私が氣狂ひのやうになつてゐるのです。どうぞ、何にも想像をめぐらさないで下さい。さようなら、私はまた間もなく書きませう。後生ですから、此ら一切の事柄に關して、早く御返事を下さい。私を忘れないで下さい。私は、兄と同じくあなたを、幾度となく接吻します。他の人々に宜しく。何にも隠さず言つて下さい。

エフ・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八五六年七月二十一日。セヨマラチンスクにて。

我が親愛なる尊きアレクサンドル・エゴロギツチ、あなたに對して、もう一通の手紙を書きます。此手紙

があなたの手に這入るか如何か、ペテルスブルグで御受取りになるか如何かも知りません。此手紙は御頼み状です。我が友よ、善良な友よ、私はあなたを頼みをもつて壓しつけてゐます。私は悪る事だと思つてゐます。でも、あなたは、私の只一つの希望です。のみならず、あなたの純粹なすぐれた心を思ひ起して、私はあなたに非常な信頼をしてゐるのです。私の頼みを悪るい方に取らないで下さい。私は、あなたの爲に、河に身を投ずるも辭せない覺悟でゐます。それは斯うなのです。私はサルツキイにボオルのことを取りはからつて貰ふやうにあなたに書きました。私はまた、ジュゲル・ブウシユキンにも頼みました。そして、どちらからも返事がきました。今年、希望がありません。私はハスフオールドに話して下さるやうあなたに願ひました。然し、今、サルツキイから一通の手紙をうけとりました。彼には、一度はマリア・ドミトリエヴナに與へなければならぬ救済に關して、彼女の事件をすゝめてくれるやうに私も願つたのです。何故と言つて、彼女は、法律に従つて、夫の死後、その権利があるのです。そして、それは貨幣二百八十五ルウブルです。サルツキイは、實際、忘れられてゐた其事件を進行させてくれました。所が不幸にして、ハスフオールドは、他へ出かけました。彼の留守の間に、其條の命令で其事件を内務省に提出されました。(一八五六年七月七日、九百七十二號。)そこで、サン・ペテルスブルグに提出された此の救済の請願は、今の場合、殊に、紙狭みのなかに残つてゐるのです。そして、決定される前に、どれ丈の日數が過ぎ去るやら、神が知つてお出です。それから、また、人々は彼女の爲になるやうにきめてくれるでせうか。人々が拒んだならどうしませう。友よ、善良な天使よ、あなたが尙私を愛して下さるならば、常に非常ないろいろな御頼みであなたを追ひかけてゐる私を御愛し下さるならば、出来るならば、此場合も亦助けて下さい。

あなたは、あなたを助けてくれる友、勢力のある人々を慥に見つけられるでせう。此が長びかないやうに、マリア・ドミトリエヴナの爲になるやうに、此事件を急いですることは出来ませんか。友よ、それを看過さないで下さい。キリストの愛の爲に、そうして下さい。斯う言ふことを考へて下さい、彼女の境遇では、これ丈の額は、實際資本です。そして、彼女の現在のやうな境遇では、それは救済で、只一つの出口です。此金を待ち切れなくなつて、彼女は結婚しはしまいかと私は恐れてゐます。そこで、恐らく、(私の想像で)人々が、女に其れを拒むかも知れません。男は何も持つてゐません。彼女も亦た何にも持つてゐません。結婚は費用を必要とします。少くとも、身を立てるには、二年間かゝります。そして、彼女には、またもや、貧窮、苦痛がやつてくるでせう。彼女は、父にもう、助けしてくれるやうにと、申し出ることは出来ません。何故と言つて、彼女は結婚するのですから。如何して彼女はこんなにも苦しまねばならないでせうか。それで、後生ですから、私の御願ひすることをやつて下さい。また、(出来うべくんば)此前の手紙で御願ひしたことも凡べてやつて下さい。あなたはどれ程、私を幸福にするか御解りになりますまい。私はあなたに書きます。そして、どこで、何時あなたが私の手紙を御受取りになるか自分でも解りません。若しこゝにあなたが御出でになるに相違ないならば、もうあなたを惱ましはしません。あなたがそちらに御出でなら、何處に御出ですか。後生ですから、あなたが此手紙をお受取りになつたか何か報らせて下さい。善良な友よ、私に手紙を書くに怠けて下さるな。せめて、數語、只ほんの數語でいいのです。あなたの心が私に必要だと言ふ事を御存知になつたら！私は、自分の心に、あなたを抱きませう。それは恐らく、私を慰めて呉れるでせう。私の悲みは、私に堪へ難いものです。あなたがシベリアに御出でにな

らなかつたならば、あなたがロシアに御止りになつた方が、一層有利であるからだと思ひます。然し、私の利己主義を許して下さい。私はこゝであなたに速かに會ふ事の外望んでるません。あなたは私に必要です非常に必要なです。斯様なポロ紙に書くのを御許して下さい。第一、私は非常に急いでゐるのです。第二、私は今、何事も殆ど見ることが出来ないのです。そして、物事を悪い方に見てゐるのです。第二、最愛の兄を接吻して、無沙汰してゐる私を許してくれるやうに言つて下さい。彼に此次書きませう。今は、誓つて言ひますが、川に身を投ずるも辭さない覺悟です。また酒を飲むことも辭しません。私の爲に彼を抱き、無限に彼を愛してゐることを言つて下さい。あなたはKH………に御會ひですか。何故がそれに關係してゐますか。私はあなたがもつと沈黙して居られまいかと恐れてゐます。神の愛の爲めに、すつかり書いて下さい。もし、眞に、私を將校にする望みがあれば、それがバルナウルでなる様にうまく出来ませうか。トトレベンに私の無限の感謝、限りのない愛情を捧げてゐると言つて下さい。善良な友よ、神があなたに出来る丈の御幸福を授けられ、私の苦しんでゐるやうな苦みを豫防して下さい。祈りませう。あなたの御返事を待つて居ります。そして、私は、もつと興味のあるもつと詳しい手紙を書きませう。(私はそれをお約束致します。)

凡ての人々、殊にあなたが御會になるなら、ヤクシユキンに宜しく。ガツリロフが結婚したか如何かあなたは御きゝになります。結婚はしませんし、また、そんなことを考へてもゐないので。非常に滑稽な話があるのです。私は近頃彼と交りました。デモンチンスキイはいつも同じで、私に對してよくしてくれ、私にいろんな助けをしてくれました。さようなら、我が尊き友よ、あなたが戴冠式に御臨席にならないとはあり得べきこととせうか。金に關する私の御頼みを忘れないで下さい。

それがなければ、凡ての私の計畫は失はれて丁ふのです。繰り返して言ひますが、もう、私には水中に投ずるしかありません。のみならず、私は非常な缺乏を忍んでゐるのです。さようなら、さよなら、幾度もあなたを接吻します。

あなたの

ドストイェフスキイ

同じ人に

一八五六年十一月九日。セミパラチンスクにて。

我が親愛なる友、アレクサンドル・エゴロギツチ、

私は十月三十日にあなたの御手紙を受取りました。そして、私はいろいろの事情があつたもんですから、郵便馬車の歸る時、御返事をあげませんでした。その時、私は、頭の中でバルナウルに旅行をしやうと考へてゐました。そして、KH………にあつた後、そこから、あなたに手紙を書かうと思ひました。そうすれば、私の手紙はもつと面白いものになつたでせう。私の旅行はまだ實行されません。けれども、人が私に約束した通り、金を送つてくれれば、次ぎの週に實行されることは、殆ど儲かだと思ひます。その時、私はバルナウルからあなたに書きませう。そして、こゝからは、あなたは私の手紙を期待なさることは殆

と出来ません。あなたに御書きしてゐる此物を手紙とは思はないで下さい。これは、あなたに急いで何か御返事する爲に書く數行に過ぎません。我が忘れ難き友よ、あなたがこゝに御出でになるならば、八日の中に、あなたに御話したいと思ふ一切のことを言ふやうな暇がありません。無限に慈悲深い我々の王のことを當にしないでも、私が、トトレベン及びオルデンブルグ公爵殿下に尙

感謝すべきものであると御書きになつた。私は彼らに心から感謝します。そして、もしあなたがトトレベに御會ひになるならば、彼に私は感謝を表はす言葉がないと言つて下さい。私は一生涯、私に對する彼の立派な行爲を記憶して居りませう。でも、私の心は正しいのです。親愛なる友よ、あなたがなければ、あなたが私の爲に盡力して下らなかつたならば、私の事件はこんなに早く進行はしなかつたでせう。神はあなたを私の爲に御送り下つたのです。私はあなたに感謝します。あなたを強く、強く接吻します。私が

今、私はあなたに一筆丈申し上げます。(私はあなたに澤山言ふべきことがありますけれども、凡てを書くことは出来ません。)

親愛の人よ、あなたが長い間沈黙して居られたので、あなたは、私をどんな悲みにことゝの出来る者——即ち、あなたに決して御悟りにならないのです。友よ、あなたを最もよく理解することを欲しない御心持を私は理解してゐます。手紙を下さる爲に、筆さへも御取りにな

こゝの人々は、あなたが遠征に参加なさらなければならぬこと、だが、あなたはペテルスブルグに尙御出でになることを知つて居ります。私もそのことを信じて居ります。それでは、如何してあの方は御手

紙を下さらないのだらうか。これが、私の毎日抱いた疑問でした。然し、私は誓つて言ひますが、それにも係らず、私は決してあなたの友情を疑つたことはありませんでした。あなたが私を御忘れになつたと決して考へたことはありませんでした。あなたの御肖像(私はまだ受取りませんが)御送りになつたことで、あなたは私に其を證明して下さいました。然し、友よ、他人に心の苦みを話しながら、それを見つめやうと欲しない時の心の苦みを私は悟りました。だが、あなたは、二行なりとも私に書いて下さることは出来なかつたでせうか。

あなたの沈黙を説明する爲に仰つた他の理由は、(慥かに、私が願つたことを何にも、あなたがしなかつたから、と言ふことでした)私には全く不可解のものでした。あの時、綱か、最後の決心しか残つてゐなかつた場合に、私は友として、兄弟として、あなたに金策を頼みました。私の頼みがあなたを困まらせるかも知れないと知りつゝも、私はあなたに頼むことに決心しました。だが、あなたが私と同じやうな境遇にあるならば、あなたが、私に、これつきりと言ふ金を、あなたの爲めに身を危くしてまでも送れと頼まれたなら、私はそうしたでせう。私の心から判断すれば、良心の背負なしに、あなたを煩はすやうに決心したのです。(もし、私がこゝで借りて、負債をしなかつたら、私の身は失はれたのです。)それは、私の生活に必要なのではなく、私の計議の爲に必要だつたのです。私の前の紙で、私がどんな心持で居るかあなたは御存知でせう。今迄、私はどうして理性を失はなかつたでせう。だが、優れたアレクサンドル・エゴロフツチ、あなたが御自分で、私を助ける丈のものを御持ちにならないならば、(そうであるに違ひありません、何故と言つて、あなたは今迄私を見ずて、おかれたことはないのですから、)後生だから、言つて下

さい。何故、諾、不諾、出来ないことだと一言書いて下さらないのでせう。(私の頼みを果すことが出来ないとを拒む餘儀なからしめたことで、友情の缺けた爲でないと云ふことを、私は悟ることが出来ないものでせうか。そして、あなたの拒絶にあつて、何の権利あつて、私があなたを恨むことが出来るのですか。(私はもうするぶんあなたの債務者となつてゐるのです。)其も私にとつて、愛する親しい兄弟のやうなあなたに對してです。(何故と言つて、あなたがあれ程、私の爲にして下つたのですから、私があなたに對して斯う言つても許して下さるでせう。)とう／＼、此頃、あなたがあんなに爲に、私は極度まで悲觀してゐます。(私は、非常に、近頃屢々病氣になつてゐるのです。ある日、我々が話したところのあるやうな悲しいことが、あなたに起つたのだと私は想像しました。そして、私には、少しなりとも便りしてくれる人もありませんでした。とう／＼あなたの手紙は着きました。そして、それは澤山の誤解をといてくれました。だが、全部ではありません。)

友よ、あなたは、私の望むもの、望まなければならぬものを御きよになる。そして、また、私がロシアに歸れるやうになるかもしれないと仰る。だが、友よ、我がツアルの憐憫は限りないので、そして、私が兵役に服しないで、一兩年中に、私が決定的に歸ることが出来るやうになることを知つてゐます。然し、私の健康を以てしては、軍隊中の變動が起つても、私はどうしても一兵卒であると言ふ事では、何の役にも立ちません。そして、それでも、兵役についてゐなければなりません。私がロシアに歸ることを望んだのは、只、私の家族を接吻したい爲と、私の罹つてゐる病氣(癩癩)がどんな工合であるか、度々發作が起つて、そ

の後では、私の記憶が能力と共に衰へ、終ひには、私の恐れてゐる精神病になりはしまいかと言ふ此發作が、どんなものであるかを教へてくれる醫者に、罹りたい爲です。私は將校の何になることが出来るのでせう。私を免職させて貰ひたいものです。——私をこゝに暫く止らせておかれてもです——それが、私の凡ての望みです。私は生活の爲に金を得ることが出来ませう。私はこゝで朽ち果てゝはるられません。それです。間違ひなく、(出来うべくんば)斯ういふことを書いてよこして下さい。第一、私の健康に、間もなく辭職することが出来るか如何か。(醫者にかゝる爲に、どうしてもロシアに歸る權利を御願ひして)第二、私が出版の許可を得るでせうか。——これは私に取つて、最も重大な問題で、あなたの手紙には、このことに就いて、何にも言つてありません。でも、私にとつて、こは生活の方法です、私の生涯を開く方法です。何故でも、私は自分に自信があるからです。私は有名になり、名譽を得、境遇を作り、私の名で、(或は匿名で)私の上に注意をひくことを望んでゐます。——私は印刷の權を得られますか。どうぞ、尊き友よ、私を見捨てないで下さい私を忘れないで下さい。出来るなら、大至急で、肯定的にそれを書いて送つて下さい。のみならず、私は旅行をした後でも、自分の得ん所のものに就いて、もつと慥かな智識を得ませう。何故と言つて、多くのことが、此旅の間に、決定するのですから。そして、今の所は、一寸、此二つの問題の返事を下さい。

あなたはK……と御知り合ひになりましたか。あなたは、如何して彼を知られました。彼は、「連盟會」の會員となつてゐる紳士で、官僚的な魂をもち、思想なく、鯨魚のやうな眼をして、恰も、笑ふ爲に出来てゐるやうなすばらしい才能を神が授けてゐる人です。

あなたが、私の兄と御交際にならないのを、私はどんなに残念に思つてゐることです。彼は人間の中最も善良な人で、あなたは、彼よりも熱烈にあなたを愛する人間は、あなたの傍に實際ゐないでせう。私は兄に一通の手紙を同封しました。どうぞ、それを最も早く渡して下さい。それを遅らせないで下さい。私は大急であなたに書いてゐます。何故と言つて、澤山書くことは、私に絶対に不可能ですから。繰り返して申しますが、次ぎの手紙は、もつと氣持のいい、もつと詳しいものとなりませう。

あなたの事件と、あなたの本に就ては、私は何にも言ふことは出来ません。ステパノフは何にも持つてゐないと私に言ひました。(サムヰルも、鍋も持つてゐません。)私は此夏、デムチンスキイがオステルメエ、イエに四つの箱を送つたのを見ました。ステパノフは、あなたが彼の所に何物も残しておかなかつたと言ひ張つてゐます。デムチンスキイは、箱の中に何があつたか知らないと言ひます。私は本並びに、凡てのことを、バルナウルで調べませう。そして、あなたの御頼みになつた凡てのことをなすのに、あらん限り盡ませう。あなたのカバン(あなたが私に贈物として下つた)を人が私に渡してくれたなら、私は其を取りませう。友よ、有難う、あなたは絶えず私のことを思つて下さるのです。私の軍服に就いて御心配下さると言ふ御約束を有難く思ひます。然し、私はこゝで、出来る丈は調べました。(信用借で、そして、やつとの思ひです。)もつと早く其に就いて御報らせすることの出来なかつたことを、私は非常に残念に思ひます。何故と言つて、あなたは、恐らく、もう凡て送つて下つたことと思ひますから。然し、私はあなたが私の爲に金を御使ひになつたことを私は恐縮してゐます。私は軍帽、短剣、帯を拒みは致しません。私はそれをあなたに注文する所でした。何故と言つて、こゝではそれを手

に入れることは出来ませんから、(殊に軍帽です。)

こゝからあなたに御便りは申し上げません。こゝでは、始終、同じこと、同じ人間です。(私は後で書きませう。)私はデムチンスキイと可成親密にしてゐます。彼は私の旅行の爲に非常に有用の人です。何故と言つて、彼はズミエフに相談があるので、私と一所に行くことになつてゐますから。(後生ですから、彼があなたの代りになつたとは思はないで下さい。然し、彼は私に非常に盡してくれました。(私には如何言ふ譯だか解りません。))そして、私は彼を理解することも出来ません。何故、彼はあなたを少しか愛さなかつたのでせう。のみならず、彼の所では、凡てのことが、感興でなり立つてゐます。オプロフはエルノイエに居ります。

さようなら、尊き友よ、出来る丈早け書いて下さい。そして、私の手紙の直きに行くのを待つて下さい。私はあなたを非常に強く抱擁します。

あなたの

ドストイェフスキイ

同じ人に

一八五六年十二月二十一日。セミパラチンスクにて。

我が善良な尊きアレクサンドル・エゴロギツチ、私があなたの御手紙を待ちに待つてから、ずるぶんになりました。私は何にも受取りませんでした。私は十五日の中に、セミバラチンスクを去らうと思つてゐるとお報らせした手紙を、御受取りになりましたか。だが、もし其をあなたが御受取りになつたとしても、あなたの御返事はまだ来る筈がありません。私の返事を待たずに、あなたが書くとお約束なすつた手紙の爲に無益に身を破滅さざるやうなことがあつてはいけぬ、服装全部は私に必要でないと言ふことをもう御報らせしました。(何故と言つて、それは私に餘りに遅くつくからです。)實際、私が必要とするのは、ある附屬品で、例へば、軍帽、肩章、数字のついたボタン等です。それは只、こゝにないからです。——それは送つて頂かなければなりません。あなたから、感謝の念を以て、是らの小さい品を受けとることを御報らせしたのは是が爲です。然し、是らのものを準備し、買ふことが、是らの買物の終るまで、手紙をお書きになることが出来ない程、あなたを多忙にしてゐるとすれば、御氣の毒です、本當にお氣の毒です。私がこれ程御世話になつた善良な忘れ難き友よ、恐らく斯様な細事があなたをして書くことが出来なくしたのではないでせうか。然し、恐らく、私は間違つてゐるのでせうか、あなたの心の中に、時が私の思出までも消して了つたので、あなたはもう昔のやうに私を愛さなくなられたのでせうか。誰が解りませう。勿論そんなことはない。そんなことを言ふのは罪惡です。私の心の中に滑りこむかも知れない此疑惑は、あなたに對する忘恩となる程、あなたは私の爲に非常に盡して下さいました。私は斯様な疑惑を抱くことを欲しません。それを拂ひのけてゐるのです。私は眞心から、あなたを腕に抱き、嘗てセミバラチンスク

であつたやうに、あなたが私に取つて全部であつた時の昔のやうに、私はあなたと話したいと思つて居ります。我友よ、我兄弟よ、我々が我々の苦痛を……心から打ち明けたあの時のやうに。

そして、先づ、第一に、あなたは、トトレベンに久しく御會ひになりませんか。彼はベテルスブルグに居るでせうか。彼が居るとすれば、あなたは私の感謝を仰有つて下さつたでせうか。友よ、私には彼に感謝を表はす言葉もない程であること、私は永久に彼を尊敬してゐること、一生涯彼が私の爲に盡してくれたことを忘れないものであると云ふことを言つて下さい。後生ですから、善良な友よ、大至急で書いて下さい。私はあなたに一大手紙を約束しました。私はあなたに半帖書きます。その理由は、私の手紙があなたのベテルスブルグに居られる時手に這入るか如何か解らないからです。あなたはイルビットに行かうとして居られると御書きになりました。そして、慥に、バルナウにまで行かうと言ふ考を御持ちなのでありませう。その時、私の手があなたの御歸りになるまで止まつてゐるのか、ベテルスブルグから、あなたの居られる所に送られるか如何か解りません。それですから、凡て長い手紙をかく代りに、短い手紙を差上げるのです。それから尙、一つの理由があります、それは、彼と文通する代りに、私がどれ程口頭で彼と話をしたか思つてゐるか神様が御存知です。』と言ふ言葉で、あなた御解りになりませう。私があなたに御會ひしたら、私は何かあなたに報らせることが出来ます。けれども、今は出来ません。私は只、デムチンスキイと、セメノフ(地理學協會員)と共に、バルナウルとクズネツクに行つたと言ふことを話します。我々は、バルナウルに、十二月二十四日につきました。(五五の祝日に。)そして、ジェルングロツスは、我々とまだ會つたことがないので、只、セメノフを通じて、舞踏會に我々を招待しました。彼は私を非常に喜ばせました。

バルナウルの人々に就いては、私は何にもあなたに書きません。私は澤山の人々と知り合ひになりました。それは活動的な都會で、人々はそこで澤山のお喋りをし、澤山の田舎風のタレイランがゐります。(譯者曰、タレイランは佛蘭西の巧みなる大外交官にして、機智に富みたれど、不肖徳家なりき。)私は二十四時間、バルナウルに過しました。そして、只一人でクズネツクに行きました。そこで、私は五日を過しました。歸途、私は尙バルナウルに二十四時間止つてゐました。私はジェルングロツスの所で晚餐をし、夜まで彼の家にゐました。彼は私に對していゝもてなしをしてくれました。食卓で、私は少し不器用なことをしました。約八歳になる彼の子供が私に大變氣に入りました。彼は大變母に似て居ります。私はそう言ひました。彼女は何う似た所がないと答へました。私は此類似を細く解剖し始めました。想像して下さい、此男は、後で知りませんが、家族の中では、殆ど醜男子として見做されてゐたのです。私の御世辭は大變なものとなりました。

私はあなたの御肖像を受取りました。有難う、友よ、有難う、あなたが御贈り下つたカバンを、私はまだ受取りません。ジェルングロツスは、そのことに就いて、一言も私に申しません。私も彼にきかうとは敢へてしませんでした。慥かに彼は忘れたのです。だが、そんなことは如何でもいゝのです。それはオステルメイエの所にあると恐らく思はれます。もし彼の所があれば、私は後に受取りませう。あなたの御本の所に恐らくあるでせう。歸途、我々は、ズミエフの所で夜を過しました。私はオステルメイエの許に行くことは出来ませんでした。然し、凡てのものが、あなたの所に、よく包まれて、送られることは、慥

かだと思つて下さい。私は尙ズミエフの所に行かうと思つて居ります。

今、友よ、私にとつて重大事件ある一事を、あなたに宣言しやうと思ひます。私は、あなたが私の友として、それをあなたに言はなければなりません。手短かに言へば、ある事情の妨げが起らなければ、カルナブル祭の前に、私は結婚しやうと思ひます。誰とであるか、あなたは御存知の筈です。彼女は今迄私を愛して居りました。……彼女自身で私に諾と言つたのです。夏に、彼女に就いてあなたに書いたことは彼女の私に對する愛着に、少しの影響も及ぼさなかつたのです。彼女は私を愛して居ります。私はそれを信じて居ります。此夏、あなたの手紙を書いた際にも、私は其を知つてゐたのです。彼女は、あの新しい愛情には、間もなく幻影を失つたのです。彼女の手紙で、夏、私はそれを知りました。凡てのことを私は知つてゐたのです。彼女は決して私に對して秘密を持たなかつたのですから。お、彼女がどんな女であるか、あなたが御存知だつたら！ 私は結婚すると言ふことをあなたに斷言します。けれども、ある事情が起るかも知れません。我々の結婚を何日か解らない時まで延引せしめるものは誰だか、物語ることは非常に長くありません。此事情は全く不可思議なものです。でも、それは起りさうに見えても、起るまいと私には思はれます。そして、もし其が起らないならば、凡てが極つた後で、あなたは私の次ぎの手紙をお受取りになるでせう。私は一錢も持つてゐません。最も正しい最も精しい計算によれば、凡ての爲に、貨幣六百ルブル必要です。私はそれをBに借りやうと思ひます。……(彼はオムスタに居りますが、間もなく歸つて來ませう。)我々は近頃非常に交つてゐるのです。私は彼が其を借してくれんと望んでゐます。そして、もし借してくれなければ、少くとも、暫くの間は、凡て駄目になつて了ひます。私はそれを長

い期限内、少くとも一年間、借ります。然し、次ぎの郵便で、金持のモスコウの叔父の所に手紙をかきま
す。彼は一度ならず、我々の家族を助けてくれたのです。そして、私は彼に貨幣六百ルウブル頼みます。
彼が私に借してくれたら、私に直ぐにKに返させよう。……もし彼が借してくれなかつたら、私は自分
でその金を得なければなりません。何故と言つて、此負債は、神聖な負債であり、出来る丈早く、支拂は
ねばなりませんから。

私は兄をあてにすることは出来ません。彼は金を持つてゐたら、私に與へるでせう。然し、彼は、今は
殊にわるい境遇に陥つてゐると書きました。それですから、私の負債を拂ひ、生活のたつきを得る唯一の
望みは、出版を許されることにあるのです。友よ、私が何にも持たずに、貨幣六百ルウブル程の金を借り
ると聞いて、びつくりなすつてはいけません。でも、私には、貨幣千ルウブル以上もつて、出版する丈の
ものが準備してあるのです。それで、私に出版の許可が得られたなら、叔父がそれを送つてくれなくても、
返す可能性はあるのです。だが、私に一年の中に出版の許可を與へてくれなかつたら、私は失はれて了ひ
ます。それでは、生きてゐない方が、餘程ましです。私の生涯には、今日のやうな危険な時は、今迄あり
ませんでした。我が尊き友よ、出版許可の何かの報らせが、私にとつて如何に重大なものであるか、あな
たが悟つて下さらなければならぬのはこの爲です。それですから、私は、善良な神に御願ひするやうに
あなたが此事に就いて何か聞いて頂けるか如何かと御願ひするのです。(私は此前の手紙で、尙このことを
御願ひしました。)直ちにそれを報らせて下さい。そうして下さるやう御願ひ致します。そして、もしあな
たが私と同じやうな感情を御持ちになりますなら、あなたは私の願をきゝ入れて、それを満足させて下さ

るでせう。友よ、さうではありませんか。私は誤つてゐるでせうか。さうではないでせうか。あなたが私
に御話しになつた私の「子供の爲に書いた話」を、如何して發表してくれないのでせう。人が拒絶したので
せうか。私にとつてそれを知ることが、重大なことです。いゝですか、私は署名なくとも、また、匿名で
も、常に發表したいと心がけてゐるのです。もし、K……が金をくれたら、私は一月二十日から三十五
日までの間に、出發する爲に、出来る丈のことはしませう。そして、二十日間の中に、妻と共に、セミバ
ラチンスクに歸つて來ませう。バルナウルでは、如何言ふ譯か知りませんが、あなたがそこに御出でにな
ることを人々が望んでゐます。我々はそこで會はないでせうか。あなたは兄と御會ひになりましたか。後
生ですから、彼に會つて、私の爲になるやうに、彼に話して下さい。私は彼に金を送つてくれと言ひはし
ません。彼は持つてゐないので。然し、私は、彼が出来るならば、何か送つてくれるやうに願ひます。
私は、非常にそれが欲しいのです。

それから、現在文壇の舞臺裏に起つたことを、一切、私に書き送つてくれるやうに、兄に言つて下さい。
それは私にとつて非常に大切です。

さようなら、親愛な友よ、あなたを接吻します。キリストの愛の爲に、速かに書いて下さい。そして、
凡べてを私に報らせて下さい。さようなら。

すつかりあなたのもの

同じ人に

一八五七年一月二十五日 セミパラチンスタにて

親愛なる友よ、此短い小さい手紙で、あなたの手紙の御返事を致します。御願ひです。此手紙をあなたの御手紙の返事だとは思はないで下さい。只、御返事の序文だと思つて下さい。私は二月十日に、また書きませう。そして、出来るなら、もつと早く、二月三日に書きませう。そうです、私が尊き友よ、私の運命は定まらんとしてゐます。私は、この前、マリヤ・ドミトリエヴナが、私の妻となることに同意したことをあなたに書きました。近頃、私には澤山の心配ごとがあります。私は馬鹿になつて了ひさうです。結婚を成立せしめなければなりません。金、借りなければなりません。私は今年出版の許可をうけることに慥かな望みをもつてゐるのです。それで、私は金を返させよう。今の間、私は如何しても金を借りなければなりません。私は金を借りることの出来る只一人の人しかのりません。Kです。然し、彼は始終オムスクに行つてゐます。とう／＼彼は歸つて來ました。そして、私の言葉をきくや否や、貨幣六百ルウブル借してくれました。彼は私を兄弟として取り扱つてくれました。私は一年前に、それ、償却、ないと言ふ條件でうけ入れたのです。彼は私に心配はしないやうにと頼みました。彼は人間中の最も派手な派手な私に金をうけとつて三日立ちません。今月二十七日の日曜に、十五日間クズネツクに立ちます。此短い時

日の中に、到着して、結婚式をあけることが出来るか如何か解りません。彼女は苦しんでゐるかも知れませんが、彼女は用意してゐないかも知れません。或は、まあ、私共が、こんなに短い間に、結婚を成立させて貰へないかも知れません。(こんなに澤山の式があるのです)。一口に言へば、私は非常に危険を冒してゐます。然し、私は危険を冒す外、仕方がありません。即ち、復活祭の後に延ばすことは出来ません。ある事情の爲に、延引する可能性は少しもありません。それですから斷乎として決心しなければなりません。それが成功する希望はあります。確固とした一切の時日には、物事が常に極るものです。然し、澤山の悲觀が私に起らんとしてゐます。その爲に、セミパラチンスタに歸つてくると、六百ルウブルに就いては、も早何物も残らないと言ふことになります。凡てのものは、非常に高く、非非に償してゐます。けれども、私が家具として、數個の椅子を買ふこともやつとのことです。非常に貧弱です。服装、負債、買物、舉式、それから、千五百ベルストの旅行をすること、それから、その爲に、彼女に住所を變へる爲に許さなければならぬ一切のこと、これで、金が無くなつて了ふのです。何故と言つて、我々二人で、凡てのことを整へるやうにしなければなりません。やつとのことで、椅子を買つたとしても、何にも残つてゐません。凡てのものを得なければなりませんから。私はモスコウの親戚に手紙を書きまして、六百ルウブルを頼みました。彼が送つてくれなければ、私は失はれて了ひます。私は少くとも、八ヶ月、即ち、私が本を出すことが出来るまで、不幸な人間として止むなく生活しなければなりません。今は私は狂人のやうに働いてゐます。私には澤山のなすべき仕事があるのです。そして、親愛なる友よ、此手紙は、夜の三時に書いてゐるのです。そして、明日、朝の七時に、私は起きなければなりません。少くとも、十五日の中に、私はあな

たに、詳細何も隠す所なく御返事しませう。今は、只、教語のみです。私は重要なことしか御返事しませう。……私はあなたの御手紙を下さつたことを無限に感謝致します。けれども、後生ですから、もつとし名宛で直接によこします。第二の手紙を待つことなく、此手紙に直ちに御返事を下さい。誰でも手紙を私の書いて下さい。あなたは私の兄のことを御話しになります。あなたが御交際にならないのを私は残念に思ひます。彼が私に便りをよこさずに、どれ程の間もたか、私には解りません。八月の中に、彼は私に二行書いてよこしました。そして、必要なことは決して書いてありません。彼は私に何を恐れてるますか。書くべき澤山のことがあります。書くことの出来ることが澤山あります。そして、私には報らせがたいのです。彼は文學のことを一言も書いてはくれません。けれども、文學は私のパンで、私の只一つの希望です。彼がせめて私の問ひに答へてくれればならぬ。例へば、私は、今日の文學雜誌經營者は誰であるかを知ること非常に必要を感じてゐます。私にとつて、其は非常に重大なことです。私には彼の心が解りません。彼がいろんな説明をしても、私は彼を理解することが出来ません。私は只一つのことを知つてゐます。彼は傑れた人物であると言ふことです。然し、彼はどうなることせう。私が書くのを怠けてゐるとあなたは仰います。さうではありません。我友よ、だが、私とM、D………との關係は、最近二年間、私を全く吸ひ込んで了ひました。少くとも、私は生きました。私は苦みました。私は公式に印刷の許可を請願したいと思ひます。助けて下さい。その時が來たら助けて下さい。此許可

の爲に、何か處置を講じて下さい。せめて、便りをしないで、私を打捨ておかないで下さい。ですから、私の境遇を理解して下さい。そして、今迄と同様に、私の保護者となつて下さい。

今迄、あなたの用事と、あなたの本とが、どこにあるか、私はしつかり解りませんでした。それがジエングロスの所にあるとあなたは断定される。私もさう思ひます。今は、それがオステルメイエの所にあるやうになつたのです。私はズミエフの所を通りませう。私はそれを調べてみませう。然し、それをあなたに送るに如何していいか私には解りません。何故と言つて、クルミットでは、皆が出發して了つたからです。今は餘りに遅いのです。

追伸、軍帽の爲に、頭の周圍をはかつたものが、この中にあります。親愛なるアレクサンドル・エゴロギツチ、私には全く是らのものが必要です。こゝでは、金のも銀のも、見つけることが出来ません。それから、今の形も知ることすら出来ません。私には、軍帽、帯、肩章、ボタンが必要で、——それ丈です。だが、それを見つけることが出来ないなら、何處でそれを見つけることが出来ませう。大至急其を送つて下さい。

我尊き友よ、あなたにまた大急ぎで書くことを許して下さい。私はあなたに凡てのことを書きませう、これから直きです。さようなら。あなたを接吻します。後生ですから、凡てのこと、殊にあなたのことをもつと詳細に、書いて送つて下さい。

同じ人に

一八五七年三月九日 セミバラチンスタにて

我が親愛の友にして兄弟なるアレクサンドル・エゴロギツチ、私が自分の室にゐるやうになつてから、十五日以上にあります。私が今、あなたに手紙を書き始めることが出来たのも、やつとのことです。此爲事が新しくなつた状態で、私がどの位、心配、困難、苦勞、非常な意外のことに出席つたか御存知だつたら、あなたに私が直ぐに手紙を書かなかつたことを慥か御許し下さるでせう。第一に、クスネツクに起つた所の私の結婚式(二月六日)と、セミバラチンスタの歸宅とは、私が豫期した以上の多くの日数を要しました。バルナウルで、私は發作を起して、更に四日間そこに止らなければなりませんでした。(發作は、私を肉體的にも精神的にこわして了ひました。醫者は本當の癲癇だと言ひました。もし、私が直接の方法、即ち規則的治療をとらなければ、即ち、それは完全に自由の身になつてのみなすことの出来るものですが、そうしなければ發作は悪い性質となるかも知れないこと、其發作の際、私が發作の時いつも起る咽喉痙攣の爲に、私は窒息するかも知れないと醫者は豫言しました。)

セミバラチンスタに着いて、設備の困難に襲はれました。それから、私の妻は病氣になりました。それから、旅團長が、一般檢閲の爲にやつて來た爲、あなたと兄にやる手紙を今日まで延しました。けれども、

あなたの善良な親愛な魅力ある手紙に、私は如何に早くお答へしやうと思つたこととせう。友よ、煩悶なすつてはいけません。絶望せられてはいけません。あなたが至る所で悲しんでゐられるのが私にはよく解ります。友よ、あなたの爲に最も私の心配する事は、あなたの御父さんとの關係です。私は知つて居ります。(私の經驗によつて、)私には解りますが、お二人とも、あなた方が愛し合つてゐられる丈それ丈一層此悲みは堪へ難い忍び難いものだと言ふことを私はよく知つて居ります。それは、兩方とも無限のある誤觀からくるのです。それが進めば進む程、それはこんがらかつてくるのです。それは何にもすべきことがありません。何らの説明も和解を成立させることが出来ません。もし、それが成立したとしても、ほんの一時的外はありません。そこに、只一つの救濟、只一つの方法しかありません。——それは別居することです。別居なさるや否や、あなたは、また父の心の中に食ひ入れませう。そして、あの方は、自分が凡べて悪るかつたと第一になさるでせう。あなたの御父さんのやうな性格は、最も暗い輕蔑と、病的な感受性と、寛大とが奇妙に混じて表はれるものです。個人的にその方を知りませんが、私はそう言ふ結論を得ました。何故と言つて、私の生涯に二度とも、正しくあなた達のやうな關係 見ました。そうですから、それをうまく始末しなければなりません。あなたは私よりよく御存知の筈です。親愛の友よ、斯う言ふことを御存知ですか、私にはあなたも同じやうな性格を御持ちになつてゐるように思はれます。あなたも病的な魂と心を持つて居られます。そして、掛念と輕蔑があなたの心の中に廣がらなかつたとしても、それはその機會がなかつたからです。即ち、それが餘りに早すぎた爲です。けれども、それは直ぐに廣がつてくることとせう。却つて、あなたの感受性は病的に廣がつてくるのです。それを謹むやうにしなさい。そ

れから逃れるやうにしないで。人生の大改革は、それを避けることにあるのです。私は極度までヒポコン
ドリーになつてゐます。然し、私の運命の荒々つい顛覆の爲に、それが治りました……

エフ・ドストイェフスキイ

兄、ミハエル・ドストイェフスキイに

一八五八年三月一日 セミバラチンスクにて

我が親愛の友のミイチャよ、私は取り急ぎ御返事を認めます。私の手紙の短いのを御許し下さい。此度は、私に暇がないのです。そして、此手紙の時に、二通の大きな手紙を送らなければなりません。それで、聞いて下さい。「子供の爲に書いた物語」の發表の御報らせは、私には餘り氣持がいゝものではありませんでした。私は久しい以前から、それを書き直さうよく訂正しやう、第一、何ら價值のない始めの全部を削除しやうと思つて居りました。だが、如何とも仕方がありません。それは印刷せられたのです。それを取り戻す方法はありません。のみならず、私はまだオチエストエンニャ・ザビスキの八月號を手に入れることが出来ません。人々はこゝでは其を受取つてゐます。私に送つてくれるやうに約束があるので、まだ手に這入りません。それです。私はまだ發表になつたのを讀むことが出来ません。

第二、我親愛の友のミイチャよ、あなたが私に對して兄弟として振舞はれないことが、私には非常に苦

しいのです。それは斯うです。私は自分を、クラエフスキイの債務者とも認めないのに、あなたは直ちに私に二百ルウブルを送らうとなさつたり、「それでも、私に借りなければならぬだらう。」など、付け加へて仰有つたりなさる。あなたは、私に對してこんな振舞ひをなすつて、恥しいとは思ひになりませんか。私があなたにあれ程借りがあるのに、また、あなたが御親切をもつて私を澤山満たして下さつた丈それ丈、あなたから、此二百ルウブルを要求するなどと、そんな心を私はもつてゐるのでせうか。あなたがらつしやらなければ、私の現在の生活のいろんな境遇にあつて如何していゝか私には解りませんでした。それです。から、こんなつまらないことを考へないで下さい。そして、「子供の爲に書いた物語」がK……との勅定上、あなたに必要であつたら、あなたの好きなやうにして下さい。K……氏は、莫大でもつて不思議な人で、私の定めたことは此通りです。

彼に斯う一語一語言つて下さい。

第一、私は彼に貨幣八百ルウブル以上は借りてゐません。でも、六百五十ルウブルは正しく借りてゐます。百五十ルウブルをそれに加へるのは、全く無用のことです。私は、自分の負債の額をよく覚えて居ります。のみならず、彼は無意識に間違つてゐるのだと私は信じて居ります。そして、彼が如何して間違つたか私には解りません。斯うです、彼が少しづつ私に金をくれた時に、いつも、私から、受取證（ポロ紙です）を要求しました。彼に著作物を何か持つて行つて、（私の借金を拂ふ者）私は決して受取證を渡しませんでした。そして、私の負債を拂ふ爲に、やつた所のものを、私は決して消したことがありませんでした。彼の手に残つてゐる所の受取證は、慥かに間違ひです。

第二、私は彼に六百五十ルウブル借りてゐることを認め、また、それを返へさうと思つてゐるにした所が、(私は心から返へさうと思つてゐます)それと共に、私から直ちに此六百五十ルウブルの返却の要求をうける権利を彼がもつてゐることを私は認めません。また、彼れ自身費用をかけて、私の論文の出版を要求する権利も認めません。

(A) 法律によれば、私は彼に何物も借りてはゐません。そして、私が負債を認め、それを拂はうと思つても、それは名譽の感情と、私自身の意志からです。

(B) 私がK……から金をとつたとしても、決して私は金で返へさうと約束しませんでした。それでなく、論文で返す筈なのです。私が彼に論文をもつてゆくの、彼は慥に金を私にくれたのです。一切他の事情では、彼は決して何物も私に與へませんでした。そして、事柄が十年間もつゞいた私の意志から離れて了つて、私は論文ですらも負債を拂ふことが出来ないやうになつたのですから、何の根拠があつて、彼は私に負債を要求するのでせう。

(C) 彼が今迄負債を要求しなかつたと自負しても、それは、彼が要求しても、それを得ることが出来なかつたと言ふ理由からで、彼の莫大な爲と其を認めることは如何しても出来ません。

(D) 彼が一人の人が他の人に對するやうに、私に申込み、法律に基いた考を願慮しないとしても、そ何にもならない事情の爲に、十年間、支拂ひを要求しても、私は斯う答へませう。(一)私は私の意志では如近い中に、支拂ふことは、此同じ境遇が、私を物質上不可能の地位におきます。(二)私は論文で返へすと

約束したので、金で返へすと約束したのではないことを御記憶願ひます。

(E) 此場合、彼が私は論文で返しても宜しい、彼が「子供の爲に書いた物語」を出版する権利をもつてゐると言つても、私は、私の意志ではどうにもならない同じ事情で、を以て答へませう。私は自分の財産を、私の氣に入るやうに處理する権利があり、他人の氣に入るやうには出来ないと思つてゐます。(二)人が未支拂ひの債務者に對するやうに、斯様な法律の權威をうけないでは、暴力で自分に支拂はせやうとすることは出来ないでせう。

(F) 最後に、最も重要なことです。「子供の爲に書いた物語」の價よりも、四倍も大なる金額をあなたから借りてゐる債務者と私は自分を認め、私はあなたの恩を蒙つた者と認めるので、私はあなたに永久の感謝を捧ぐるものなので……(譯者曰、此終りは消失せりと云ふ。)

〔餘白の中に〕

我共、私と妻とは、あなた達皆に、御挨拶申し上げます。殊に、エミリー・フィオドロヴナに宜しく。それから、何ですつて、兄上、あなたは寫眞を送ると自慢されましたが、我々は未だ何にも受取つてゐません。でも、我々は、非常に其を待ちがれてゐます。殊に妻がさうです。子供達を接吻して下さい。

もう一度申し上げます。此二百ルウブルは、どんな口實を以てしても、私に送らないで下さい。シユレンクに宜しく。人々はよく出會ふものですね。

ルスキイ・ギエストニクと我々の事件が何日終るか御報らせしませう。今、私は手紙を書きます。何日終るか私にもまだ解りません。私の境遇は危険です。私の唯一の希望は神にあります。もし、プレシユチエ

エフがチルウブルを借してくれたら、私は直ちにロシアに歸りませう。もし、それをくれなかつたら、本當に、私は如何していいか解りません。彼は約束しました。私は如何して彼に償却するか解つてゐます。さようなら、後生じすから、書いて下さい。

私は常にルスコエ・スロヂのことを考へてゐます。それに論文がのつて居りませう。のみならず、私は間もなく此事に就いて、あなたに書きませう。そして、私の計畫をあなたに御報らせませう。

同じ人に

一八五八年五月三十一日。セミパラチンスクにて。

親愛の友よ、第一便を以て、取り急ぎ、御返事を致します。私の手紙がそんなに遅れてあなたにとどいたことを非常に驚きました。けれども、私は書くのを怠けたのではありません。あなたが私のことを御心配なすつたならば、私もあなたのことを心配したと言ひます。殊に、此頃、あなたに何か起つて、あなたが殊によると病氣になつたのだと決めて了ひました。あなたの御損害(三千ルウブル)の報らせは私を非常に悲しませました。あなたが悲しんで居られるのは、金の損失ではなく、危険な境遇であるとあなたは仰つた。……否、兄上、矢張、金も惜しんでもいいのです。あなたの子供達は大きくなつたでせう、三千ルウブルは儲けるのに容易い金ではありません。それでは、それを償ふ何らの望みもありませんか。友よ、

私の委託と要求でわざ／＼したことのやうに、私が丁度そちらにゐたいと私は苦みました。だが、どうすることも出来ずまい。あなたは間もなく私に送ると御書きになつた。兄上、感謝致します。これが、私のあなたを苦しめる最後の時であることを望みます。私はあなたの送物を待ち、その時御答へしやうと思つてゐました。然し、小荷物は遅くなるかもしれない。あなたは、着物一着とズボン一つ送ると私に仰つた。私にはフロツクコオトの方がいいやうに思はれます。それは、いつも一層必要です。私は餘り金もつてゐませんが、こゝで、それを自分で整へ、注文しやうと思つてゐます。

友よ、あなたは書いたものをあなたに送るやうに仰有る。私にはもう記憶がありません(一般に、私の記憶は非常に悪くなつてゐます)。私は、カトコフ(ルスキイ・ギエストニク)と交際し始めたあなたに書いたか如何か覚えて居りません。そして、私は彼の雜誌に寄稿することを申し出でた一通の手紙を彼に書きました。彼が直ちに私に貨幣五百ルウブルを送つてくれるならば、今年中に一つの短篇を書く約束しました。此五百ルウブルは、一月或は五週間前に、私は受取つたのです非常に親切な情けある手紙が添へてありました。彼は私の寄稿を非常に嬉しいと思つてゐること、彼は直ちに私の頼みに應ずること、(五百ルウブル)を書き、どうぞ出来る丈身を苦めずに、メ切をきめずに、急がずに書くやうにと言ひました。それはすてきです。私はルスキイ・ギエストニクに、働きつゞけてゐます。(一大短篇)でも困つたことがあります。私はカトコフに、彼の公正に信頼すると書いて、一帖いくらと言ふ價の條件を定めませんでした。私はまた、ルスコエ・スラヴに、今年何か送らせませう。私はそれを希望します。だが、短篇で、長編ではありません。長篇に就いては、私はロシアに歸るまで、それに取りかゝらないでゐます。私は必要に迫

つてそれを作りました。思想は非常にいいものです。性格は新らしいもので、未だ現はれたことはありません。だが、殊に現今、凡ての人々に襲うてゐる思想と傾向から判断して、此性格は、今進んでゐる時代のロシアの實生活に、如何に廣く行き渡つてゐることとせう。私はロシアに歸つて、新奇な觀察で、小説を豊富にしやうと思つて居ります。親愛なる友よ、急いではいけません。よく書かなければいけません。兄上、私に恐らく野心があつて、何か非常にいいものを以て出現しやうとしてゐると御書きになつた。それですから、私は卵を孵化してゐるのです。それは斯様な風であるとして下さい。だが、私が長篇を以て出現しやうとするのを止め、殆ど可成にいい二つの短篇(神の御氣に召さんことを)を書いてから、私はその時は孵卵してのみ居りますまい。でも、友よ、繪は一度で描かれなければならぬなどと言ふあなたの理論は何と言ふものでせう。あなたはいつそんなことを御信じになりました。私を信じて下さい、至る所の勞作が必要です。巨大な勞作が必要です。ブウシユキンの軽い優美な數行の一つの詩は、全く一度で書かれました。何故と言つて、それはブウシユキンによつて長い間整理されて、修正されてゐたからです。斯う言ふことも事實です。ゴオゴルが、「死せる魂」を八年間で書いた。技巧で書かれたものは、何でも成熟して居りません。シエエクスピエの原稿は消し字がなかつたと噂されます。それですから、その中には、澤山の醜さ、趣味の缺乏があるのです。彼が勞作したならば、——尙一層よくなつたでせう。あなたは明かに、靈感、即ち、繪の瞬間的な第一創造、若しくは靈の運動(屢々起る所のもの)と、勞作とを混同してゐらつしやいます。例へば、さうすれば、私は一つの光景が現はれるや否や、直ちにそれを心に銘じます。私はそれを喜んでゐます。それから、數ヶ月、一年の間、私はそれを働かせます。私は幾度となく靈感を

うけます。只の一度ではありません。(何故と言つて此光景は私を喜ばせるからです)私は、恰もそれが私に起つたものゝやうに、幾度もあるものを付け加へたり、切り取つたりします。そして、私を信じて下さい、結果は非常にいいものです。靈感が来たならばです。慥かに靈感がなければ、何物も作ることは出来ません。

今は、實際、そちらでは、澤山金を出しますね。ビセムスキイはあの「多くの魂」で一帳、二百若しくは二百五十ルブル取りました。斯うすれば、人々は暮すことが出来、急がずに働くことが出来ませう。然し、ビセムスキイの小説をあなたはいゝと思はれますか。それはつまらないものです。其れは金ピカですけれども、矢張り凡作です。彼はそこに、今迄、決して書かれたことのない唯一の新しい創造された性格を見出したでせうか。久しい前から、我が革新的作家、殊にゴオゴルに於て、此凡ての性格は存在し、現はれてゐました。それは、新しき流行に並べられた古臭い問題です。それは、他人のモデルによる優れた模寫で、ベンゼニウト・セリン(譯者曰、十六世紀のフロレンスに生れた有名な伊太利寶石彫刻家。)のデッサンを真似したロシアの有名な寶石家サヂコフの仕事です。私はその二部しか讀まないと言ふのは事實です。雜誌は、こちらでは、非常に遅れて着きます。第二部の終りは、全く眞實らしからぬもので、全く悪くやつて了ひました。わざ／＼人を欺く所のカリノギツチは、——駄目です。作者が、前に披瀝した所によれば、カリノギツチは、自己犠牲をし、結婚を申込み、己れを名譽あるものとし、心の中に、偉大な魂をもつてゐなければならぬのです。そして、彼は人を欺かないと言ふことを信じてゐるのです。カリノギツチは、非常に自惚れをもつてゐるので、自分の爲、自分を卑怯者と見なす事を欲しません。慥かに彼は

凡てのものをもつてゐませう。彼はナステンカと夜を過します。それから、慥かに彼は彼女を欺くのでせう。然し、彼は、後に、必要に差し迫つて、そうするでせう。そして、慥に、彼は自ら自分を慰める所があり、斯様な境遇では、彼は同様に立派な振舞をしたと言ふのです。然し、カリノギツチは、自分の嘘偽を意識して、ナステンカと寝るので、——悪むべきもので、駄目です。でも、彼がいゝとすれば、それはもうカリノギツチではなくなつてゐます。然し、こんなつまらぬことは、是れで十分です。

友よ、私は辭職を待ちに待つてゐます。私は直ちにモスコウに住まうとは要求しません。だが、私は必要な形式に従つて、辭職願、『モスコウの地に、私は住居を持ちませう。』と、只、書いたに過ぎません。人が拒絶しやうとも、私は行きませう、けれども、どれ程の金をもつていせうか。私の短篇が終るまで、私は金を得ることが出来ません。私は二ヶ月間如何して暮しませうか、私には少しも解りません。——何故と言つて、二ヶ月の中に、私には金が無くなるのです。カトコフから送られた五百ルウブルは、借金を拂ふ爲めに、四百ルウブルに直ちに用ゐて了ひました。私は月に四十ルウブル費ひます。けれども、常に、臨時費があります。もう、一半も前から、私には絶えず臨時費が入つたのです。一年の終りに、私が仕事をして金をうけとる時、私はこゝで如何なるでせうか。然し、私は前借はしないでせう。私には解りません。私の頭は破れてゐます。私には誰も金を借りる人がないので。然し、私のことは餘り心配なさらないで下さい。凡てのものはうまく行くかも知れません。

プレシユチエフは、モスコウやベテルスブルグに行くでせう。彼は五月に行くに相違ありません。彼をよく款待し、彼の妻を知合になるやうに努めて下さい。私は今、ミリュウユフの送物(本)を受取りました。

ある將校が其を持つて来てくれました。然し、私はその將校に會ひませんでした。彼は多く来るでせう。ミリュウユフや他の人々に宜しく。親戚のものはどうなりました。ズレンカや、ギエロツチカはどうしてゐます。今迄、一言も、一言も言つて來ません。弟のアンドレイは何處にゐます。ニコラスは何處にゐます。さよなら。あなたを接吻します。エミリイ・フィオドロヅナに宜しく。子供達を接吻して下さい。私の妻はあなたの凡てに接吻します。さよなら。

あなたの

エフ・ドストイェフスキ

私が事務を受取り、辭職をきかれるや否や、私はまた書きませう。私の境遇をあなたに御報らせしませう。でも、後生ですから、長びくやうにしないで、手紙を書いて下さい。後生です。

同じ人に

一八五八年七月十九日。

非常に親愛な友にして兄弟のマイチャよ、あなたの五月五日の御手紙に、私は直ちに御返事しました。此手紙のなかで、あなたは就中、斯うおかきになりました。『今週か、來週に、お前に着物などを送るだらう……』その御送附の最後の期日は、五月十五日で、それ以上遅れないと言ふ意味です。少くとも、あ

あなたの手紙の意味を斯様に理解しなければなりません。親愛の人よ、今、あなたは、斯う決論されました。郵便は、ペテルスブルグから、普通セミバラチンスクまで、約、二十二日か二十五日でつく。私はあなたのことや、あなたの境遇や、あなたの仕事のことをどう考へるべきものでせうか。我友よ、殊に、私が心配してゐるのは、着物の到着の遅れたことではないことをよく御承知なすつて下さい。(私は一錢も持たないから、着物を買ふことが出来ませんから、例へ、全く此着物が私に如何に必要であるにしてもです。)

でも、着物なんぞ、どうなすつてもいいのです。

私が殊に必要としてゐるのは、あなたの事であること、あなた只一人であること、そして、今は、私の當然考へべきことも私にはもう考へられないと言ふことを、殊によく御承知なすつて下さい。あなたの最終の手紙には、事業がひどく困難してゐることを御書きなすつた。それがあなたの沈黙の原因ですか。我友よ、信じて下さい、私はあなたのことと苦しんでゐます。あなたは御達者ですか。あなたは生きてゐらつしやるのですか。私は少しも知りません。誰も書いてはよこしません。調も報らせてはくれません。モスコウから一行の手紙を受取らなくなつてから、もう一年以上になります。私は夜もすがら、あなたのこととを夢に見てゐます。私は恐しく不安です。私はあなたの御死になることを欲しない。愛する人よ、私は一生の中に、もう一度あなたに會つて、接吻したい。後生ですから、私を安心させて下さい。もし、あなたが御健康だつたら、後生ですから、凡ての用事、凡ての勞苦を差しおいて、直ちに、今、お手紙を下さい。そうでないと、私は氣が狂ひます。友よ、あなたは私の境況を理解なさなければいけません。もし、あなたが、着物を御送りなさることが出来なかつたら、其を送らないで下さい。(それがあなたに手紙を書

くことを妨げてゐるならば。)然し、あなたの手紙を書くのを妨げてゐるのは、それが理由だとは信じません。親愛の人よ、私を安心させて下さい。私は誓つて申します、私の不安は堪へ難いものなのです。

私は、私自身に關して、何にもあなたの慰めになることを申上げることが出来ません。私の辭職は、まだ許されません。(私が願ひ出て六ヶ月になります。何之かを遅れさせてゐるか私は想像することが出来ません。)私の健康は、よくありません。發作は時々起つて、辛い結果を残します。私には金がありません。誇張なしに言へば、數ルウブルが残つてゐる丈です。私には金を借りやうとする人がありません。昔私に金をくれた人は、もうこゝには居りません。プレシユチエフは、また去年、彼が遺産をつぐや否や、私に貨幣千ルウブル送ると約束しました。千ルウブルなくては、私がロシアに赴かんとして、シベリアを動くことは、絶対に出来ません。(凡てのものは、殆ど、約一コベックで算へられてゐます。)何故と言ふに、ロシアに着けば、始めの中は、何かにとりかゝることが出来ないからです。今、プレシユチエフは、六ヶ月間、モスコオとペテルスブルグで、休んでゐます。(妻と共に)彼はまたペテルスブルグに行くでせう。彼はあなたに會ひに行きませう、特に心を打ち明けて、詳細に讀んで下さい、第一、彼が私に千ルウブルを送つてくれるか如何か。第二、何日それを送つてくれるだらうか。ちやんとした返事をきいて、直ちに、全く打ち明けて、私に書いてよこして下さい。私はプレシユチエフの同情を疑ひません。然し、私は相續すると言ふことが何を意味するか、よく知つてゐます。人が六ヶ月の終りに手をふれることを望んでも、手をふれるのでは六ヶ月の終りになります。私は絶対に、生活の爲の金を、何處で見出していゝか解りません。あなたに私の小説をお送りするやうにと御言ひになりました。それを直ぐに賣つて、金を送ると言は

れました。然し、友よ、私は決して註文をうけては書きません。それは誓つてゐます。今、私は二つの短篇を書いてゐます。一つは大きいもので、ルスキイ・ギエストニクの爲です。(二重人格程のもの。) もう一つは約五帳程のもので、私から小説を期待してゐるスコエ・スロヂの爲めです。私は今年の終りにそれを渡しませう。私は長篇は止めた、何故と言ふに、私の判断する所によると、それは私の傑作となるだらうと思ひますから。私はそれを急いで駄目にしてふとは思ひません。のみならず、私は、ある調査をロシアに行つて自分でやりたいと思ふからです。ルスキイ・ギエストニクの爲の短篇は、部分部分ではいいのです。が、全體に渡ると、それは缺點があります。(餘りにだら／＼してゐます、私の癖でうま／＼所を切りつめなければなりません。) 多分、ルスコエ・スロヂでは、それはうま／＼行かないでせう。私は既にカトコフから、貨幣五百ルウブルの前借をしました。私の短篇(カトコフにやる)の中では、凡て十三章あります。(二帳一章です。) 八月十日に、私は、彼に確正し完成した七章を送りませう。そして、尙、貨幣六百ルウブルを恵みませう。彼はそれをくれまいと私は思つて居ります。でも、それは、私の絶望的な最後の試みです。あらゆるものは、今、我が情けある皇帝にかゝつてゐます。——彼が私を幸福になさうと思召されるなら、私にモスコウに行くことを許して下さいといふのです。今は、全く、私は病氣の手當をしては居りません。自分を病氣にすることより何物も容易いことはありません。私はモスコウの最もしる／＼醫者にかゝりたいと思つて居ります。その時、私は決心をきめませう。着物を御送り下さることが出来ないならば、——どうだつていいのです。——折りが悪るいのです。さようなら、友よ。妻があなたに宜しく。彼女は私を鼓舞してくれれます。でも、彼女は私と同様にあなたの

ことを心配してゐます。私はあなたの御家族をすべて接吻します。殊に、エミリー・フィオドロヴナに宜しく。さようなら、親愛の人、唯一の友よ。只一行お書きになればいいのですから、私を安心させて下さい。落ちつかせて下さい。お願いです。後生ですから、あなたが未來どんな出版をなさらうと思つて居られるのか書いてよして下さい。細々と書いて下さい。

此手紙のあなたの御返事を受取るまでは、毎日、毎時間、指折り數へてゐます。

ドストイェフスキイ

同じ人に

一八五九年四月十一日。セミバラチンスクにて。

我が親愛なる兄弟のミチャ、私はあなたにほんの二言文書きます。私は急いでゐます。私は此便で、カトコフに小説の四分の二を送ります。今迄、私はそれを終ることが出来ませんでした。私に殆ど夜中仕事をしました。私は早く起きました、私には暇がありませんでした。郵便馬車が立たうとしてゐます。十五日前に、クシユレフ(譯者曰、ベズボロドコ公爵にして、ルスコエ・スロヂ誌の編輯人なり。)から、千ルウブルと、賞讀に満ちた手紙とを受取りました。私は今迄あなたに御報らせませんでした。何故と言つて、私は始終あなたから手紙の來るのを待つてゐましたから。そして、私はあなたに一所に答へやうと思つて

みました。私の短篇で氣に入つたとあなたが喜びを表はして下つて、あなたはあなたの美しい魂を示して下さいました。然し、あなたは三月六日にお書きになつてゐるのです。あなたは私の短篇がもう發表され、それを送つて下さい。少くとも、私の短篇の載つてゐる部數丈は送つて下さい。私の勘定にしてそれを送つてくれるやうに、クシユレフに頼んで言つて下さい。

あなたが上着とチョッキを送つて下さると言ふ御約束を有難く思ひます。クシユレフからの千ルウブルから、あなたがその費用をお取りになるやうにと私は思ひました。今、私は、トゼルに行くあてのつくことを待つてゐます。

友よ、此千留の中から、六百ルウブルにしか残りません。それで私は旅をし、出發まで暮して行かなければなりません。だがそれは不可能で、それでは足りません。私はカトコフに尙、二百ルウブル送つてくれるやうに書きました。六月十五日まで彼が送つてくれるのを待つと言つてやりました。其時になると私はもう待つことが出来なくなつて、出發します。私はまた彼に一帳百ルウブルづゝと言つてやりました。彼の返事はどうでせうか。彼は怒つて、私の最近の手紙に答へませんでした。兄上、斯う言ふ關係を直接でなく、手紙で書くことは、如何に苦しいこととせう。

私がカトコフに送つた小説は、私の考では、「我が叔父の夢より」は遙かに優れてゐるのです。(譯者曰、「ステパンチコフ村及び人々」を言ふものならん。)そこには、今迄知られなかつた二人の眞面目な新しい性格があります。でも、私はどうしてその小説を終つたらいいでせうか。其は私を非常に困らせてゐます。

苦しませてゐます。(それは文字通りにです。)それは、ルスキイ・ギエストコフの八月號か九月號に發表されることを私は望んでゐます。

あなたから、直きに手紙の來ることと思つて居ります。あなたは凡てのことを、即ち、「我叔父の夢」に就いてなされる文學的批評を話して下さい。後生ですから、細々と書いて下さい。お願いです。

あなたは、プレシユチエフのことは何にも言つて下さいません。彼はモスコウに行つたでせうか、ザギアノフは屢々我々に會ひに來ます。彼は悪意のない善良な男です。私は彼を非常に愛してゐます。

あなたは、トゼルのことを御話になり、そこに二年間住まなければならぬと仰つた。でも、友よ、それは恐しいことです。反對に、私はモスコウに住居する許しを得んことを望んでゐます。トゼルに着くや否や、私は請願にとりかゝりませう。いいですか。何故と言つて、上からの命令では、人々は拒むことは出来ませんでした。でも、檢閲局では、モスコウに住むことを私に許すか如何かと言ふことが解らないので、その問題を解決するに、自分丈できめることは不可能だと、彼らは正しく斷言しました。そして、彼らは、第三段として、その解決をうる爲には、皇帝に請願するやうにと私に忠告してくれました。まだ、希望の光があります。九月八日は、皇太子大公の成年式が行はれるでせう。現皇帝の成年式を祝つた時には、政治犯に大赦がありました。皇帝が此の盛典に際して、我々のやうな哀れな不幸者を思ひ起され、凡てのものを御許しになることを疑ひません。此時分、(九月八日)モスコウに住居する許可を得る請願書を呈出しやうと思つてゐます。それで、トゼルにゐることは満足です。

さようなら。我が善良なミチャ、あなたと御家族皆を接吻します。妻があなたに宜しく。明日は復活祭です。キリストはよみがへられました！ 私の健康はいつも同じやうです。

あなたの

ドストイエフスキイ

私のボオルのことを氣をつけて下さい。

同じ人に

一八五九年五月九日。セミバラチンスクにて。

我が親愛の友のミチャ、私は最近の便で、あなたの八月八日の手紙を遂々受取りました。そして、あなたの御病氣に就いて、非常に苦しみ、驚きました。私の驚駭はまだ過ぎ去りません。私は、よく、発作が頗る危険なものになるかも知れぬと言ふことを知つてゐます。そして、あなたが御全快になつたことを報らせる手紙を受取らないと、私は氣が落ちつきません。神様が私を助けて下さるならば、私は六月十五日に旅に出ます。でも、其より前ではありません。また恐らくそれよりも非常に遅れることはありますまい。私の辭職は、三月十八日の勅令によつて、サン・ペテルスブルグで聽許せられたこと、その報らせがこゝに着いたばかりで、軍隊の要求に従ふ形式が終るまで、少くとも六月の始まで待たねばならぬこと、私は全

く自由の身となつたことを、既にあなたに申上げました。けれども、私が六月十五日に出發するならば、春になつて増加した爲めに、郵便が今は非常に緩漫になつてゐる、此手紙に對するあなたの御返事を受取ることが出来なくなりませう。それでも、あなたが私を愛してゐらつしやるなら、直ぐに御返事を下さい。(あなたの御健康に就いて詳細のことを。)あなたの御手紙をセミバラチンスクに直接あて下さい。私は、ボオルを幼年隊に入れる爲に、二三週間オムスクに過す必要があります。そして、あなたの御手紙は、セミバラチンスクから、私の後を追つてくるでせう。(注意。オムスクにあてないで、セミバラチンスクにあて下さい。)

我友のミチャ、あなたが死ぬのではないか、あなたにもう御目にかゝれますまいと、はつきり想像して私は心の中で尙恐怖を抱いてゐるのです。あゝ、私はあなたから、四行の手紙を受取ることが出来たならば！

友よ、あなたが、チョッキやシャツなどを御送り下さつたことを非常に感謝致します。然し、私はまだ受取つてゐません。あなたの手紙によると、あなたは三月の半ば頃に、すつかり送つて下つたことと思ひます。あなたの四月九日の手紙は八日以前に着きました。そして、三月の小包は、何處かに途中にひつかゝつてゐるのです。私には何にもそれが解りません。

私がクシユレフから金を受取つたことをあなたに報らせました。でも、私は彼から雜誌を受取つてゐません。私は恐らくこれから受取ることとせう。彼は私に金を返すと言つて來ました。恐らく、雜誌は同時に來ることとせう。

我友のミチャ、どうぞ、私の願を許して下さい。何にも隠さずに、あなたが私の小説で聞いた噂をすつかり書いてよこして下さい。即ち、人が只それを噂してゐるのみならば、どんな風に噂してゐるかと言ふことを。それは非常に私に關係あることを悟つて下さい。

此前の便で、私はクシユレフに手紙を書きました。彼の金を受取つたことを非難しなければなりません。私は彼に雑誌を読みました。彼の雑誌に寄稿することに就いては、彼は手紙の中に、私の次ぎの短篇を特に待ちに待つてゐると書いてよこしました。私は彼に、どうしても彼と會つて口頭で話さうと思ふと、書いてやりました。私は約二十五帖の一大長篇を書く目的であること私を、直ちに書き始めたいと非常に望んでゐる(その外に何にもない)こと、だが、ある事情の許に、それにとりかゝつてゐることは出来ないこと、此事情に就いて、彼と直接に話したいと思つてゐることを、私は説明しました。斯う言つて、私は何らの説明もなく、クシユレフの私の手紙を終わりました。然し、私は此事情が何であるか、あなたに説明しませう。第一、長篇を書くには、私に一年半を要します。第二、一年半で書くには、此間暮して行ける丈のものがが必要です。そして、私は何にも持たないのです。第三、スニャヤロフは長篇を書いて七千ルブル取つた、ツルゲネエフは、「貴族の家」を書いて、(私はとうとうそれを讀みました。それはいいものです。)カトコフ(私が一千ルブルを要求した)から四千ルブル、即ち、一千四百ルブルを受取つたと言ふやうな報らせを、あなたが絶えず私に御報らせになります。友よ、私がツルゲネエフよりも書き方が拙いと言ふことは、私にはよく解つてゐます。でも、それよりもそんなに拙づくはありません。そして、私は同様によく書かうと望んでゐます。でも、これ程、困つてゐる私が、百ルブルしか取らず、二百人

の農奴をもつてゐるツルゲネエフが、四百ルブルとると言ふのは、如何言ふ譯でせうか。貧困は私を急がせてゐます。金を得る爲に、書かせますその爲に慥かに悪くするやうになるのです。それですから、私はクシユレクと會つて、全くざつとばらんに、彼が一年前の期限を私に與へ、一帖三百ルブルと、私の仕事してゐる間、暮してゆける丈のものをくれるやうに、打ち明けて言はうと思ふのです。——即ち、三千ルブルの前借です。彼が同意したならば、私はおまけとして、來年、一帖半の小短篇をやらうと約束します。(來年の初です。)私は大きな短篇の爲に、澤山の事柄を持つてゐます。でも、小さい短篇には持つてゐません。然し、こゝで、新年に、私に起つて來た事柄にとりかゝつて、クシユレフの爲に、小短篇をこさへてやらうと望んでゐます。私の條件はつゞましいものですが、恐らく、あなたには、急に餘りに高くなつたやうに思はれるかも知れません。でも、友よ、凡べてこれは、あなたの御存知のないある事情に關してゐるのです。そして、此事情が、それから、「貧しき人々」に就いてあなたの問ひ合せに關係してゐるので、——あなたの迅速の返事を要求された問ひ合せに——私は直ちに「貧しき人々」のことに移りませう。

友よ、あなたは、それをクシユレフに賣らうと思つてゐらつしやいます。それは結構ですが、どうぞ、そうしないで下さい、何故と言つて、私は頭に他の考を浮べたのです。それは斯うです、私は今、カトコフの爲に小説を書き終へます。(それは長いのです、十四帖から十五帖です。)四分の三はもう送りました。其餘の分を六月の初旬までに送ります。いゝですかミイチャ、此小説は慥に大缺點を有してゐます。殊に、恐らく、餘りだら／＼してゐるかも知れません。然し、私は公理のやうに、あることを信じてゐます。そ

れは、同時に、大なる長所をもつてゐて、私の最もいゝ作物であると言ふことです。私は二年間、それを書きました。(途中で中絶しました。「叔父の夢」で。)始めと中頃は、念を入れてかきました。終りは急いで書きました。然し、そこに、私は、私の一切の心、一切の肉、一切の血を注ぎました。私はそれで、私の思想をもつてゐます。のみならず、その小説の中には、餘り感情が出てゐません。(即ち、例へば、「貴族の家」のやうな情熱です。)然し、その中には、二つの巨大な性格の型があり、それは私の五年間創造し、留意したもので、私は批難のうち所なく、仕事をしました。(私の考では。)ロシア文學で殆ど書れたことのない非常にロシア的な性格です。私はカトコフがそれを認めることが出来るか如何かは知りません。然し、公衆がそれを冷淡に迎へたなら、私は自白しますが、絶望します。私はそれに、私の最善の希望をかけてゐるのです。殊に、私は、文壇で自分の名を確立しやうと思つてゐます。今は、推理を試してみませう。私の小説は、今年、恐らく、九月に現はれるでせう。人々がその噂をし、それをよく言つたなら、私はそれを一帳三百ルウブルで、クシユレフに提供しやうと思ひます。「我が叔父の夢」の外に書くまいと言ふ作者も知れません。然し、私はそれに私の一切の希望をかけておくのです。さて、ルスキイ・ギエストニクの小説が成功したら、恐らく非常な成功をしたなら、その時は、「貧しき人々」を出版する代りに、私には新しい考があります。トゼルに着いて、あなたの助をかりて、いゝですが、兄上、——あなたは私をいつも助けて下さるので——來年の一月か二月頃、次ぎのやうな順序で、私の作物の二分冊を出版するので。

第一。第一冊、「貧しき人々」ネトツチカ・ネジゾフ(始めの六章を整理して。それは凡ての人々に喜ばれました。)
「白夜」子供の爲に書いた物語「クリスマスの樹と結婚式」凡て十八帳。第二冊、「ステパンチコフ村」(カトコフの小説)と、「我が叔父の夢」。第二冊は二十四帳です。注意、後になつて、「二重人格」を新しく檢べて、全く書き直して、出版してもいゝのです。それは第三冊目になります。然し、それはもつと書くのです。今は二冊文です。二千部の発行は、千五百ルウブルかゝり、それ以上にはなりません。一冊三ルウブルに賣つてもいゝのです。それですから、私が一年半の間に、一大長篇を書いたら、これらの本の逐次的な賣れ行きは、私の生活を保證し、金を與へてくれませう。また、三千若しくは二千五百ルウブルで、其發行權をクシユレフに賣つてもいゝのです。でも、いゝですか、今、御相談下さることは、全く不可能です。カトコフの小説が成功するのを待たなければなりません。それが私の一切の希望です。何故と言つて、此成功は、相談を容易ならしめるでせうから。

注意。——私はカトコフに、全十五帳を送ります。百ルウブルとすれば、それは千五百ルウブルとなります。私は彼から五百ルウブル取りました。それで、小説の四分の三送りましたから、旅行費として二百ルウブル請求しました。私はそれで七百ルウブル取りました。私はトゼルに金がなくなつて到着するでせう。然し、また、間もなく、カトコフから、七百又は八百ルウブル受取りませう。その時は、何でもありません。また歸つてもいゝのです。

ボオルが、全く除から撤せられたならば、彼の費用として、一年二百ルウブル、凡べて四百ルウブル償却しなければならぬと聞いて、私は全く驚きました。けれども、私はその金を何處からとりませう。そ

れは、私に取つて、不意打ちです。私は今、すっかりで六百ルウブル持つてゐます。カトコフの金と一所にして八百ルウブルになります。然し、馬車其他を買はなければならず、夏中に、四千エルスト旅行しなければならぬのです、それは最も金がかかります。(四頭、時としては、五頭の馬をつけます。)そして、私は此旅行の爲に、丁度しか金をもつてゐません。私はボオルの爲に、何をもつて金を拂ひませうか。さようなら、友よ、我が親しきミイチャ、幸福で、健在でゐらつしやい。そして、私に大急ぎであなたを接吻させて下さい。あなたの夫人に宜しく、子供達を接吻して下さい。私の手紙に、澤山書き落したことがあるかも知れません。でも、私は大變急いでゐるのです。私には用があります。さようなら。愛する人。ブレシユチエフに宜しく。彼は何故私に手紙をよこさないのです。私の金の請求を厭に思つてゐるのせうか。さうかも知れません。私の妻があなたに宜しく。私を思ひ出してゐる人々皆に宜しく。さようなら、友よ。

同じ人に

一八五九年九月十日 トエルにて

我が親愛なるミハエル、昨日あなたの御手紙を受取りましたが、非常に遅かつたので、それで、直ぐに私は御返事を出すことが出来ませんでした。

あなたの御手紙は、私に非常な喜びを與へました。何故と言ふに、第一、私が全く只一人ぼつちでゐるからです。第二、それが、私の豫期したよりも早く到着したからです。私は土曜の前に來やうとは思つてゐませんでした。あなたの御宅では、すっかりよくなつて、あなたが満足でゐられることを、あなたの爲に、私は非常に嬉しく思ひます。只、我々はいつ會ふことが出来るでせう。私は、トエルに居るのでありますが、矢張、旅をつゞけてゐるやうなものです。いつ運命が我々を結びつけるのでせうか。

私は、ドルゴルコフ宛の手紙をもつて、バラノフの家へ行きました。彼は私に援助することを約しました。(即ち、手紙を送ることです。)然し、彼は私に、此處置は今は無駄であると言ひました。何故と言つて、ドルゴルコフはベテルスブルグには居りませんから、そして、旅行をしてゐる間、彼は皇帝に接近することはありませんから、それで、彼は私に十月の半ばまで待つやうに、即ち、ベテルスブルグに公爵の歸るまで待つやうにと忠告しました。彼はその時手紙をもつてくるやうに私に頼みました。考へてみて、彼の言ふのは尤だと思ひました。一月の中に、公爵がベテルスブルグに來るならば、例へば、エドアルド・イヴノキツチ・トトレベンの紹介があつたりすれば、彼は直ぐに其ことをしてくれてせうから、それ丈いゝのです。斯うして、十一月一日に、私はあなたの家へ行きたいと思つてゐます。それで、待つてゐて下さい。あなたが、ヴランゲルのことを書いて下さつたことを、非常な喜びを以て讀みました。私は彼のことを知ることをご程、嬉しく思つてゐるのです。私から彼に宜しく。私が非常に彼に會ひたく思つてゐること、彼が、一日でもいゝから、トエルを通つてくれたら、非常にいゝと思つてゐると言つて下さい。私は近い中に彼に手紙を書きませう。

私はまた少ししたつて、エドアルド・イブノギツチに手紙をかきませう。マイコフに宜しく。私が彼を愛してゐること、私も彼を忘れぬこと、一日でもいゝから、彼が私に會ひに来てくれれば、非常にいゝと言つて下さい。私が非常に彼を待ちに待つてゐると言つて下さい。

私は妹達に手紙を書きました。あなたはネクラソフが家にゐなかつたと御書きになりました。でも、友よ、斯うです、もし、あなたが、十六日に彼に御會ひにならないと、原稿をおもちになつて遅れて了ふと言ふ危険があります。時日は過ぎて了ふでせう。彼らは十月號に他のものを載せませう。尙ほ、彼らがその原稿をよむといゝのです、あなたが、それを彼の所においてゐらつたか如何か、手紙を彼に御渡しになつたか如何か、あなたは私に書いて下さいませぬ。あなたがネクラソフに御會ひになつたら、十七日に書くとお約束なすつたのですね。あなたは儘に彼にお會ひになるでせう、それですから、私は今日あなたの手紙を非常にうれつたい思ひで待つてゐるのです。」

注意。ネクラソフとの關係に於て、凡ての詳細のこと、凡ての言葉を注意して下さい。後生、お願いですから、細々したことをすつかり書いて下さい。私にとつて、それは非常に興味あることです。ヴランゲルの子供のニコラスとあなたの猫を接吻して下さい。エミリオ・フィオドロヴナに宜しく。妻からもあなた達、凡てに宜しく。

私に就いては、此上つけ加へる事は何にもありません。私は未來を考へてゐます。私はどうして長篇にとりかゝらうかと考へてゐます。私は澤山の手紙を書かねばならぬことを悲しく思ひます。そして、私は公爵の手紙に就いて、非常に煩悶してゐます。私はズボン注文しました。(あなたの前ですが。)裁縫師は

それを悪くして了ひました。トエルでは、天氣が非常に悪いのです、恐ろしい倦怠です。

親愛の人よ、私はあなたのことを考へてゐます。さて、あなたは出立されました、私は、我々が未だ十分に理解し合はないことを知つてゐます。我々はよく解け合ひませんでした。否、兄上、我々は、落ちつかない生活でなく、あたりまいの生活をして、一所に暮さなければなりません。その時、我々は非常によく理解し合ひませう。私にはあなたの外にはありません。此十年間は、我々を離すやうなことはありませんでした。

あなたは御健康のことを何も御書きになりません。殊に、あなたにロゼンベルダが言つたことをです。どうぞ、彼に相談して下さい。

さようなら、友よ、あなたを吻します。

後生だから、書いて下さい。

あなたの

ドストイェフスキ

追伸。——我々が別れた時のあなたの御言葉を私は思ひ出してゐます、「手紙をかくやうに。」私はあなたに物語つた小説のことを考へてゐます。同時に、私の大長篇を残念に思ひます。

私は尙あなたに書くことが出来るかも知れないと信じてゐます。

あゝ、私が生活を保證する金を得ることが出来たら！

ヴランゲル男爵に

一八五九年九月廿二日 トエルにて

我が親愛なる友、アレクサンドル・エゴロキツチ、

我はあなたに手紙をあけやうとは思ひませんでした、でも、私は自分を抑へつけることが出来ません。實際、四年間の別離の後に何を書くことが出来ませう。第一に、再會しなければなりません。あなたが、私に會ひに御出でになる(私の兄の言ふ所によると)と言ふ考をお持ちになつたことを、私は如何に嬉しく思つたでせう。我が非常に親愛なる人よ、それが只一日丈でもいゝのです。我々は如何に澤山のことを話し合ふことが出来るでせう。

何故と言つて、地球を一周した人に取つて、鐵道で、ペテルスブルグから、トエルに來ることは、一些事に過ぎません。兄は、あなたが一度遠征に参加しやうと思つてゐらつしやると書きました。それは悪いことです。私に取つては非常に悪いことです。我々がペテルスブルグで會ふ時は、もう我々は別れく像出來るでせう。——少くとも、二日でも、數時間でもいゝのです。何故と言つて、我々は、澤山思ひ出すことがあるのですから。澤山の楽しい思出があるのです。夜十時頃、あなたの宿の外まであなたたる見送

つたのは、今の様な時ではなかつたでせうか。(あなたは覺えてゐらつしやいますか。)あなたの御生活は、今非常に複雑なものでありますが、我々は互に理解し合ふことが出来るでせうか。あの時は、我々は強く結びついてゐました。それでは、いらつしやい。我々がそんなに結び合ふ時は、過去の事を話させう。私が今去ると言ふ間に、私に親しいものとなつたシベリアのことや、カザコフの園や(覺えてゐらつしやいますか。豌豆や、野菜園の外の植物や、屢々私の行つた楽しいズメイノゴレフや、バルナウルのことや、……)いろいろなことをすつかり。そして、あなたは、あれ以來のあなたの御生活を少し私に話して下さるでせう。我々は再び結びつきませう、そして、我々は、尙もつと楽しい思出を語る用意をさせう。我々は、老人になつても、我々の生活を思ひ起すことが出来ませう。

今、あなたは何をなさらうと思つてゐらつしやいますか。何を期待してゐらつしやる、あなたの希望は何ですか。あなたのお父さんや御家族はどうになりました。KH……に代つたものは誰ですか。KH……がペテルスブルグに居つて、あなたに幾らか感化を及ぼしたとすれば、矛盾です、私はそんなことを掛念する程の馬鹿者です。

『花は秋が過ぎれば咲きません。』——私はあなたから、あなたに關する凡てのことを、詳細にききたいと思ふ。私はまたあなたが何か書いておよこしになることを望んでゐます。もし、あなたが私のことを御聞きになつたならば、私はあなたに何と言ひませう。私は家庭の心配を負うてゐます、それをずるく引きすつてゐます。でも、私は、私の生涯がまだ終つたものとは思ひません。そして、死ぬことを欲しません。私の病氣は隨に同じ程度で、悪くもなければ、よくもなりません。私は醫者にかかりたいと思つ

て居ります。然し、これから、サン・ペテルスブルグに居るやうになれば、治療はうけないでせう。馬鹿者に如何して係りあつてゐられませう。今、私はトエルに押し込められてゐます。そして、こゝはセミバラチンスクよりも一層悪るいのです。セミバラチンスクは此頃、全く變つたにも係らず、(そこには只一人の同情のある人間も居りません、只一つの楽しい思い出もありません。——トエルは、千倍も悪るいのです。暗くて、冷たくて、家屋は石造で、何らの運動も、何らの興味もありません。——) 適當な圖書館すらありません。それは眞の牢獄です。私はこゝを出来る丈早く退去したいと思つて居ります。然し、私の境遇は非常に不思議なものです。私は久しい前から、自分を特赦されたものと思つて居ります。二年前、特別な勅旨によつて、世襲的貴族の権利をとりかへしました。けれども、公式の請願書(ペテルスブルグに住むと言ふ)なくては、ペテルスブルグやモスコウに這入ることが出来ないことを私は知つてゐます。一月前にそれを願も出なければなりません。そして、今は、ドルゴルフ公爵は不在です。私は一通の手紙をドルゴルフに書きました。私はこの手紙をもつて、バラノフ伯爵(我々の知事)の所に行きました。そして、彼に其を公爵に渡してくれるやうに頼みました。バラノフはそれを約しましたが、斯う言ひました。——公爵が歸るだらうから、前にそんなことを考へるに及ばない。公爵は十月半ばに歸つてくる。それで、その時まで待つて、何にも企てゝはいけない。勿論、私の請願は聽許せられると、もう信じて居ります。前例にそふ言ふ人がありました。我々の中の多くのものは、ペテルスブルグに行つて居ります。のみならず、皇帝は無限に善良で寛大なのです。それから、私は慥に、よく注意されてゐました。でも、私の恐れることは斯うです、其事件は延引して、私はまだトエルに残らなければならぬだらう。それですか

ら、私は、エドアルド・イヴノギツチ(譯者曰、トトレベン將軍のこと。)に手紙をやることを思ひ立ちました。私は彼に書きませう、私は彼に、ドルゴルフ公爵に手紙をかき、私のことを話してくれるやうに願ひませう。そこで、後者の人は、彼に對する尊敬から、事件を延引せしめず、形式を略してくれませう。私はまた、エドアルド・イヴノギツチに、バラノフルに手紙を書いて頂くやう願はうと思ひます。——こゝでもまた、事件を延引せしめな、爲です。でも、また私は躊躇してしてゐます。エドアルド・イヴノギツチは公爵とどう言ふ關係になつてゐるのでせう、彼は、我々の伯爵を知つてゐるでせうか。斯様な處置は恐らく彼には不快なものでせう、彼は既に私の爲に、澤山のことをしてくれました。私はあなたの手からエドアルド・イヴノギツチに手紙を送らうと思つてゐます。(只、彼がペテルスブルグに居ると書いてよこしましく會つて話して下されば、その方がいゝのだが。だが、兄はエドアルトガリガが居ると書いてよこしました。)そこで、友よ、私に助言をして下さい。私は非常にあなたを信賴してゐます。エドアルド・イヴノギツチが間もなく歸るに相違ないならば、あなたが私をお見すてにはならないことを望みます。私はいつ手紙を書かねばならぬか知りません。あなたはどうか御考へですか。何か私に言つて下さい、私は全くあなたの助言に従ひませう。

さて、他の事を申上げませう。私はシベリアから持つて來たあなたの本を澤山持つてゐます。あなたの信書二包もと、毛氈もあります。あなたに凡てのものを御送りしなければなりません。二年前にあなたに送つて上げた本の若干をあなたはもう御受取になつたことと思ひます。(地理學協會員セメノフの手で。)慥かにセマシユコの著作でした。あなたの御本は可なりいゝものです。で、あなたの御思召はどうか書いて

下さい。

さて、暫くの中、今はこれで十分です。こんどはあなたの事です。あなたが兄に會ひに行かれたと兄が書いてよこした時は、私は非常に嬉しく思ひました。私はどうしても、ベテルスブルグであなたを探し出すやうにと、兄に頼んだのでした。

マリア・ドミトリエヴナと私は、此三年の間、いつも非常な樂みで、あなたのことを屢々思ひ出ししました。彼女はあなたにお會ひしたいと思つて居りました。彼女はいつも苦しんでゐます。さようなら、あなたを接吻します。

あなたの

ドストイエフスキイ

この郵便局は、非常に悪く、不規則で、安心がならないので、私は此手紙を書留にしやうと思ひました。けれども、恐らく、此手紙は着くでせう。私の手紙を三日とめられてゐたことがありました。兄は十六日に手紙をよこして、それから、よこさなくなりました。もう二十二日です。彼はどうなつてゐるのでせう。病氣なのでせうか。彼の手紙を待ちに待つてゐます。私は心配です。

兄、ミハエル・ドストイエフスキイに

一八五九年十月一日 トエルにて

我が親愛なるミハエル、私が咎め立てをした手紙を送つた後で、昨日、あなたの御手紙を受取りました。私は、あなたの報らせを受取らないので、全く勇氣を失ひました。それですから、將來、あなたが私に何にも話すことがないならば、只、新しいことは何にもないと丈でも御書き下さるやうに御願ひします。私の苦しい状態を増さしめるやうな不安の中に、私の出る出口のないやうな風に、私をおかないで下さい。あなたが私の手紙を読んで御怒りにならないことを望みます。友よ、怒らないで下さい。もつとしげくと書いて下さい。

私はあなたの御手紙が私をびつくりさせたことを自白します。ネクラソフは何をしてゐますか。彼らは餘りに傲慢になつたのではないのですか。恐らく、彼はまだ讀まなかつたのでせうか。ネクラフがカルタ遊びに夢中になつてゐると言ふ噂を聞いたことがあります。バナイエフは、雑誌の外に仕事があります。チエルニシエフスキイとドロクエボフの外にゐないならば、凡てのものは没落して了ふでせう。あなたは待つた方がいゝ、そうすりや、一層好都會となるだらうと仰つた。だが、友よ、もう、十分長い間待ちました。それですから、あなたにネクラソフの所へ行つて下さるやう御願ひしたのです。(私はあなたに懇願

致します。彼の家へ行つて會ふやうにして下さい。(それが大切です。)そして、あなた御自分で彼が小説に與へた運命に就いて御話し下さい。殊に小説を二若しくは三分冊としたか如何かを知るやうにつとめて下さい。彼らは小説に就いて、どんな觀察をしたのでせう——そして、それをすつかり話した後で、終りになつて、金のことを話してもいいのです。どうぞ、後生、さうして下さい。彼の最後の言葉を知るやうにつとめて下さい。あなたが御自分でお出でにならなければ、殊に彼はカルタ遊びをしてゐるのなら、あなたの家へは決して來ないかも知れません。私はあなたを頼りにしてゐます。

さて、親愛の人よ、とくと考へた後に、私が決心したことをあなたに御話しやうと思ひます。斯うです。私は長篇を書き始めやうと思ひます。(一大著作です——決定しました。——私は一年の間書きませう。私は急がうと欲しません。それは、私の頭の中で非常によく組み立てられてゐるので、締切をきめて急いで書いて、それを損ふことは出來ないので。私は自由に書きたいと思ひます。それは觀念小説です、それは私の名聲を作るでせう。然し、書く爲には、生活の保證を持たなければなりません。前借は自殺です。それは、恐らく、百五十か二百とれるのに、百か百二十を取るやうな譯となります。私は自分で裁判官となりませう、そして、小説が成功すれば、私は自分で價をきめませう。そう言ふ譯ですから、前に賣ることとを欲しません。書き、生活の方法を得なければなりません。然し、こゝに問題があります。少くとも一年、斯う言ふ方法をとる爲に、何處で金を取りませうか。とくと考へて、私は前の私の作物を出版すること、人が私に澤山金をくれなければ、それを賣らずに、自費で出版することに、固く決心をきめました。然し、人々は多くはくれないうでせう。いゝですか、此發行は徐々として賣れるとして御覽なさい。然し、

それは私にとつて、何の意味をもなしません。私は月に百二十か百五十ルウブル必要なのです。あなたは御尋ねになります何處から出版の費用をうるかと。私の思ふ所は斯うです、始めに見てを皆出版せず、一冊、一冊と全部で三冊にすること。第一冊には、「貧しき人々」、「ネットツチカ・ネズグノヅ」(二部)、「白夜」(子供の爲に書いた物語)「クリスマスツツの樹と結婚」、「正直の泥棒」(訂正して)「嫉妬せる夫」。綺麗な印刷にして、全部で約二十三帳。第二冊、「二重人格」(全部檢閲して)と「我叔父の夢」。第三冊、「ステパンチコチ村」。私は第一冊が、か成り早くなくなるだらうと思ひます。然し、少し訂正しなければなりません。「貧しき人々」は第二部は訂正しなくてもいいのですが、第一部は、少し調べてみて、訂正しなければなりません。その爲に、御願ひですから、第一部の他の短篇を、ちやんと集めるやうに私を助けて下さい。「ネットツチカ・ネズグノヅ」のやうな或る物は、恐らくあなたの所にあります。他のものは探し出さなければなりません。出來る丈早く、手間とらずに、マイコフか、ミリウコフか、他の人々の所で、探し出さなければなりません。彼らに私から宜しくと言つて下さい。是らのものを含む本から、是らを抜き取ることを許してくれるやう丁寧に頼んで下さい。彼らがそれを私に與へたなら、出來る丈早く送つて下さい。私はその印刷物を直して、直ぐに、あなたに廻送ませう。十月の末に我々が凡てを終り、あなたが凡ての足らの短篇を直して下されば、十一月一日に凡てを檢閲に附することが出來ませう。檢閲が十二月一日までかゝるとして御覽なさい。そこで、第一冊を十二月一日から印刷することが出來ます。何處から金をとりますか。然し、斯うです、私はまたあなたに御願ひします、第一冊の爲に必要な紙数を商人から取つて、六ヶ月若しくは其以内の借用書をあなたからやつて下さい。それは約三百ルウブルか、それより

殆ど上にはなりません。誓つて言ひます、親愛なるミハエル兄、あなたがやる(私の爲に)借用書は、私が拂ひます。本が不成功で紙代さへも拂へなかつたら、私はそれでも金を得ることが出来、期限までに借て纏めることが出来なければ、私は金の半分をやつて、他の半分を或人から借りませう、(サアシエンカから借りることは出来ませうか)斯うして、印刷は、一月半頃に終り、それから、賣り捌きます。私は第一冊は、慥かな結果を生むだらうと信じて居ります。第一、その著作集はいゝ出来のもので、第二、私の名で出します。第三、それは興味ある名です、第四、ソヴレメンニクの小説が成功したら、他のものも同様ですから。けれども、十二月の半頃になつて、「二重人格」を訂正して、あなたに送りませう、(若しくは私自分で持つて行きませう)兄上、序文を附した此訂正は、新しい小説と同じやうになることを信じて下さい。彼らは、「二重人格」とは斯う言ふものであるかと、遂に解るやうになりませう。私は大きな興味を喚起することを望みます。一口に言へば、私はあらゆる人々に挑戦します。(さて、今、「二重人格」を訂正しなかつたならば、何日それを訂正することが出来ませう。私が第一に發見し、私が創造者である所のすばらしい觀念、その社會的重要によつて出来た大性格を、何故私は失ふのですか)それで、斯うして、十二月に、「二重人格」と、「我が叔父の夢」が檢閲に出ます。一月に印刷し、二月の終りに、第二冊を出版せしめ、次ぎに、殆ど同時に、第三冊、「ステパンチコチ村」を出すことが出来ませう。金は、信用借、若しくは、第一冊の分で、拂はなければなりません。それから、正しく、後の二冊を賣り出すことが出来ませう、(第一冊の成功でもつて)斯うして出版費を拂ひます。そして、暫く、私は、

ソヴレメンクからの金を生活の代とします。それから、發行書の費用が濟み、それが、靜かに賣れて行くならば、私ではどうでもいゝことになります。何故と言つて、私は、そんなに賣れ行が速くなつても生活するに十分な文はあるのですから。そして、此時に、十二月からでも、眞面目に、一大長篇を書き始めませう。それは、あゝ、一年の中に、成功して、また、著作集の他の本をも賣らせることになりませう。それですから、爲すべき第一歩は、斯うです。あなたの御意見はどうか、すぐに返事をよこして下さい。そして、それが出来るならば、直ぐに、訂正の爲に、第一冊の小説の雜誌を送つて下さい。友よ、あなたの御返事が手間どるならば、私の時は失はれると言ふことを御承知下さい。私は決定的な決心をとらない中は、即ち、あなたが承諾か否か、私を助けて下さるか如何か仰らない中は、何にもしないでせう、(私は何もすることは出来ません)後生ですから、早く御返事を下さい。マイコフは來ませんでした。私はヴランゲルから一通の手紙をうけとりました。ゴロギンスキイはこゝに居ります。そして彼はすぐに、此處の社交界に私を紹介しました。私は凡ての人々と交際しやうとは思ひません。然し、ある人々との交際を避けることは困難です。地方では、何處へも身を隠すことは出来ません。それはいくらか私には苦しいのです。二三人面白い人が居ります。私はバラノフと伯爵夫人とに非常に接近して居ります。彼女は、幾度も、儀式ぶらずに、家の夜會に来るやうにと私を親切にすゝめてくれます。彼らを訪問しないと云ふことは私には不可能です。私は彼女を既に少し見知つてゐることが解りました。十二年前、彼女が未だ少女で、ヴシルチコフ嬢であつた時、ソログブが私を紹介したのでした。マリヤ・ドミトリエヴナがあなたに宜しく。私は心からあなたを接吻します。トエルから逃けることが出

來れば、非常に幸福となりませう。

今、トゼルでは、人々が、私の書く邪魔をしてゐます。後生ですから、友よ、返事をして下さい。さうなら、あなたを強く接吻します。皆様に宜しく。あなたの御健康を尊い財産のやうに大切にして下さい。エミリー・フィオドロヴナや、ニコラスやサアシャに宜しく。度々書いて下さい。ネクラソフから金を得るやうにとめなくてはいいけません。第一はあなたの爲、そして、また私の爲めに。

同じ人に

一八五九年十月二日 トゼルにて

親愛なる兄上、

私は更にあなたに手紙を書き、後生ですから、ネクラソフの所へ行つて下さいとお願ひします。彼に會ふやうにとめて、私との事件を極りをつけて下さい。私は金が必要です、非常に必要です。そして、私の計算による金額は、五百ルウブルに上つてゐます。彼は印刷紙十帳で、前借で千二百ルウブルくれると約束しました。その中の七百ルウブルはあなたの爲めで、五百ルウブルは私の爲めです。今私は此五百ルウブルを非常に必要としてゐます。親愛の人よ、私のあてにすることの出来る只一つのことを拒まないで下さい。御願ひです、私の境遇のきまりをつけて下さい。

私は、私の作物に就て昨日あなたに書きました。此思ひつきを考へて下さい。後生です、助けて下さい。あなた只一人が私を助けることが出来るのです。あなたが少し御働きになると、凡てはまとまるのです。私の今の状態は苦しく、悪く、ひどいものです。心がひからびてゐます。私の災害はいつ終りを告げるでせうか。神は、あなた達皆を接吻し、新しいよりよき生活に私を鍛へて下さることがあり得るでせうか。私は今自分の生活のことは話しますまい。私は只、もう一度ネクラソフのことを御記憶になるやう、出来る丈早く彼と極りをつけて下さるやう御願する爲に二言書くのです。後生ですから、さうして、直ちに其結果を私に報らせて下さい。それまで、私は恐ろしく不安でせう。さうなら、親愛の友よ、私の凡ての希望はあなたにかゝつてゐます。出来る丈早く、私を安心させて下さい。

あなたの

エフ・ドストイエフスキ

追伸、——私はあなたの昨日の手紙を受取りました。短篇について有難う。然し、ネクラソフのことは何にも書いてないと、不幸です。後生ですから、時期を失はないで下さい。其は重大事です。長びかしてはいけません。五百ルウブルは、私に非常な必要です。後生です、急いで下さい。ヴランゲルと、エドアルド・イブノギツチに手紙を書きませう。あなたは私を思つて下さいますね。ありがたう。私にとつて、あなたが如何に尊いかは、御存知の筈です。私は凡てのものを差しおいて、あなたの所に行きませう。返事して下さい、大至急御願ひです、私にはあなたの外にはありません。

ヴランゲル男爵に

一八五九年十月四日 トゾルにて

我が尊き友のアレクサンドル・エゴロギッチ、三日前、あなたの面白い手紙を受取りました。私は直ちに御返事をしやうと思ひましたが、エドアルド・イヴノギッチにやる手紙や何かあつて書けませんでした。私は今大急ぎで書いてみます。

第一、用事をのべませう。

此中にある一通の手紙はエドアルド・イヴノギッチにやるものです。それを讀み、封をして、宛名をかき、出来るならば、エドアルド・イヴノギッチに直接に御渡し下さい。凡てそのことはあなたに信頼してります。私の支持者となり、私の爲に、とりもつて下さい。トゾルの私の境遇は非常に悪いのです。私はこゝで、少し交際をしてみます。就中、バラノフ伯爵(知事)とです。伯爵夫人は魅力のある婦人で、(ワシルチコフ家に生れました)彼女が少女である時分、サン・ペテルスブルグの其の親戚のソログラフ方で、私があつたことのあるのです。それは彼女自身で私に言つたことなんです。其時、彼女はもう私の氣に入りました。然し、こんな交際があるにも係らず、こゝの住居は、私には堪へ難いものです。私がエドアルド・イヴ

ノギッチに書いたことは、凡て本當です。私は精神的にも肉體的にも苦しんでります。そして、私の事件は危くなつてゐます。……私が親愛のアレクサンドル・エゴロギッチ、それですから、私の凡ての希望はあなたにかゝつてゐるのです。あなたが手紙を御渡しになる時、彼が如何に受取るか、何と言ふか、後生ですから、報らせて下さい。

此冬の間、あなたがベテルスブルグに御住ひになると言ふ報せは、私を非常に喜ばせました。慥かに、我々は、我々の思出を話したり、一所にしたりする時がありませう。やがて、此時は来るでせう、私はいつまでも苦しんでゐないでせう。KHがやり始めることになつたと言ふ報せは、私に少し不安を抱かせないこととせう。そして、過ぎ去つたことは歸つて来ません。此の女はそれを知るに違ひないでせう。それから、年齢と言ふことがあります。彼女は、慥かに、あなたを引きつけることに凡ての興味を持つてゐます。ですが、あなたの爲には、興味がないでせう。あなたは私に他の人のことを御話しになつた、苦しい境遇を御話しになつた。あなたの仰つたことは、實際、あまり愉快なことではありません。私は詳細のことを知りたいと思ひます。だが、慥かに、手紙ではいけないのです。手紙は何物も説明することが出来ません。親愛の人よ、此頃、私があなたのことを考へてゐる丈によると、あなたは心の中ではいつも同じ人であるやうに思はれます。それは、いゝことですが、また悪いことです。あなたが二年前、旅にお出でになつた時、私はあなたの爲に非常に嬉しく思つてゐました。私はそれがあなたをいゝやうにするだらう、あなたを變化せしめるだらうと信じてゐました。それはあなたのお父さんとの仲がよくなるだらう

と嬉しく思つてゐました。それは、最も重大なことで、それを、するぶん、するぶん、味つてみなければならぬことを、あなたは御存知ですか。あなたは、自分の身を組み立てる必要があると御書きになつた。だが、あなたの御父さんの事件は、まだ終らないのですか。あゝ、あなたの御境遇は何と云ふ辛いこととせう。最も穩便に、其問題を解決しなければなりません。それが私の意見です。更に、我々は、そのことを澤山話させう。心を開いて、語りませう。あなたは私の友情のことを仰るのは尤です。誰も、あなたに對して、私以上に、幸福を望むものは決してないでせう。あなたの御姉妹はどうしてゐらつしやいますか。私はあなたの私事の手紙を封をしないもの二包もつてゐます。いゝですか、私は決して少しも讀みは致しません。

もし、私のベテルスブルグに行くことを許されたら、私は始め、只一人で、妻を連れずに行き、兄の家に宿りませう。私はベテルスブルグに八日宿りませう。私は一つの部屋を借り、凡てを設備し、そこで、妻と、心配してやらなくてはならぬボオルとを連れて行きませう。此子は何處に入れるか、だが、出來うべくんば、どこが一番やさしいかどこに最もよく、最も早く這入れるか、手紙に書いて下さい。私に助言をして下さい。時に、あなたの後で、シベリアの我々の居る所に來たベートル・ペトロギッチ・セメノフを御存知ですか。——彼は私の傑れた友です。それは、優れた人物です、そして、彼は同僚に會はなければなりません。あなたが彼と御知り會ひなら、私から宜しくと言つて下さい。私のことを御話し下さい。▼リア・ドミトリエヅナがあなたに宜しく。彼女が屢々あなたの噂してゐることを、私は既に書きました。あなたの御肖像は常に我々のテーブルの上にあります。さようなら、尊き友よ、兄に會ひに行つて下さい。

あなたを接吻します。あなたの友のことを思つてゐて下さい。書いて下さい。

エフ・ドストイエフスキイ

兄、ミハエル・ドストイエフスキイに

一八五九年十月十一日 トエルにて

我が善良なミチャ、あなたの十月九日の手紙を受取りました。私はすぐに御返事を認めます。私は非常に心配してゐます。あなたは私の手紙を受取られましたか、(大形二帖のもの)あなたはそれを昨日受取られたに相違ありません。私は九日にそれを書きました。發送の日付によると、それは、十日にベテルスブルグを出たに相違ありません。それで、如何して望みを失はねばならぬのでせう。私はあなたがそれを受取られたことと思ひます。あなたは私が怒つてゐないこと、斯様な矛盾の影のないことを御存知の筈です。親愛なる人よ、私があなたに對して怒ると言ふのですか。然し、用事にとりかゝりませう。

私の長い手紙で、あなたは、私の凡ての希望、凡ての説明を御知りになつたに相違ありません。今、事件はクラエフスキイに關係してゐます。それは、重大な事柄です。あなたは私に價をおきゝになります。そして、此事に就いて、私の最後の言葉は斯うです。小説に用ゆる雜誌の普通の印刷で、一帖、百二十ルウブル、それよりも一コベツクも下ではいけません。然し、それが一とまとめにするとすれば、——別物

となります。此場合には、私は千七百ルウブルでクラエフスキイに賣る全權をあなたに委ねます。それより少くは一コベックでもいけません。そして、尙、彼が、近い中に現金で、千ルウブル與へるならばです。(即ち、現金、千七百ルウブルを請求し、主張しなければいけません。金とひきかへでなければ、原稿を渡さぬこと。検閲に就いては、疑の影をさしはさむことは出来ません。一點でも抹殺するやうなことはありません。まい。)クラエフスキイが今年印刷しやうと思ふならば、現金千ルウブルを取り、印刷に附して後七百ルウブルを取つてもいいのです。もし、それが來年の始であるならば、現金千七百ルウブルで、一コベックも少くはいけません。

後生ですから、クラエフスキイに、私が一帖百二十ルウブルと計算したならば、十五ルウブルで、千八百ルウブルとなり、私はそこで百ルウブル損をすると言ふことを説明して下さい。そして、私は、慥かに、もつと多くの帖數になるだらうと思つてゐます。それで、彼に取つて、千七百ルウブルで買ふことは有利となるのです。

もし、スギエトツチが、二千五百ルウブル(「ステパンチコチ村」の爲に)くれるならば、いいですか、受け入れてやらねばなりません。これよりうまい話はありません。只一人の豫約者がなくても、必ず二千五百ルウブルです。そして、他の雜誌に、私の作物の價を定むることが出来ませう、即ち、直ちに、躊躇なく私に二千五百ルウブルもつてくることの出来る物に就いては、二千若しくは千八百ルウブルよりも少く人々は出さないやうになることです。更に、私は來年、尙二つの物を印刷に附するかも知れません、「死人の家」と一大小説の第一挿話です。それはソヴレメンニクに載せるでせう。彼らがそれを載せないことは

ないでせう、私は勸められなければ、それを彼らに送りますまい。「死人の家」は、就中、羊頭などは掲げてありません。雜誌の始めの號(一月)に斯様な題は、如何に好奇心を呼び起すか、彼らは悟ることが出来ませう。私に一帖二百ルウブルくれるならば、私はそれを雜誌にのせませう。そうでなければ、駄目です。我が親愛のミチャ、私が二百ルウブルも要求して、「死人の家」に増長したり、誇つたりしてゐると考へないで下さい。そんなことは少しもありません。然し、私はその作物の興味と重大なことをよく知つてゐます。そして、私はそれを駄目にすることを欲しません。此の作と次ぎの小説(人々は、既に、私がそれを書いてゐると報らせて、巧にその噂をしてゐるかも知れません。)とで、オチエストゼンニヤ。ザビスキとソヴレメンニクとを沈黙せしめることが出来ませう。「ステパンチコチ村」を彼らに渡してやらなかつたので、(新しい寄稿者を得る望みを起して)雜誌で私の悪口を言はないやうにする爲に、それらを沈黙させることが出来ませう。スギエトツチの讀書の少いことは、何でもありません。私にとつては、却つていいのです。私が特別に編輯することゝなれば、小説は全く新しいものとなりませう。「ステパンチコチ村」に就いては、プレスチエエフがはつきりと知るやうに、彼に手紙を書きました。如何なる理由で、ルスキイ。キエストニクは私の原稿を送り返したのでせう。私は、彼が報らせをうけて、一帖百ルウブルに恐れをなしたことを慥かに知つた返事をうけとりました。カトコフはそれをくれるでせうか、雜誌の凡てのことは、カトコフを支配してゐるレオンチエフが指圖してゐるのです。そして、それは、今迄になかつたやうな小利に汲々としてゐることなのです。小説は、始めは面白いと言ひました。だが、終りは、彼らの考では弱い、小説は概して省略を要すると言ひました。

さて、私は、最も重大な観察で、私は最後のもの(長い手紙で)、忘れたことのあるを申し上げます。それは斯うです。ネクラソフが値切り始めたら、そして、もつと解りがよくなつたら、そこで、あらゆる場合に、彼に優先権を與へなければなりません。彼があなたの家に来てあなたに會はなかつたことは、如何に私は残念に思ふでせう、如何に深く残念に思つてゐるでせう。我々はそこで、彼が何を考へてゐるか、體かに解つたでせうに。あなたは、至急、彼と會つて話をまとめて下さることは出来ませうか。ねえ、この小説がソヴレメンニクに發表されることは、非常に大切なことです。此雜誌は、以前、私をのせやうと思つてゐませんでした。そして、今は、私の幸福を求めてゐるのです。私の文壇に重をきなすに、それは非常に大切なことです。第二、あなたに原稿を返したネクラソフは、更に其を求めに來たのです、(斯う言ふことが起つたとすれば)そして、遂々、話の解るやうになつたのです。凡ての此の術策は、小説に大なる望みを加ふることになるのです。人々がそれ程焦慮し、それに就いて、それ程値切るとすれば、此小説は悪くはないと言ふことになります。此小説に就いて、ルスキイ・ギエストンクの意見は如何であるか、非常に打ちあけて、ネクラソフに一寸と言つてごらん下さい。(そして、小利にあくせくしてゐるとレオンチエフのことを言つて下さい。)私が自分で非常に私の小説の缺點を知つてゐるが、そこにはある美しい數頁が私にはあるやうに思はれたとネクラソフに付け加へて下さい。彼に斯う言ふ言葉でも言つて下さい。何故と言つて、それが本當の私の考ですからクラエフスキイにそれを仰つて下つても、また悪くはありません。彼らに心を打ち明けて言つて下さい。打ち明けることは、力です。

注意。——私は今、仕事があり過ぎます。私は十五日後に書かねばなりません、「死人の家」私は眼をわ

るくしました。私は絶対に蠟燭で仕事をすることは出来ません。さようなら、親愛の人よ、私はあなたを接吻します。書いて下さい、ネクラソフに會ふやうに努めて下さい。訂正の爲、舊作を送つて下さい。本屋に話して下さい。第二番目の判で出版した方がいゝかも知れません。さようなら、友よ、あなたの凡ての御骨折を感謝致します。書いて下さい。

エフ・ドストイェフスキイ

同じ人に

一八五九年十月二十日 トゼルにて

我が尊きミチャ、此度は、只、ほんの二言あなたに書きます。私ほ十月十七日の御手紙をうけとりました。けれども、未だあなたの送り物を受取りません。私は郵便局から一通の通知書も受取りません。この郵便局は、やり方が非常に不體かです。のみならず、ペテルスブルグから、荷物が送られた日が、私にはしかと解らないのです。それは、恐らく、あちらで停滯してゐるのでせう。

友よ、私の作を集めて下さつた御骨折と御心配とを感謝致します。あなたが私の爲にして下つて、御仕事の御邪魔になつた事は私には解つてゐます。私はそれを心に銘じます。いつか、償ひを致しませう。

私がネクラソフと、カリノフスキイにゐらつして下さるやうに御願した、私の(最近の)手紙をお受取り

になりましたか。さて、友よ、私はもう一度、あなたのあらゆる手紙の中に、『お前の斯う言ふ手紙は私に
ついた。』と、御報らせ下さるやう御願ひします。それは大切です。それを悟られるやうにして下さい。そ
して、我が尊き人よ、私が最近の手紙に御願したやうにして下さい、即ち、ネクラソフとカリノフスキー
の所に行つて下さいと御願ひします。慥かに、私は凡てのことをあなたの御判断に任せます。(私の知らな
い事情があるかも知れませんが)然し、同意して下さい、私の考は十分根拠があるのです、そして、これら
の人々に會ひに行くことは悪いことではありません。

去る土曜、クラエフスキーは近い中にあなたに御報らせすると約束しました。もう火曜になりました。
彼らが長びいてゐることを白状して下さい。

クシユレフの方は、私は慥かに承知しました。あなた達お二人(あなたとマイコフ)に感謝致します。二
千ルウブル、それは悪くはありません。でも、三冊とは何ですか。でも、クラエフスキーが今年にも出
版する場合の外にないでせう。(愛する人よ、それを今年するやうに主張して下さい。)

注意。——尙あることがあります。ラスタネフ大佐が、文學や、雑誌や、オテチエスト、エンニヤ・ザピス
キの科學の重なるものに、文學的批評を加へたことを御記憶になりますか。クラエフスキーが此話の一行
も取り去ることの出来ない絶對の條件。ラスタネフの批評は、クラエフスキーを辱しめることも、屈せし
めることも出来ません。どうぞ殊にそのことを主張して下さい。

あなたの金を受取りました。有難う。あなたはもう其を知つて居られるに相違ない。私の請願書は既に
マン・ペテルスブルグに送られました。私は待つてゐます。然し、恐らくは、私があなたに再會する前に、

餘りに久しくなることとせう。人々は調査を要求させう。私は斯うそれを豫知してゐます。恐らく二ヶ
月の中でせう。

友よ、さようなら、真心から接吻します。

あなたの誠ある弟

D

御家族皆に宜しく。ヴランゲルは手紙をよこしません、どうなつたのでせう。私は彼の手で、一通の手
紙をトトレベンにやりました。返事が来ません。それは十五日前です。

同じ人に

一八五九年十月廿九日 トエルにて

愛する人よ、あなたに大急ぎで二言書きます。時は文學通り私に不足してゐます。今こゝに、ヤノフス
キイが居ります。私は今、彼の宿、ホテルに行つてゐます。それから、金を出しに、郵便局に行かねばな
りません。あなたに對して、金のことを非常に感謝致します。だが、用事のことを話させう。それで、
私を犠牲になさらないで下さい。第一部、即ち、十二章まで、至急に終る方法はありません。(私はそう信
じてゐます。)後生ですから助けて下さい。御願ひです。私の手紙をアンドレイ・アレクサンドロギツチに示

して下さい。ネクラソフも、十二章で切ることは、凡ての効果を失ふことに直ちにきめて了りました。もし他の章で切るとすると、「閣下」と云ふ章でする外はありません。「ミチンチコフ」の章が第二部に始まるやうにしてゐます。然し、考へて下さい、思つてもみて下さい、それは出来ることでせうか。十二章は切る事の出来るたゞ一つの章です。効果は失はれます。此點で、人々は、自分自身と衝突し、自分自身の敵となり、自分の雑誌に印刷されたものを悪化して了ふかも知れません。どうぞ、御願ひで、御後生ですから、主張して下さい。それからどう定つたか、至急御報らせ下さい。あなたの御返事をうけ取るまで、私は熱を感じてゐませう。

あゝ、親愛の人よ、あなたがモスコウに居られた時、私が第二章につけ加へた所のものを、訂正する時、半分あなたが消して下つたなら、私はどんなに嬉しく思つたでせう。私は此訂正に痛みを感じてゐます。その章は、忍び難い程、だら／＼して、退屈です。始めの章も同じことです。

さようなら。私は少し苦しんでゐます。(心配しないで下さい。それは痔疾です。)ヤーフスキイは今日立ちます。あなたが御手紙を御よみになる時は、もうサン・ペテルスブルグに行つて居りませう。追伸、私の請願の噂をききません。返事がありません。ヴランゲルから一通の手紙をうけ取りました。

アレクサンドル・エゴロギツチ・ヴランゲルに

一八五九年十月三十一日 トゼルにて

我が善良な友よ、あなたが私の爲にして下さつた一切の御骨折を感謝します。私の爲に、エアルド・イヴノギツチに感謝して下さい。私は彼に手紙を書かうとしましたが、多分私は間もなくサン・ペテルスブルグに行かれるだらうと存じますので、その時、會ひに行くことにしませう。けれども、私が、切に望んでゐるにも係らず、私は想像することしか出来ません。全く私は、天と地との間に、ぶらさがつたもののやうです。御存知の通り、私は皇帝に直接書きました。私の手紙は、此國の知事、バラノフ氏の手から、アドレルベルグに、送られたもので、彼は直接に皇帝にお渡しすることになります。十二日前に、手紙を出しました。私は何にも知りません。何の噂も聞きません。人々は皇帝に呈出されたでせうか。それが呈出されたならば、恐らく、返事があるでせう。アドレルベルグ伯爵は、我々の知事、バラノフ伯爵に、奉呈の結果に就いて、何か書いてよこすでせう。そして、バラノフ伯爵は、直ちに私に通ずるでせう。然し、今迄、何にもありません。私はいろ／＼憶測して、身を失はんばかりです。皇帝陛下が、私の請願に不利な特別な事情がありはしないかと御きよになる爲に、ドルゴルコフ公爵に私の手紙をお渡しにならなかつたか如何かを私はきくのです。(それは殊にあり得べきことです。)事件が斯うして進行するやうに、私に

は思はれます。——それは普通の進みです。然し、私に不利益な特別な事情は絶対にないから、(私はそれを確に知つてゐます。)そして、公爵が既にエドアルド・イヴノギッチに私のことを心配して約束しましたから、その事件を延引せしめることはあるまいと思はれます。トゼル市の總督として、バラノフ伯爵に、私に就いての報告を、即ち、私の行狀に就いての報告を取つたと云ふのは有り得べきことでせうか。私はさう信じません。何故と言つて、アドレルベルグ伯爵は、バラノフ伯爵から出た手紙を捧げたのです。それ以上何が必要なのでせう。(バラノフ伯爵は、自分で私のことを報べるとすれば、私を立派なものと思つてゐます。)のみならず、公式の報告を取らなければならぬなら、バラノフ伯爵は私に前もつて報らせてくれると信じます。そして、私にはそれが解るでせう。友よ、私は、あなたが私を愛し、私を助けることをお拒みにならないことを知つてゐます。私はあることをして下さるやうに、よくあなたに頼みませう。ですか、私には何を頼みしていいか解りません。問題となつてゐるのは斯うです、知ると言ふ事はいいでせう。然し、誰の所で知るのでですか。エドアルド・イヴノギッチの手を煩はせるのですか。アドレルベルグの家で、誰の手から、(屋根の上で事件をわめかすに)知るのでですか。ドルユルコフの所で知るのでですか。——私は眞に想像しなければならぬ所のことを知りません。あなたがあることを御知りになるならば、我が善良なアレクサンドル・エゴロギッチ、後生ですから、報らせて下さい。私は待ちに待つてゐます。私は鳥のやうに枝の上で見えてゐます。私は苦みながら、時間と仕事を失つてゐます。何故と言ふに、私は自分の著作を賣ること、即ち、利害の事件に仕事があるのですから。仕事はそれで私にとつて重要なのです。私は著して行くにはその外にありません。けれども、凡ての希望は失はれて居りません。神と皇帝は私に

特赦をして下さるでせう。……

私はあなたの御手紙を非常な興味をもつて讀みました。親愛の人よ、あなたの心に就いて、それが昔のやうにもう生きてゆくことは出来ないといふ御かきになつたのです。そして、あなたのやうな年をして。二十六年で。でも、それはあり得べきことでせうか。只、あなたは、本當にあなた御自分の力を御存知ないので。あなたは二度心に傷をうけられました。あなたは全く身をすり減らしたと御信じになつてゐらつしやるのです。のみならず、そう考へるのは、自然のことです。何にも新しいものがない時は、人は全く死んだやうに思はれます。皆のものは斯う推理してゐます。然し、人間の心は生きてゐるのです。生きんことを欲してゐるのです。あなたの心も、矢張、生きることを要求して居られるのです。——そこに、力と元氣があるのです。それは、待ち、疲れてゐます。……でも、待つて下さい。生活は、その買物をあなたに拂はせはしないでせう。私はさう信じてゐます。凡ての未來はあなたの前にあります。……のみならず、私は如何にあなたに會ひ、あなたに御話したいと思つてゐることとせう。私はボルンスキイのいゝ噂を澤山ききました。私はこゝで、あなたのボルンスキイに會ひました。私はリヨフに就いては、何の考もありません。パアドの此歴史は何ですか。それは眞に、私が噂をきいた始です。あゝ残念、我々が會つてから、年月日を得たことでせう。そして、あなたと私は、澤山のことを經て來たのです。二三の面白い人があるにも係らず、私はトエルにゐると絶対に悲觀してゐます。あなたの本のあるものは救はれ、他の者は途中で破壊されて了ひました。礦物の採集箱に就いては、私は品名表しか持ちません。(それは今はなくなつて了ひました。そして、礦物の見本は二三品しかありません。私はそれらをセミバラチンスク

へおいて参りました。採集箱は何處へ行つたのでせう。私はそれを少しも知りません。短刀袋と小さい短刀(あなたのカバンの中にあつた)は、私は自分のものと思つてゐます。何故と言つて、あなたは、その凡てのものを贈つて下つたのですから。そして、出發の時、私は就中此短刀を、ブリカノフに贈物としました。このことに就いて、全く私はあなたの御詫しを乞ひます。ブリカノフは、面白い非常にすぐれた人物です。彼は今、ベテルスブルグに居るやうに思はれます。あなたに彼のこと御話したことがありますか。彼は地理學協會員です。あなたが御暇があつたら、そちらで、ブリカノフに就いて、知つて下さい。私は彼を非常に愛し、彼に、非常な興味を抱いてゐます。さようなら、友よ。あなたを接吻します。私もつとあなたに書かうと思ひましたが、急がしいのです。我々は恐らく再會出来るでせう。さうです、神様はさうして下さいます。マリイ・ドミトリエヴナが宜しく。

全くあなたのものなる

ドストイェフスキイ

同じ人に

一八五九年十一月二日 トエルにて

我が尊き友、アレクサンドル・エゴロギツチ、

私はこんど用事の手紙をあなたに書きます。私丈の用事に關するものです。私にはあなたに御頼みする用事があります。私は全くあなたに信頼してゐます。斯うです、エドアルド・イヴノギツチが、私に一通の手紙をかいて、彼がドルゴルフ公爵に私のことを話し、チャシエフ侍従將官にも話しておいたと報らせてくれました。彼ら、二人共、私のベテルスブルグに住居することに、同意を表はし、このことに就いて手紙を私に書くやうにと請求したと報らせてくれました。私はエドアルドに同じ便で報らせ、そして、ドルゴルフ公爵とチャシエフに手紙を送ります。我友よ、私は殊に、切にあなたに私の手紙を直ちにエドアルドに渡し、封をなし、宛名をおかき下さることを願ひます。此手紙を注意してよんで下さい。私は非常な混亂の中にあります。私は自白します。ドルゴルフ公爵にエドアルドが私のことを辯解してくれるものと取つたので、私は急に皇帝に一通の手紙を書きました。バラノフ伯爵によつて、皇帝に其を提出するやうに、アドレルベクグに其は渡されます。(此前の手紙で、既にあなたに申上げたのです。)エドアルドが私のことを怒つてゐないとしたならばです。よく私の考を理解して下さい。エドアルドは最も立派な人物で、くだらぬことに拘泥はしません。でも、彼は久しい以前から、私に會はないのです。彼が私のことに、悪い評判を立てないやうに、如何に私は望んでゐるでせう。悪い評判を立てられるかも知れないと言ふことは、このことです。其は私が彼の私に與へてくれた利益、私の爲に盡してくれた處置に十分信頼しないで、彼よりも他人に信頼して、他の人に頼んだと言ふことです。……少くとも、私が一通の手紙を皇帝に呈することに決した時、私は直ちに、エドアルドにそのことを報らせなければなりません。……私は直ちにその必要を感じたのでした。然し、その時、あなたは田舎にお出でになり、

あなたの手紙を私は受取らず、私の手紙をエドアルドに渡して貰へるか如何か解らなかつたからです。……私はあなたに御報らせすることなく、二度も手紙を書く決心がありませんでした。のみならず、彼の住所を知らないのです、誰の手を経て、エドアルドに宛てる手紙を送ることが出来ませう。私はそのこと凡てを彼に話します。私が、エドアルド・イヴノギツチの處置よりも、私のことに就いて他の人々の處に一層信頼するやうに見えた事情に就いては、全く不當なものです。そして、私は少しも罪がないのです。パラノフ公爵は知事です。ドルゴルフ公爵は、知事に對するやうに、彼に、私についての調査を慥かに、即ち、私は信用に値するものか、と尋ねるでせう。——もし、私が公爵に、サン・ベテルスブルグに住居する権利を願ひ出たならです。それは、無駄な時の空費を引き起すでせう。パラノフ伯爵に就いて言へば、彼は知事の資格として、彼自身の名で、私の手紙を皇帝に送つたのです。従つて、知事彼自身が私に就いての處置をとるならば、人々は私に就いて何らの報告をうることはない筈です。事件はそれで、多くの時を費すかも知れません。のみならず、私の皇帝にあけた手紙のなかで、私の義子のボオルを體操學校に入れることを願ひました。マリアドミトリエヴナは、その子の將來に就いて心配してゐます。彼女は、私が死んだならば、彼女が始め寡婦となつた後と同じやうな苦しい状態で成長する子供と一所になることになるだらうと、いつも信じて居ります。彼女は恐れてゐます。そして、もし彼女が自分でこれらのことをすつかり言はないとしても、私にはよく彼女の心配が解ります。そして、トゾルの私の生活が何日終るか私には解りませんから、また、ボオルがまだ身が定まらず、彼の年をして貴重な時日を空費するのみですから、私は突然非常手段をとることに決心し、皇帝に手紙をかいて、其御養育に依頼したのでよ。

私の手紙の話は斯うです。人が私の嘆願を拒まないとしたならば、恐らく、他のことも拒まないだらうと私は考へました。そして、皇帝がサン・ベテルスブルグに住居することを御許しにならないとしても、全然拒まれないで、ボオルを入れることを御許しになるでせう。

友よ、私は、エドアルド・イヴノギツチの高貴と推理の正當を全く信じてゐます。然し、もし、彼が、私が皇帝にやつた手紙のことを直ちに、報らせなかつたことを不満足に思つてゐるとあなたが気がつかれたら、私の辯護をして下さい。彼が私を悪く言はうと欲してゐるなら、私は非常に切なく思ふのです。私は全くあなたの友情を期待してゐます。後生ですから、凡てのことを出来る丈詳細に報らせて下さい。私は既に、アドレルベルグの手から送つた手紙のことをあなたに話しました。パラノフは、まだ、アドレルベルグから何らの便りも受取りません。私はそれが如何言ふ譯かと思つてゐます。多分アドレルベルグ伯爵は、それを手渡しすることを手間取つてゐるのでせう。どんな様になるか、私には何にも解りません。一つの希望が残つてゐます。皇帝と善良な人々の憐憫です。

親愛なる人よ、私が何日あなたを接吻出来るか解りません。私の絶えまない御願ひと、務めを許して下さい。でも、それは間もなく終るでせう。そして、それはいゝ方に終るでせう。

今は、私は何にももう書きません。私は明は、ドルゴルフ公爵とチャシエフにやる手紙を書きませう。私は馬鹿けた仕事をしてゐます。さようなら、あなたを強く接吻します。そして、繰り返し申し上げますが、あなたの私に對する友情をあてにしてゐます。

同じ人に

一八五九年十一月十九日 トゼルにて

私は取り急ぎ手紙を上げます。いろいろな事情があつたもんですから、もつと早く書くことが出来ませんでした。そして、今は、私は用事のことを書く事しか筆を取りません。何日、それが終るでせう、そして、親愛な友達凡てを、何日私は接吻出来ませう。私にはまたあなたに御願することがあるのです。これが最後の御願ひとなるやうに、神よ恵んで下さい。私は御願ひであなたを苦めてゐます。然し、あなたはいつも私に對して兄弟でありました。今も、拒ないで下さい。

それは斯う言ふことです。私がペテルスブルグに住居するやうに、ドルゴルコフとチマシエフの同意を得たに係らず、私は行くことが出来ないとなんたは御書きになりました。それが困るのです、友よ、それは駄目です。何故と言つて、今、事件は皇帝に申上げられてゐるのですから。私は皇帝に自分自身で書き言つて、決心をとるのは皇帝なのです。私は、數日、そこに行かうと言ふ事を起しました。何故と言つて、もしドルゴルコフが、私のペテルスブルグに決定的に住居することに同意してくれたら、此事件が全く終らないとしても、數日間私が行つても怒らないでせうから。私はそこで行くことに決心し、バ

ラノフに話しました。然し、バラノフは、私の最近に願ひ人の未だ返事を與へない権利を、自分勝手に利用して、私が間違を引き起しはしまいかと恐れてゐるので、同意してくれません。それで、友よ、私はバラノフが同意してくれなければ、行くことは出来ないと承知して下さい。そして、私は彼に言はずに立ち去ることは出来なかつたのです。彼は私の手紙を皇帝に渡して貰ふやうにし、(アドレルベルグの手から。)そして、彼の名で奉呈してくれと頼んでくれました。それで、彼は私の爲に知事として責任を感じてゐるのです。それですから、私が彼に報らさずに出立したら、彼に對して私はぶしつけなことをするやうになるのです。さて、私の想像し、伯爵自身が私に助言してくれた事は斯うなのです。斯うします、私の最初の嘆願に決定的の返答即ち、サン・ペテルスブルグに決定的の住居の決定的解決を待つて、サン・ペテルスブルグに數日の住居を、私かドルゴルコフ公爵に願つて手紙を書く事です。ドルメルコフにやる此手紙は、もう書いて了つて、今日出します。サン・ペテルスブルグは、私の利害關係の仕事に従事する所で、即ち、私の撰文集を出版しやうと思ふ所で、私にとつて發行人が買ひ手を見つけなければならぬ所で、それが私に個人的になさなければならぬ所ですから、そこに住居する御願ひの理由を私は呈出するのです。何故と言つて、仲介人の手でやる時は、私は一度ならず私に起る所の多くのことを失ふかもしれませんか。そして、私の現在の苦しい境遇に當つて、此損失は私に非常に大切なものです。(凡てのことは眞實で正確です。私はクシユレフと相談しやうと思つてゐます。彼が發行のことをやつてくれ、私の作物に適當な資金をくれるかも知れません。それから、尙彼と雜誌に就いて相談があるのです。そして、彼と私自分で相談しなければなりません。それですから、いゝですか、クシユレフのことは言はずに、私のドルゴル

コフにやる手紙に、此理由を披瀝したのです。親愛の人よ、それに就いて、如何思ひですか。ドルゴルコフ公爵が、私のサン・ペテルスブルグに住居することに同意してくれれば、最後の決心を待って、そこに暫くの間行くことを拒むでせうか。私は否と思ひます。人は返事を長びかすとは出来ません。それです。私は次ぎのことをあなたに御願ひします。

親愛の人よ、出来るならば、エドアルド・イヴノギッチに、私が十九日の今日、ドルゴルコフに此嘆願の手紙を送つたことを報らせ、それが出来るならば、直ちに彼に報らせて下さい。私自身、エドアルド・イヴノギッチに書かうと思ひます。然し、私は餘りに不謹慎ならんことを恐れてゐます。私の兄弟よ、友よ、あなたに對しては遠慮しません。我々は、いゝ昔の記憶で結びつけられてゐるのです。エドアルド・イヴノギッチは、非常な親切と、立派な心によつてのみ私と關係してゐるのです。私は餘りに彼の邪魔をするに非常に恐れてゐます。私が彼に對して遠慮をしなければならぬ程、彼は私に對して、非常に遠慮をしてゐます。他の方面から、私はまた彼の地位を知つて居ります。彼が、斯う言ふ一切の人々とどんな關係にあるかは、誰が知りませう。彼にあることを御願ひすることは、彼にとつて恐らく不愉快のことがあるでせう。それです。私の重なる意見、御願ひの心と意味をあなた宛にするのです。もし、本當に出来るべくんば、エドアルド・イヴノギッチの家に行つて下さい、注意して報告して下さい、——あなたの見てそれが彼を當惑させないと言ふことを御覽でしたら、すつかり言つて下さい。斯うです、問題となつてゐることを言つて下さい。十一月十九日、私がドルゴルコフに手紙をやつて、彼に私の爲に辯護して下つて

私のドルゴルコフにやつた手紙のことを御助けして戴けるだらうかと言ふ頼んだことを話して下さい。彼があなたに、それは可能だと言つたならば、私がこのことに就いて、單に彼にのみ書くことの出来なかつたことを言つて下さい。彼に凡ての本當のことを言つて下さい。もし、私が彼の親切を餘りに亂用し過切するとあなたが御思ひになつたなら、私の家に行く前にも、そう思はれたら、それぢや行かないで下さい。友よ、私は凡てをあなたの辨別に御任せします。そして、私はあなたの友情に信頼してゐます。

何故と言つて、其のお頼みは私に致命的のものとなるかも知れませんが、人々は私を拒み、返事をしないで打つちやつておくかも知れません。そして、最後に、事件をのび／＼にしておくかも知れません。人人は至急返事をよこすかも知れませんが、それは拒絶を以てす。その時、時機を失はないやうにする爲です。……

のみならず、あなたの思召通り凡てをなすつて下さい。エドアルドに宜しく。私から感謝してゐると言つて下さい。そして、今は、友よ、おさらばです。私はあなたにもう何にも書きはしません。我々は恐らく直きに會ふことが出来るでせう。私は今日、兄に何にも書きません。——私は非常に忙しいのです。

あなたの

エフ・ドストイエフスキイ

○H夫人に

名譽ある善良なH夫人よ、

一八六〇年五月三日 ベテルスブルグにて

三日前に私はベテルスブルグに歸りました。(譯者曰、佛譯には「三日前」とあれど、ドストイェフスキイは三ヶ月前にトゼルより歸國し居れば、三ヶ月の誤ならん。)そして、再び仕事にかゝりました。モスコウに行つた旅行は、凡べて今、私には夢のやうに思はれました。私は再び、濕氣、泥濘、ラドガ(譯者曰、ラドガ湖よりネブ河に春氷が流れてくるなり。)の水、倦怠のなかに、落ちて了ひました。私はもう歸りました。そして、私は更に、熱に冒されたやうに感じてゐます。其の原因は私の小説です。

(譯者曰、彼の小説「踏みつけられ、虐げられし人々」のこと。)私はそれをよく書かうと思ひます。それが詩であるやうに感じます。私の全文學的生涯は、その成功にかゝつてゐることを感じます。今は、夜も晝も三月の間仕事をせねばなりません。然し、私が書き終つたら、どんな報賞があるでせう。安靜、落ちついた心、人がしたいと思ふ行のことの出来る心です。報賞として、私は恐らく、二ヶ月間、外國に行きませう。然し、その前に間違ひなく私はモスコウを通りませう。自負心はいゝものです、けれども、私の思ふ所によれば、それは、重なる目的、運命の赴く所に行く爲に外ならぬのです。そして、他のものは凡べ

て自慢です。生活の容易なことと言ふことが重なることです。人々が他人に對して同情をもち、他人の同情をうまくかち得ることです。如何なる特別の目的なくしても、人生に於ては、そのみで、既に十分です。然し、それは餘りに哲學的な言ひ方です。私はそれに人から殆ど便りをうけません。少しもありません。ビセムスキイは、非常にリウマチにかゝつてゐます。私がマイコフの所へ行くと、彼はビセムスキイは怒りつほく氣紛れをしてゐるなど言ひました。それはまた驚くことでもありません。彼の病氣は非常に苦しいのです。時に、あなたは、スニトキンと言ふ人を御存知ありませんか。彼は、アモス・シシユキンと言ふ匿名で、詩を書いて知られてゐました。彼が病氣になつて六日で死んで了つたと、御想像出来ますか。文學救濟基金が、彼の家族を助けてゐます。それは非常に残念です。然し、あなたは、恐らく彼を知つてゐられなかつたでせう。私はクレストフスキイに會ひました。私は彼を非常に愛してゐます。彼は詩集を書きました。我々にそれを誇りを以て朗讀しました。それはひどいものだ、と我々凡ては彼に言ひました。我々の間で、眞實を語ることは、非常に美しいことです。何んですつて。彼は少しも侮辱されたと思つてゐません。面白い立派な子供です。私は彼が非常に氣に入り、益々、いつか、彼と共に、飲み親しくしたいと思ひました。印象が時として非常に不思議なことがあります。クレストフスキイが間もなく死ぬだらうと、私にはいつも思はれます。何故、斯う言ふ印象をうけたか、私には解りません。

我々は、文壇に、何かいゝものを作りたいと思つて居ります。何かいゝ計畫です。それは我々を非常に忙がしくします。恐らく、何か生れるでせう。兎に角、第一歩と言ふことはいゝことです。然し、私は第一歩が何を意味するか知つてゐます。そして、私はそれを愛してゐます。……

私は非常に悪い性格を有してゐます。だが、始終ではありません。そして、それは私を慰めてゐます。

エフ・ドストイェフスキイ

弟アンドレイ・ドストイェフスキイに

一八六二年六月 サン・ペテルスブルグにて

親愛にして忘れ難き友にして兄弟の我がなつかしいアンドレイよ、愛する者よ、私が斯くも長い間手紙を書かなかつたことを許してくれ。私を悪く言はないでくれ。私は病氣だつたのだ。いつも病氣だつたのだ。そして、近頃は、私が自分のいざこざを、やつとの思ひで解くことが出来る程、澤山の仕事に遂はれてゐるのだ。私の力を以てしては、こんなに仕事をなすことが出来ない。然し、神の御蔭で、我々の仕事はうまく行つた。けれど、私の健康は非常に悪くなつたので、今は、明日にも、私は病氣を直す爲、テルスブルグに来て起つて来たのだ。それだから、怒らないでくれ。寧ろ私があらんかぎりの全理性をもつて、お前を愛し、お前を忘れると言ふ念は少しもないことを思つてくれ。それでも、私の御無沙汰は、私の方の醜い怠惰であると見てくれ。だが、私は怠惰であつたにしても、私がお前を愛し、お前を非常に尊敬してゐると言ふことを疑つてはくれるな。我が最愛のものよ、私は覚えてゐる、あの有名な「白い部

屋」で、最後の時と思ふが、我々が面會したことを、覚えてゐる。お前はその筋の人々、只一言喋ればよかつたのだ。そうすると、直ぐに青天白日の身となつたのだ。何故と言ふに、長兄、ミハエルの代りに、誤つて捕へられたのだから、直ちに放免されるのだつた。然し、お前は私の言ふことをきき、願ひをきいてくれた。お前の兄が、財政上、哀れな状態にあつたことを、寛大を以て悟つてくれた。兄の妻が漸く子供を生んだばかりで、まだ健康を恢復してゐなかつたと言ふこと——これら一切のことをお前は了解してくれた。長かるべき留守の間、兄をして、妻に、生活の必要手段を得させ、準備やる時を得させる爲に、お前は牢獄の中に這入つてくれた。その時、彼が正しくて、終ひには自由になると言ふことを彼は知つてゐたけれども、その事件は、何日、如何に終るかには推察することは出来なかつた。然し、それが斯様になり、お前がもう、一度斯様に振舞つたなら——斯様に寛大に、正直に——それで、慥に、私はお前を忘れることは出来ず、正直な善良な人間として、お前を思ふことも禁ずることが出来ない。のみならず、お前は私を愛してゐることを證明してくれた。お前は私のセミバラチンスクにゐた時、手紙を書き、私を助けてくれた。お前の妻は、私を兄弟のやうに疑待してくれた。私はそれを忘れることは出来ない。お前とお前の善良な尊敬すべき妻お二人で、私がお前達に忠實であり、お前達を愛してゐることを信じて貰ひたい。殊に、將來、私のことを疑はないでくれ。

此二年間、私は、印刷紙二百帖を書いたけれども、金銭上及び編輯の任を負ふてくれた兄のミハエルは、尙一層働かれた。それであるから、兄の無沙汰も許してやらなければならぬ。兄の頭は心配がいつばいに起つて、他の者なら、とつくの昔に逃亡するか、活動が出来なくなつて、没落に陥入つたかも知れな

つたのだ。さて、我々の仕事の整理がついたならば、もうお互に他人となつて暮すことはなくなるであらう。我々の雑誌の仕事は、出来る丈、うまく涉どつてゐるにも拘らず、(今年、四千二百人の豫約講讀者がらうと思ふ。今私は出發する、(只一人で。)私は兄を残して行き、そして、考へる。私がるないで、彼は只一人で、如何してうまくやつて行くであらうか。私はそれでも、彼の爲に熱心な寄稿者となるのだ。私は只一人で出發する。妻はサン・ペテルスブルグに止まる。我々には一所に行く金がない。のみならず、彼女は、子供(私の義子)を只一人残して行くことが出来ない。何故と言ふに、彼は體操學校の入學試験を準備中のだから。我々の妹達は凡べて健康だ。弟のニコラスは、辛うじて仕事をやつてゐる。それは全然悪い擇ではないが、もう少し、うまい機會を握ることはこのましいことだ。ゴレノフスキイは隠退した。サアシャは、そのことで少し悲觀してゐる。家族は大きくなつた、彼らは、郊外にある小さい家の家賃の外に収入はない。

ゴレノフスキイは、上官の不當を忍ぶことが出来なくて、立派な誇りから辭職した。此上官は勢力ある男で、彼の地位に、自分の親戚のものを任命しやうと思つてゐたのだ。サアシャは、彼等の夫を第一に正當だと思つた。我々だつてさうだ。けれども、今、彼は地位を探してゐる。遊んでゐるは、苦しくなるのだ。斯う言ふ立場で、彼らの仕事は、今は非常にいゝのではない。ヴレンカはモスコウにゐる。彼女は娘を結婚せしめた。ギエロツチカは幸福に暮してゐる。ボクロフスキイ家は丈夫だ。此二年間に、私は約六度モスコウに行つた。そして、私は昔の時代、幼年時代を思ひ起

して、非常に幸福であつた。

ダニレフスキイは、お前のことに就いて、何だか中傷して、醜い雜言を私に繰り返して言つてゐた。私はカリノフスキイと話した。彼は兄と私に手紙を書いた。その手紙のなかで、醜い人々の汚はしい雜言でもつて、此の事情を説明した。彼はお前をろくに知らない。お前の悪いことは何にも知らないと言つた。お前が望むなら、此手紙を送らう。九月までに手紙を書いてくれ。此度は、直ぐに返事を出すことをお前と約束する。

お前を腕に抱いて接吻する。私に、御機嫌よう、お達者で行つてゐらつしやいと云つてくれ。

明朝八時に、私はベルリンに向ふ途にある。お前の妻君に、私の忠實な尊敬をさゝけて貰ひたい。子供達を接吻してくれ。そして、私のこゝの甥達が私を記憶してゐるやうに、フェヂヤ叔父の居ることを彼らに言つてくれ。

お前を愛する兄

エフ、ドストイェフスキイ

追伸、ミハエル、ドストイェフスキイから、

親愛のアンレーイよ、私も亦お前のことを始終考へ、お前を常に愛してゐると言ふ爲に一行をつけ加へる。私は親しくお前を接吻する。

お前の

エム、ドストイェフスキイ

ストラホフに

一八六二年六月二十六日（七月十八日）パリにて

あなたは、七月の初旬に、外國に向かつて出發しやうとしてゐるのですね、親愛なるニコラス、エゴラども、今は、全歐洲至る所、天氣が非常に悪いのです。然し、あなたが、疑ひもなく、天氣がよいでせう。けれど、彼の兄ミハエルのこと。を殘して來たことを思ひ出すと、私は苦悶でいつぱいになります。我が親愛なるニコラス、ニコライエゴツチ、あなたは本當のことを仰る、時代は苦しい、今は退屈な苦しい期待の時です。然し、雑誌は人の損ふことの出来ない大事業です。何故と言ふに、雑誌は、現在のあらゆる意見の表現として存在しなければなりませんから。仕事、即ち、明かに爲し、言ひ、書かなければならぬことは、常に存在するものでせう。あゝ、如何に言つたり爲したりすることが澤山あるかを思へば。それであるから、こゝに残つて、人々の美しい遠國と呼ぶ所から、私はあなたの方、ロシア國へ、身體でなくても、せめて精神で飛んでゆくののです。今、凡ての人は、智識によつて、行動しなければなりません。我々の社會の思想は、餘りに混亂して居ります。今、何か一種の誤解が存在して居ります。親愛なるニコラス、ニコライエゴツチ、あなたは、始めモスコウに行かうと思ふと御書きになつた。そ

こに雜誌業の元老達が、あなたを巻きこんで了はなければいゝ。恐らく、カトコフは、限らない抽象の世に描かれた教理か何かで、あなたを懾惑するかも知れません。……否、否、私は冗談を言つてゐるので。あゝ、親愛の人よ、如何に私はあなたとこゝで會ひたいでせう。御存知ですか、あれは出來得ること必ずあることのやうに私には思はれる。重要なことは、宛名を間違へたりしないで、日付を記憶することです。

七月十五日（我國のしきたりです）、然し、それより前ではありません、私はパリイから、コロオニユに向つて出發させよう。私は一日デュセルドルフに滞留します。それから、船でマインに行きます。そして、そこからオベルランドに、恐らく、パールに行くでせう……

そこで、我々流で十八日か十九日に、パールに行き、二十、二十一、二十二日とジエネヴに行き、斯うして、あなたの手紙が、遅くとも七月十五日前に、パリイにくるならば、そこで、私の手に這入ることになりませう。そして、私はあなたの所にやるのは何處かを知りませう。尙いゝことは、ベルリンか、ドレスデンから、斯々言ふ日付に、あなたは斯ういふ言ふ場所に居ると書いてよこして下さい（あなたは常に十日ばかり前にそれを計つた方がいゝのです。）そして、私はあなたのゐる所を探させよう。こゝも亦、あなたのおすべきことがあります、ライクハルド案内を御買ひない。それで、あなたは、都會々々のホテルと宿泊料とを御見付けになるでせう。そこで、例へば、ベルリンからとして、斯う書いて下さい。私はジエネヴに何日に到着する。そして、何々ホテルに宿を取る。そうして、私はあなたを訪ねてそのホテルに行きませう。

恐らく、ある場合、ジエネヴで、そのホテルが不便と見て、お宿りにならず、他の所にお宿りになるとしても、あなたを尋ねてゆくものに、宛名を残して行かれることが出来ないことは少しもありません、あなたはホテルの門番に、只、一つうての心付けをおやりになればいいのですから。斯うすれば、屹度、あなたはあなたを見つけることが出来ます。

あなたの旅行を知ることが、私も亦、如何に望ましいでせう。

あゝ、ニコラス、ニコライエギツチ、巴里は最も悲觀すべき都會である。そこには眞に驚くべきものがなかつたにしても、人々はそこで悲觀して死んで了ふ。誓つて言ふが、フランス人は、厭な民族である。あなたは、我國の「鱈泉」(譯者曰、其頃非常に流行して遊び場所の名なり。)で結婚式を行つた鐵面皮な人々のことを御話しになつた。誓つて言ふが、こゝでもそれと同じであるのです。けれども、我國のものは、只、單純に、よく食べる無頼漢なのにすぎないが、こゝでは、全フランスが、全く、斯う振まはねばならぬと信じてゐるのです。フランス人は、柔しく、正直で、丁寧です。然し、彼は偽つてゐる。彼に取つては教師や、學者のことを言ふのではありません。それに、そう言ふ人は少いのです。(それで、科學とは、恐らく、あなたは、私がパリイに十日居た後、發した判断と笑はられるでせう。宜しい、だが、第一、

私が此十日間に見た所のものは、私の此觀念を確めました。そして、第二、一二時間足らずの中に、觀察し、理解することの出来る事實で、明かに社會精神の全面をあらはすある事實があります。

あなたはパリイにお出でになりませうか。斯うしなさい。三日間パリイに来る事は、別に苦痛にもなりません。二週間こゝにゐることは、あなたが漫遊者に過ぎなかつたならば、退屈になるでせう。用事があつて、こゝに来ることが出来ます。見たり、研究したりすることは、澤山あります。私は尙數日間パリイに止らなければなりません。それですから、私は時を空費することなく、私のやうな漫遊者にとつて出来る丈、暇べたり、研究したりしやうと思ひます。

私がいつも書くが如何かは解りません。私が書かうと言ふ非常な望みを持つたならば、何故、パリイに就いて、私は書かないのでせうか。然し、こゝに不幸なことがあります。私にはその暇がありません。外國から長い手紙を書くには、三日の仕事が必要です。此三日を何處で得ることが出来ませう。然し、後で解りませう。

もう一つのことがあります。ニコラス、ニコライエギツチ。こゝでは、こゝでは、どれ程、寂寞が魂を掴むか。それが如何に苦しい切ない感情を引き起すか、あなたは想像することも出来ませう。あなたは、獨身者です、そして、殊更、名残を惜むやうな人はありません。然し、同様に、人は祖國から離れたことを感じ、普通の生活、自分自身の利害關係、家族から抜き去られたやうに感ずるのです。今迄、凡てのものが、外國にゐて、私に反對してゐたのは眞實です。悪るい天氣、歐州の北國の住居。そして、自然の奇景は、ライン河と其岸邊の外には是ませんでした。實際、あれは奇景でした。アルプスから、イタリヤの野原に下りる時は、どうでありませうか。あゝ、我々が、一所にさうすることが出来るならば、我々はネエブルスを見ませう、ロオマを散歩しませう、多分、我々は、ゴンドラに乗つて、若いエニスの女を撫で

ることがあるかも知れない。(どうです、ニコラス、ニコライエギツチ。然し、斯様な場合に、ボブリスチン(譯者曰、ゴオゴルの有名なる「狂人の記憶」中の主人公なり。)の言つたやうに、「何にも、何にも言つてはいけない、沈黙……」です。

さようなら、ニコラス、ニコライエギツチ、私は旅行の印象に就いて何にもあなたに言ひません。手紙では凡てのものを言ふことは出来ません。殊に、私にはそれが出来ません。そして、私の印象と云ふのは何でせう。私は只、十九日前に外國に來たばかりです。

眞心から、あなたを接吻します。私から、面白いチブレン(譯者曰、ロシアの雑誌編輯人。)と(何故だか知らないが、此頃、私は彼が殊更好きになりました。)彼の親切な妻君に宜しく。彼の健康はどうですか。時に、あなたが、モスコウに行かれるならば、私の手紙は、恐らくベタルスブルグで、あなたの手に這入らないでせう。とにかく、ヴレミヤ(譯者曰、ドストイエフスキイが兄と共同して經營せる雑誌の名。)の發行の時それを御送りします。さようなら、否や、またお會ひませう。我々が外國で出會はないと言ふことは、有り得べきことではありません。私は決してそれを許すことは出来ません。あなたと強く握手します。凡ての知人に私から宜しく。

あなたの戀けの悪い猫は、どんなことをしてゐます。

Adio あなたの

ドストイエフスキイ

同じ人に

親愛なる最愛のニコラス、ニコライエギツチ、
一八六三年九月十八日 三十日 ロオマにて

九日前、トリノで私が兄から受取つた最近の手紙に、あなたが私に手紙を書かうと思つてゐられることが書いてありました。だが、二日前ロオマに來て、私はあなたから手紙を受取りません。私はそれを待ちに待つてゐます。

今、旅の印象をあなたに話したり、此頃、頭の中に浮んだ觀念をあなたに報らせたりする爲に、あなたに書くのではありません。私があなたの家に行く時、凡ての是らのことを話す時、凡てのものは浮んで來ませう。今、私はあなたに、非常な重要な御頼みをします。そして、私はあなたの凡ての御好意を、凡ての友情的な感情が必要であることを、あなたに豫言します。(斯う言ふ言ひ方をするのを許して下さい。)それを、あなたは私に幾度となく、示してくださいだされたやうに思はれます。

私の御願に同意して下さいれば、あなたは、私の非常に苦しい澤山の悲觀から、文字の通り私を救つて下さるでせう。それは斯う言ふことです。ロオマから、私はナポリへ行きませう。ナポリから、(此日附の十二日後)私はトリノへ歸りませう。即ち、十五日の中に私はそこに行くことになりませう。トリノで私の

金は無なくなつて了ひます。そして、私は文字通り、一文なしとなりませう。

私はヴレミヤが、其時まで、許されるとは思ひません（譯者曰、ヴレミヤは此旅行中禁止されたるなり）そして、とに角、兄が今私を助けることの出来ないと思はれる理由があります。

金なしで居ると言ふことは不可能です。そして、トリノへ着くと、どうしても、私は、郵便局へ金をとりに行かねばなりません。繰り返し言ひますが、さうでなければ、私は失はれて了ひます。私は歸國する金の金がありません外に、尙澤山の事情があります。……即ち、こゝで、私は非常に金を使はなければならなかつたのです。

それですから、どうぞ、後生ですから、あなたが既に私の出發前になされたことを、私の爲にして下さるやう御願ひします。

ボバリキン（讀書文庫）の所へ行つて下さい。ヴレミヤの發行禁止の後、ボバリキンは、自分で、手紙で、彼の所へ寄稿するやうに私をすゝめてくれました。それで彼に頼むことが出来ます。然し、七月に、あなたは彼に、千五百ルウブルの請求を申込まれました。彼はあなたにそれを與へないかも知れませんが、何故と言ふに、七月は、雜誌發行者にとつて辛い時ですから。私は更に彼が秋に何か書いてくれと言つたやうに覚えてゐます。そして、今九月の終りです。それは、購讀の時期です。金は集つてゐるに相違ありません。更に、私は千五百ルウブルは請求しませんが、只、三百ルウブルだけ頼みます。

御注意。——（「貧しき人々」を除いて、）前金でなく、私は決して自分の作を賣つたことがないと、ソヴレメンクララや、オテチエストゼンニヤ、ザビスキの知つてゐるやうに、ボバリキンにも承知して貰ひた

いのです。私は無産の文學者です、そして、もし、或人が私の勞作が入用だつたら、私に前金をくれなければなりません。私は自ら此貧窮を呪つてゐますが、いつも斯う都合です。そして、斯う言ふことは、永久に變ることがないやうに私には思はれます。

だが、書き続けませう。今、私は何にも用意して居りません。けれども、一つの物語で、カンブス（可成いゝものと思ひます、）にもう描きました。それは全く草稿で書かれてゐます。私はそれを書き始めもしましたが、こゝでは、不可能です。第一、息苦しいのです。第二、ロオマのやうな場所へは、一週間のつもりで來たのです。そして、一週間ロオマにゐて、何を書くことが出来ませう。私は歩いて非常に疲れてゐます。

この物語の筋は、斯うです。（譯者曰、彼の作「賭博者」の筋なり。）それは、外國に於ける一ロシア人の研究です。此夏、雜誌で人々は非常に、外國のロシア人のことを話しました。その凡てのものは、私の物語に反影してゐます。概して、そこに、（出来る丈）我々の内部生活の今の状態が書かれるでせう。私は、單純ではあるが非常に修養のある不完全に出來た人間をとつて描きます。その男は信仰を失つたが、不信仰と言ふことも敢てしない、そして、權威に反抗するが、またそれを恐れてゐる人を描きます。一變した生活を始めやうとして、彼はロシアに何にもすべきことがないと思ふ。こゝで、私はロシア人を根こぎにする人々に對して厳しい批判をすることになるのです……だが、こゝで私は凡てを御話することが出来ない……それは生きた人間です……（その男が私の前にゐるやうに見えます。）これを書いた時、全部を讀まなければなりません。大切なことは、凡て彼の生々とした力、勇氣、大膽が、球戯の勝負に費されるこ

とにあるのです。彼は賭博者です。然し、單純な賭博者ではありません、ブウシユキンの「吝嗇家」が單純な吝嗇家でないやうに。(それは、私をブウシユキンに比較するものではありません、それは只明瞭にする爲です。)彼は彼流の詩人です。然し、彼は此詩に辱しさを感じてゐます。何故と言つて、危険の必要が、彼自身の眼の前に、彼を高貴なものとするけれど、彼は深く、その卑しさを感じてゐますから。

凡ての物語は、連續二年の間、球戯の熱中者である賭博者の生活の解剖に外ならぬのです。

「死人の家」は、今迄何人も正しく描寫しなかつた懲役人の描寫として、公衆の注意を引きました。此物語はそれで、球戯の勝負の明確な微細な描寫として、注意を引くに相違ありません。

斯様な物語が、非常な好奇心をもつて、我國で讀まれる外に、溫泉町の勝負事(凡て外國のロシア人に關して)ある重大なこと(恐らく、可成り大きな)になります。

最後に、私はある限りのある感情で、餘り大きくせずに、此好笑的なタイプを出さうと思ふやうになりました。物語は少くとも一帖に十分なりませう。(二十四頁)けれども、もつと二帖か、恐らく其以上になるかも知れません。

原稿は最長期限として、十月十日には雑誌に渡されませう。然し、恐らく、それよりも前ではありません。とにかく、雑誌が十月にそれを發表出来るやうに、遅くて十日です。私はそれに名譽をかけて言ひます。そして、誰れも、それを疑問に附する權利はないと思ひます。價は一帖二百ルウブルです。(駄目の時は、百五十です。)然し、私は此の價を下けやうとは思ひません。それですから、二百ルウブルと主張して下さいといふと思ひます。そのことは、全然悪いやうにはなりません。「死人の家」はそれでは面白かつたの

ですね。そして、それは、彼流の地獄、彼流の懲役人の「水浴」の描寫です。私は繪畫を作らうと思ひ、つとめませう。

今、斯う言ふことがあります。親愛なるニコラス、ニコライエギツチ、遠慮なく、こんなに、あなたの御邪魔をするのを許して下さい。堪忍して下さい。それが大きなお邪魔であることは悟つてゐます。然しどうすることも出来ません。もし、十五日か十七日のうちに、トリノに着いて、金がなかつたら、私は文字通りに失はれてしまひます。あなたはすべての事情を御存じありません。そして、今それを物語る事はあまりに長くなるでせう。それからあなたが私のために、いまよくして下さいつたやうに、もう一度私を救つて下さるでせう。

しなければならぬ事は、こゝうゆう事です。

この手紙(私の最後の希望)を、お受け取りになつたら、どうぞ、すぐに、ボポリキンの所に行つて下さい。あなたをやつたのは私であるといふ事を云つて下さい。必要ならば、私の手紙の一部を見せて下さい。そして、申出て下さい。(それが、例へ、外國に居て非常な金が入るけれども、私のために、あまりに、屈辱的でないやうに、自然らしく、けれども、あなたは、威嚴を失はないで、そうなることは出来ませんか。)金を受け取つてすぐに、私に送つて下さい、即ち私の兄に渡して下さい。兄は、どうして送るか知つて居ます。

もし、あなたが、ボポリキンと、の話がうまくいかなかつたら、その時は、何か雑誌を見て下さい。例へば、ヤケルを見て下さい。(譯者曰く、批評家アボロン、グリゴリエフの雜誌)私から、アボロン、グリ

ゴリエフによろしく。

もしくは、他の雑誌でも、いゝのですか。(いゝですが、ルスキイ、ギエストニクではいけません。そして出来るだけ、オテストエンニヤ、ザビスキをさけて下さい。)そうです、お願いです。それらを避けて下さい。金を送つて下さらない方がいゝのです。ソヴレンメニクに、いらしつてもよろしい、だが、サルチコフとエリセイエフは、それを、通すことをしないでせう。(だが、わかりません。私は、おそらく、誤つてるかも知れません。)物語りは、兎に角、ソヴレキメンニクには、適して居りません。とにかく、ネクラソフに、云つて下さつてもよろしい。それは、Gnie quanon (譯者曰、ラテン語にして、さうでなければいけないの意。)實際、彼と話をきめて下さい。そこでは、悪るいことはしないでせう、「文庫」よりも一層いいでせう。ネクラソフは、恐らく、私のことは餘り怒つては居りますまい。そして、彼は特に事務家ですから。

我が親愛のニコラス、ココライエギツチ、あなたに言ふのも必要のないことですが、凡てを、二日か、少くとも三日にきめて下さらねばなりません。もし、私がトリノで金を得ることが出来なかつたら、私は失はれます、文字通り失はれて了ひます。ナポリへは手紙を下さるな。トリノにあなたの手紙をよこして下さい。どうぞ、どんな場合でも、私に書いて下さい。私には絶対に此二百ルウブルが必要ですが、それより少くはいけません。他の百ルウブルは、兄がマリア、ドミトリエヴナに送るでせう。

斯うして、三百ルウブル得なければなりません。今、私は凡てのことを言ひました。私はあなたに殆ど私の運命を御任せします。それは、私に非常に必要です。恐らく、いつかそれをあなたに御話しませう。

だが、今は、御願ひするのです。それから、あなたを真心から接吻します。

あなたの

ドストイエフスキイ

追伸、——不思議です。私はロオマであなたに手紙を書いて、ロオマのことは一言も言ひません。だが私は何をあなたに言ふことが出来ませう。あゝ、手紙の中に、こんなことを寫すことが出来ませうか。私は一昨日、夜に着きました。昨日の朝、サン・ペテロ寺院を見ました。印象は非常に強かつた、ニコラスココライエギツチよ、背中の中に、戦慄を感じました。今日、フォラムとその凡ての遺跡と、それから、コリゼを駆け廻りました。だが、何をあなたに言ふことが出来ませう。

追伸の追伸、——私から、あらゆる人々、グリゴリエフと凡て、殊に、あなたの兄弟に宜しく。スラヴ主義者は、選ばれたるもの彼自身も恐らく解らなかつた程、新しい言葉を自然に言ひました。然し、社會問題の解決の中で、何と言ふ貴族的なすばらしい社會でせう。

追伸の追伸。——多分、チブレンはあなたを助けることが出来ませう。いゝですか、非常の場合にはです。彼と彼の妻に宜しく。第一に彼らに言つて下さい。

兄、ミハエル・ドストイエフスキイに

我が親愛なる兄上、あなたが苦勞なすつて、頭の上に仕事をのせてゐられるのは、よく解つて居ります。然し、私がそれを如何することが出来ませう。私自身も、終りを見ることのない不愉快を澤山もつてゐます。あなたは二十日すぎにモスコウへいらつしやると御書きになりました。いつですか。我々が別れるのは、二十五日すぎになりませう。何故と言つて、そんなことをしても、二十五日には、私はベテルスブルグに行かうと思つて居ります。それは我々に、早くも、いろんなことを引き起すに相違ありません。大切なことは、人が、約束で我々を釣つておかず、實際に、早く、ブラウダ（譯者曰、ヴレミヤ發行禁止の後ドストイエフスキイ兄弟と發行せんと企てたる雑誌の名にして、後、エボクと改稱して出でたり。）を許してくれることです。

私はヴレミヤの復活は全く絶望してはゐないことを自白します。ブラウダは、いゝですか、都合のいゝ事情で、大きくはなくても、同じやうな結果を生ずるかも知れません。それは大切なことです。ブラウダ（眞理）と言ふ點に就いては、私はそれをすてきにいゝものと思ひます。それを發見した人は名譽です。その中は、ある素直さ、確信があつて、それが完全に我々の精神や方向に適してゐることです。何故と言つて他の雑誌（ヴレミヤ）非常に素直で、誰でも知つてゐるが、此素直さと確信とが、恐らくあのやうな成功をしたのでせう。要するに其題は素敵です。ヴレミヤを思ひ出す爲に、それと同じやうな装ひをしてもらてせう。雑誌としては、「兩世界評論」譯者曰、フランスの有名な政治文學雑誌。）のやうに何物かを作ら

なければなりません。廣告には、第一行に、「時代は眞理を要求する……世界に眞理を求むことを……」と書き始めなければいけません。ヴレミヤとブラウダとが同じものに過ぎないと言ふことを、明かに諷刺する爲にです。私の恐れてゐることは、廣告です、ねえ、友よ、そこに、必要なのは、藝術でもなく智識でもなく、只、靈感です。殊に必要なのは、理性ある才能ある人に、かゝる場合、非常にありがちな囚襲を避けることです。人々は常識に満ちたことを書きます。再び言ふことは何にもないやうに思はれます。そして、それが書き終れば、悪いものになるのです。そして、明に、それは、あらゆる廣告に似て居ります。獨創、自然の異常、それは今我々にとつて重大なことです。

あなたはもう廣告の準備を始めたか御書きになりました。私の考は何だか御存知ですか。簡潔に、緊張して、諷刺に努めないで書くことです。要するに、最も完全な確信を示すことです。廣告其自身は、（雑誌の精神に於いて）四五行で書かねばなりません。その後の購讀の條件は、同じく、非常に明かな方法で示されなければなりません。立派な確信で耳をうたねばなりません。

ブラウダと言ふ題は、某々氏の氣にいらぬと言ふのですが、それは、恐ろしい舊慣墨守者です。彼の氣にいらぬのは、却つて、いゝ記るしです。斯う言ふ人々は、これは悪い、駄目だ、と言ひ始めて、それから、急に、これはいゝ、素敵にいゝ、それは時代の豫言者だ、と言ふ言葉を叫び出すのです。此題が、ストラホフやラヂンの氣にいらぬやうに、しようと思つてゐます。彼らは、機智のある人々で、更に、鋭敏をもつてゐます。然し、他の人々の氣に入つてはいけません。

我々はこゝで、一つの室をかります、そして、我々がそこに移つたら、私はペテルスブルグに出発しませう。心配事は、私に一行を書くことも許しません。私はこゝで、二度も發作にかゝりました。その一つは、非常に強いものでした。

雑誌の題の変更は、發行に何等の影響も及ぼしません。チエルニシエフスキイの小説批評と、ピセムスキイの小説批評は、大きな印象を與へ、非常に適當なものです。二つの撞着した觀念、二つの破壊的觀念です。その時、それは眞理です。私は此三つの論文を書かうと思つてゐます。(もし、せめて、二週間、私が落ち着いて仕事が出来れば。)

こゝでは、私はピセムスキイの外に誰にも會ひません。彼とは昨日偶然、街で出會ひ、私に非常に親切に話しかけました。昨日の晩始めて人々は彼の「悲しき運命」を發表しました。私はその場に居りませんでしたので、その作の評判に就いては何にも知りません、イギリス俱樂部及び、凡ての貴族黨派はそれを失敗せしめやうと準備してゐると彼は言ひました。彼は誇つてゐたやうに思はれます。さようなら。あなたを接吻します。とに角我々は近い中に會はなければなりません。凡ての人々に宜しく。遺産分配に就いて、こゝでは、十一月終を告げると言ふことの外、何にも解りません。

ゆ

同じ人に

D

一八六四年二月九日 ヨスコウにて

我が親愛の友ミハエル、私はあなたに御返事するのが遅くなりました、何故と言つて、私はいつもペテルスブルグに行くことを實際考へてゐたからです。けれども、十五日前に、私は病氣になり、最近また一層悪くなりました。私は二度發作を起しました、そして、それは何でもないでせう。然し、痔疾が膨脹の方に向つて來ました。それは非常に心持の悪るいものです。私は全然病氣になり切りになつて了はないかと恐れてゐます。一層私が病氣にならないならば、私は、屹度、直きに治るに違ひないでせう。その時、直ちに私はペテルスブルグに行きませう。然し、今は、私は危険をしません。第一、私は少し治つてゐるので、第二には、座ることのみも出来ないから、さうすれば二十四時間座らなければなりません。のみならず、私はのび／＼になつて居られないが、座ることも立つことも出来ないのです。

その爲に、私の仕事は妨げられました。第一冊目に、私の書いたものが何にもないと考へて、私はどれ程苦しんでゐるか、あなたは御想像も出来ずまい。然し、どうしやうもないのです。さて、斯う自白しなければなりません。今日まで、私は多分成功するだらうと言ふ考に身を苦しめました。ツルゲネエフの短篇丈ではしやうがありません。それはつまりなく思はれます。愛する人よ、何か見つけて下さい、物惜みをしてはいけません。私は、三月までに出来ませう。私の作は進捗しないと云ふことを、あなたに明らさまに申し上げます。短篇は、私の氣に入らないやうになりました。そして、私も亦、うまく整理がつかないのです。私はどうなるか解りません。

來週、私は行くかも知れません。行くと言ふことを望みながら、あなたに手紙を書くことは欲しませんが。こんど、とに角、病氣になつたならば手紙を書きませう。

私は、前に書き終ることが出来なかつたことをば、決して私を咎めずにはゐられません。短篇は大したものではありません。おまけに、私はそれを書き終ることが出来ませんでした。それは、私が餘りに遅筆であると言ふ譯になります。そして、結果は、私の期待したものではありませんでした。私は、餘りに想像的に病的になりました。

親愛の人よ、同時に二つの雑誌を編輯すると言ふことは、あなたに取つて苦しいことに相違ありません。私はこゝで、大雑誌の申込は、非常に哀れなものであると言ふ噂をききました。(モスコフスキー、ギエドモスチでも、即ち、新聞でも、もつとよくつてもいゝと思はれます。それは雑誌では普通です。) エボカ(譯者曰、ブラウダを改題したるドストイェフスキー經營の雑誌の名。)が年内に、大印刷をする雑誌の第一位を占めるやうに、整理しなければなりません。

私はあなたに斯う申しませう、こゝから寄稿することは不可能のことであると。雑誌は絶えず手をかけることを必要とします。私は離れてゐるのです。こゝで、私は短篇を書くが役には立ちません。そして、尙、私は成功してゐません。

のみならず、私は間もなく行くのです、それは確かです、その時、我々は少くとも話すことは出来ませう。私が病氣になつたら、あなたに御報らせしませう。

明日か水曜の後で、私は出立しやうと思つてゐました。私はさうするかも知れません。アレクサンドル・バヴロキツチは、暫くの間、私がよくなるだらうと言ふ希望を與へてくれました。彼の言葉の實現されんことを。

時に、あなたの勘定に書きこまれた金のことに就いて、彼は一言も私に答へてくれません。

あなたが數通の手紙を受取れたら、私が手紙を上げるまでは、私に送らないで下さい。

マリヤ・ドミトリエヴナは非常に苦しんでゐます。そして、それは、ずるぶん、私をモスコウに居なければならぬやうにして居ます。(或は、此後もさうしなければならぬでせう。)

今月七日、バズノフの所に四十人の購讀者がありました。新しい人は非常に少いのです。彼らは、本が出ない中に、まだあるかも知れないと言つて居ります。私はそこに行きませんでした。アレクサンドル・バヴロキツチはそこに行きました。

チエレニンは、また二十五人の購讀者を得たことゝ信じます。

さようなら、愛すべき人よ、接吻します。

ポオルは、何不足ある筈はないと思はれます。凡ての人々に宜しく。私の健氣を祈つて下さい。私を怒つて下つてはいけません。病氣と他の事情が私を妨げたのです。

すつかりあなたのものである

エフ・ドストイェフスキー

私の病氣の爲に、私はするぶんアクサコフに會ひませんでした。私はオストロフスキイにも會ひませんでした。

同じ人に

一八六四年二月廿九日 モスコウにて

我が親愛なる兄弟のミハエル、私は昨日モスコウに無事息災で着きました。旅行はよかつたけれど、昨日こゝに着いて、丁度、ペテルスブルグにゐた時と同じやうに、私の病氣の最も恐しい時が起つて、非常に苦みました。然し、それが間もなく止むだらうと思つてゐます。それでもそのとは話しますまい。あなたはどうかですか。此旅行中、私は起つた出来事を考へました。そして、それは、非常に私を苦しめました、私は非常にグリアを氣の毒に思ひました。そして、こゝで、人々はそれを知つた時に、皆嘆いてゐました。マリア・ドミトリエヴナは泣きました、そして、エミリー・フィオドロヴナに手紙を書かうとしましたが、彼女は、思ひ止まりました。でも、それは、彼女が彼女を非常に全く心から氣の毒に思つてゐることを妨けてはるません。随かに、凡ての他のものは、あなたの所に行くことを欲し、それが、あなたを少し慰めんことを欲してゐます。最も大切なことは健康です、その次ぎが事です。あなたの御健康を大切にして下さい。お心持がすぐれないならば、餘り、急いで、外にお出かけになつてはいけま

せん。だが、三月の終りにしか出ないとすれば、仕方がない。「それで成功すれば、昨日私はソヴレメンニクの第一號を見ました。餘りに多く批評があり過ぎます。概して、雑誌の意見を表はす論文が多過ぎます。文學の方はつまらないのです。私に一の考が淨びました。昔雑誌に表はれた、「文壇月報」と題された欄を、エボカに造へることは出来ずまいか。それは、論文を必要としません。それは、前月に表はれた本や翻譯を並列するにすぎないので、そして、凡てを洩らすことなくやるのです。暫時を支配し、全文學が雑誌に集めると言ふ考は、とう／＼新刊本の注意を怠るやうにしました。昔はそれが、あつたかも知れませんが。今は、さうでないのに違ひありません。何故と言つて、澤山の本が現はれ公衆はその題を知る爲に、新聞の廣告を探さなければなりませんから。凡ての人がそれを知つても、内容に就いては、何にも知りません。あらゆる著作に六行もしくは十行を捧げなければなりません。時としては二行でいゝのです。(もし、殊に面白いと言ふ本に出會したら、一頁二頁を書いてもいゝのです。)此の部は、若人々の一人、例へば、ビ、コフによつて、うまく書かれるでせう。只、觀察する時何にもしないでいゝのです。斯うして、我々の雑誌のみに、必要な報導をもつた新刊書の全目録が見出されるのです。ソヴレメンニクは、こんな種類のものを作るやうな風が見えました。終ひに、二月毎に、此雑誌に他の雑誌の文獻的報告を公けにするやうになるかも知れません。——一つの雑誌が他の雑誌を試験すると言ふやうな者の批評ではありません。此「文壇月報」は、二ヶ月間の雑誌や新聞に、その價值を數言評する凡ての論文の文集のやうなものです。完全な正確な報導をもつて、雑誌は全く、眞面目な雑誌、文

學に眞面目に密接した機關と云ふ外觀を呈するでせう。眞にそれは悪くはありません。人々は今からそれをしてもいいでせう。一月の一日から、月報と雑誌を始めてもいいでせう。どうお思ひですか。

私はまた理論と理論の妄想(ソヴレメンニク)に就いて、すてきな論文を思ひつきました。殊に人々が我々を攻撃するならば、それは我々に逃さず書きませう。それはもう戦争ではありません、眞面目な事柄です。明日から、私はコストマロフに就いての論文を書き始めませう。八月の中に、私はそれが如何なるか御報らせしませう。後生ですから、私に返事を寄こして、あなたの所で凡てがどうなつてゐるか報らせて下さい。少し書いて下さい、そして、始終報らせて下さい。

エミリー・フィオドロヴナに宜しく。子供達を接吻して下さい。殊に、マリアとカテリナとを接吻して下さい。ニコラスに私から宜しく。

こちらでは、氷解けがして、濕つてゐます。雪が解けました。さようなら、愛すべき人。

すつかりあなたのものなる

エフ・ドストイェフスキ

ニコラス、ニコライエギツチ及び他の人々に宜しく。マリア・フィオドロヴナは非常に弱つてゐます。

同じ人に

一六六四年四月二日 モスコウにて

我が親愛の友ミハエル、あなたの御手紙直ちに受取りました。アエルキエフが思ひついて、今其時期であるならば、彼にコストマロフの論文を書かせて下さい。然し、彼が署名しなければなりません。それが編輯のものであつてはいけません。私は何を恐れると言ふのですか。ですが、意見の分離の時は何にも恐れませんが、何故となれば、私が書かうと思つたのは、歴史的の論文ではなく、ロシア歴史及びその歴史に對する智識です。御心配なすつてはいけません、私は言はねばならぬことを知つてゐます、私は歴史の見地からしては、我が文學上、歴史的觀念の發達に就いて、我歴史家の凡てが、物事を(常に重なるもの)見る態度に就いて、其問題を殊に私は知つてゐるのです。要するに、私はそれでもつて名譽を傷けないでせう、それから、私は「土地」に就いて、エボカの全觀念を表はすことが出来ませう。アエルキエフに書かせて下さい、けれども、彼がコストマロフのみを書いて、彼のボゴディンとの爭論を書いて貰ひたくないと思ひます。でも、尙、彼を妨けてはいけません、彼の欲するまゝにして下さい。私の方でも、私の欲するまゝに論文を書きませう。時が消滅せんとし、その時機が失せんとするものに就いて——それは殆ど大切なことではありません。常に整へて、それに、立派な文學の形式を

與へなければなりません。チエルニシエフスキイは、一年後に、「スラヴ主義雑誌」に書きませんでしたか。そんなことは何でもありません。

然し、ミハエル、重要なことがこゝにあります。それは、私は、今月は、此論文のみならず、また批評も書かないと言ふことです。あなたは、「雜報記者の思ひ出」のことを御話になります。それはすばらしい考ですが、凡ての事は此次ぎで、今ではありません。私はそれを大きくやりませう、然し、待つて貰はねばなりません。今、私は一つの短篇を書いてみます。私にはそれがうまく行きませぬ。友よ、月の大部分、私は病氣でした、それから私は持ち直しましたが、私はまだ全快し切らないと實際に言ふことが出来ます。私の神経は病んでゐます。そして、私は力を恢復することが出来ません。私は話したいと思はない程、そんなに苦しんでゐます。妻は死にかゝつてゐます。毎日、我々は、彼女の死が來はしまいかと思ふ時がやつて來ます。彼女の苦痛は恐ろしく、そして、私の上に反體します、何故と言つて……………

書くこと、それは機械的の仕事ではありません。然し、私は常に毎朝書いてゐます。作物は始めるより外仕方がありません。小説は長くなつて行きます。時として、私は此作が何らの價值がないと思ふことがあります。然し、私は熱心に書いてゐます。私は其結果が如何なるか知りません。でも、これから多くの時を要することせう。半分丈でも書き上げたら、印刷に附する爲に送りませう。(譯者曰、これは彼の作、「地下室」のこと。)然し、私は全部印刷に附したいと思つて居ります。概して全く暇なので

けれども、私には書くべき時がないのです。今は書きたいと言ふ氣にならないで、他のことをしげくと思つてゐるから、暇が少ないのです。それは斯うです、私は妻の死が間もなく襲つて來はしまいかと心配してゐるのです。そうすれば、屹度仕事が妨げられはしまいかと恐れてゐるのです。もし、此障礙が起らなかつたならば、完結するやうに思はれます。私は慥かなことが何にも言ふことは出来ません。私は境遇を示す爲に、事實を提供するより外仕方がありません。あなたは御自分で判断なさることが出来ます。

あなたは批評に従事してお出でになります。屹々です。然し、例へば、アエルコフの論文(雜報によると、歴史的論文)のやうなその論文は、あらゆる價值あるにも係らず、論文の續きとして、エボカの傾向の説明として形られる基礎的紹介的の一つの論文の價もありません。それが私の意見です。それですから、あなたは、ストラホフに頼つて、書いてくれるやうにお願いにならなければいけません。概して、一年中の批評の部分は、御心配なさいますな、人々はもち直し、効果を生ずるやうにさへもなりません。(私はその保證をします。)來年、我々の雑誌は、確に、重要雑誌の第一位を占めることゝ確信してゐます。さうお思ひでせう。然し、今は、せめて、基礎的な論文、若くは、熱狂的な論文が必要でせう。御心配なさらないで下さい、それで、申込者にとつて十分でせう。然し、それで、千九百人しかないとは、少いです。それで、全部で、約三千人の申込者になるでせう。それは、新しい始めたばかりの雜誌としては、すてきなものです。(言つても無駄ですが、我々の雑誌は始まつたばかりで、新しいのです。)

然し、それは、物質的見地に立つて、雑誌としては少いのです。苦みや、心配や、負債はないことはありません。来年は、仕事をうまくやつて行きませう。我々は、今年書き終ることが出来るならばです。私はまだ小説を読みません。それがいゝものなら、うまいのです。イエルジュスキの論文は、實際非常によく、すらくと読めます。ゴルスキの論文は、こちらでは、ある印象を生じました。人々はそれを愛してゐます。眞理は、全く裸でなければなりません。公衆は子供です。廣告はありません。私は何處にも見當りませんでした。ロジの外にはありません。例へば、「讀書文庫」は、私から今まで、こんな風に、こんなことをやりましたが。廣告は恐らく雑誌にないことはありません。然し、それは、出ると言ふ丈であつたのです。全ロシアから送つてくれ、ばいゝのですが。

ボオルに就いてして下つたことを、有難く思ひます。彼は私に手紙を寄こして、あなたが彼の下宿料を拂つて、彼に金をおやりになつたと書いて寄こしました。さて、兄上、斷言します、誓ひます、こちらで、私にも金が必要なのです、私は非常に費ひました。あなたは私の境遇を御解りになりますまい、それで、どうぞ、百ルウブル私に送つて下さい。あなたは今週送つてやると御書きになりました。然し、此手紙のなかで、何にも仰つて下さいません。あなたに御願ひしなくてもいゝやうであつたら、私は願ひ致しません。私は自分の身には非常に少ない費用でやつてゐます。それで、それを私に送つて下さい。然し、それもつまらないことです。私はこれからどんなことが起るか解りません。私の短篇は、慥に、三帖になりませう。恐らく其以上になつても四帖でせう。お報らせ致しませう。私はあなたの爲に

盡して上げるやうに努めませう。ですが、後生ですから、斯様な苦しい時に、私を見捨てないで下さい。ボオルも亦見捨てないで下さい。彼があなたに何にも餘計なことは要求しないやうにしたいものです。彼は悪戯好きですが、正直者です。私は彼を知りその責任を負ひます。あなたのは御助けの外に、私の頼る人は絶対にありません。アレクサンドル・バヴロヴツチは、私にとつて、天使のやうです。けれども、彼は金を持つてゐません。

私はあなたに言はうと思ふことを忘れしました。次ぎの手紙で思ひ出させよう。然し、斷言しますが、廣告が餘り少い、少な過ぎると言ふのです。繰り返して申しますが、廣告が公衆の眼に入り込まなければなりません。のみならず、第一冊目は、廣告の中に、非常にいゝ感じを與へる論文で、こんなに氣持よく飾られてゐるのです。

さようなら、また御會ひします。御家族に宜しく、あなたを接吻します。

あなたの

エフ・ドストイエフスキ

お願ひです。此の叔母からの手紙を、ボオルに渡して下さい。後生ですから遅らせないで下さい。

我が友のミハエル

一八六四年四月五日

あなたに一言お書きします。

私に力があり、暇があり、絶えず書くことが出来るならば、私の短篇は、今月に終りを告げませう、ですが、どうしても、今年の十五日以前ではありません。これが第一です。それから考へて下さい、三月から四月の雑誌を絶対に出さなくてははいけません。始めたばかりの雑誌の三月號が、五月に出ると言ふことは、いふことではありません。私は丁度よく書き終ることが出来ますが、全く見た所では——駄目です。そして、大切なことは——其は私の関係しない障碍で、私の答へることの出来ない結果の爲めです。それですから、親愛の友よ、あなたに申し上げます、遅くて何日まで、私の短篇があなたの手に這入るべきものか、大至急に手紙をよこして下さい。あなたの御返事によると、私が書き終つても終らないでもいふのか、判断が付きません。とにかく、私が仕事を止め、私の意見ではどうすることも出来ない凡ての事情を、出来る丈、念頭に置いて下さい。

あなたが私の外に短篇を御待ちか如何か、尙書いて下さい。それはどうですか。

私の考は斯うです、此部に、知られた名を載せないでも、出すことが出来るのです。私の短篇を四月號に出すとして廣告しても宜しい。(私はそれは全く無益だと考へます。)それから、私は立派に書きませう、どうしてもいふとして、私は書くことは出来ません。殊に、恐らく、私は書き終ることが出来ますま

い。私にはその力(肉體的の)がありません。都合も悪くなつてゐます。

それで、私の決したことは、斯うです。

あなたが御返事下さるまで、私は熱心に短篇を書き続けませう、(出来丈、やつて見やう!)あなたが困つた場合には、私の短篇がなくてもすみますことが出来るかと御書きになるならば、直ちに、私はそれを止めて、私は暇をつくつて、(早々あなたが御返事下さるならば、屹、)批評を何か書きませう。然し、コストマロフのことではありません。それは、非常に重大な題です。

あなたがそれがなくては駄目だと御書きになるなら——私は短篇を書きませう。あなたに送る爲に示して下つた日付によつて、私は出来る所のことと、出来ない所のことを、自分で決めませう。私は到底駄目だと云ふ時の外は、短篇を捨てゝはおきません。

兄上、今、私があなたの殆どお助けとならないことを自白します。私はこれから、氣をとり直しませう。今、私は今迄、斯様な状態に陥つたことのない程、私の状態は非常に苦しいのです。私の生活は暗く、健康は尙非常に衰へてゐます。妻は死にかゝつてゐます。夜、苦しい一日を過した後に、私の神経は苛立つてゐます。私には、空氣や、運動が必要です。私は散歩する時間も、それをする可能性もありません。(澤山泥があります。)私の冬の外套(綿を入れてある)は非常に重いのです、(昨日は、日蔭で十七度ありました。)さて、何でも構ひませんが、それは私には餘りに重すぎます。大切なことは、私が衰弱を感じてゐること、私の神経が病氣なことです。

けれども、私はあなたの外に望みを持つてゐません。兄上、金はこゝでは、水のやうに流れてゐます。信じて下さい、私には非常な費用がかかります。私は自分の爲に一銭も費しません。夏の外套を買ふ機會はありません。冬外套をつけてゐます。私は金なしに、生きてゆくことは出来ません。餘り苦しい今の状態を助けて下さい、そして、私が間もなく、それを得ることを信じて下さい。

私は公衆の會合を催しました。オストロフスキイは、それに參加しました。彼は私に丁寧に注意をしてくれましたが、あなたが昔、ザレミヤを送つて、エボカを送らなかつたとある諷刺をしました。私はそれをあなたに御報らせすると約しました。あなたが必要とお思ひになりますなら、バスノフの手紙を彼に送つて下さい。

私はチャイエフに會ひました。彼の戯曲、「トゼルのアレクサンドル」に就いて、あなたの御返事はどうですかと私に尋ねました。どうぞ、書いて下さい。(詩はいゝです。戯曲は私はまだ見ません。然し、Deni) の中に紹介して頂きたいとあなたに書きました。)

さようなら。あなたを接吻します。私は非常に弱りましたから、もうペンを動かすことは出来なくなりました。今は眞夜中です。夜になると、私は恐しく弱ります。私は働けません。(それは非常に悪いことです。前に、私のいゝ作は夜出来ました。さようなら、愛する人。)

あなたの

エフ、ドストイェフスキイ

私は、スピエルハゲンの小説、「謎の自然」の半分を読みました。私の考では、何にもいゝものはありません。此「自然」は、全々謎のやうです。非常に平凡です。それが近代の觀念に關係してくると、多くの若さと、ある不謹慎があります。眞の多くの詩はありますが、陽語のやうなある悪臭があります。それは宜しい、何故と言つて、不明瞭なものがありませんから。

あなたは、恐らく、私の短篇を断片でも送れと仰るでせう。然し、大切なことは、最終期限を知らなければならぬことです。急いで小説を悪くしないことです。どうぞ苦しまないで下さい、私をいたはらないで下さい。これが終ることならば、私には、何を書くのも、全く同じことです。私は出来る丈よく私の短篇を書き上げたいと思ひます。

同じ人に

一八六四年四月九日 モスコウにて

我が親愛なる友ミハエル、

私は直ちにあなたの手紙に返事を認めます。先づ、借りると言ふことに就いてとす。私の考は斯うです。

第一。叔母から借りることは、可能でもあり、不可能でもあるのです。それは、全く不可能であると

言ふ意味ではありません。

そして、あなたは危険な状態に居られるから、實際すばらしい企てを、失敗させて了ふのは、殆ど罪悪のやうなものですから、あなたは絶対に叔母から借りるやうに努めなければなりません。それを請求するのには、危険は少しもありません。それで、人は何にも損はしないでせう。利益は大きなものとなりませう。

第二。今、どうしてさうませうか。上のことで、私は全く決定したが恐らく誤つた考をしました。だが、矢張決定したものです。第一、現在の状態をあなたに申し上げます、叔母は、全く頭を持つてゐるのですけれども、(私は少し前に行きました)非常に記憶力が弱いのです。(然し、人々を忘れ、物事の記憶を保てない程ではないのです)彼女は、非常な氣分家です。彼女は三十年前でピアノを止めてゐた後、また弾き始めました。彼女には何らの性格も、なんらの意志もなく、常に何かの感化をうけてゐます。祖母の感化は可なり大きなものです。(非常に大きなものです)それから、人が彼女に誤解のないやうにしておかないと、彼女はいろんな人々を恐れてゐるのではないかと私は疑つてゐます。(私がいつも思つてゐるやうな場合を除いて)——即ち、人が彼女の金を取つて、利子を拂はうと思ふ場合です。)私はさう信ずる何らの理由がありませんが、(人々は非常に貪慾なので、私は常にそれを怖れてゐます。)叔母が、叔父の生きてゐる時から、限りもない要求をうけ入れてゐたことを、一ヶ月前に私にアレクサンドル・バヴロギツチが物語りしましたが、それをあなたに書かうと思ひます。いつも、人々は、アレク

サンドル・バヴロギツチに第一に手紙をよこして、叔母に特別の手紙を渡してくる様に願ふのです。アレクサンドルは叔母の前に出て、何らの前置も、準備もなく、彼女に直ぐにその手紙をとるやうに、叔母に渡すのです。叔母は驚いて、手眞似して、嘆息して、悲しんで、手紙を受取らうと思ひません。他の人は力づくで其をおいて行きます。彼女は受取りますが、開いて見やうとはしません。それから人々は、彼に彼女を探しに行かせて、彼女に封を切ることを餘儀なくせしめ、手紙を讀んできかせるやうにするのです。彼は、何ら個人的の注意をすることなく、また、何らの準備なく、讀みます。——「そんなら、讀まないでくれ、お金ぢやないか、さあ、お金がいると言ふのぢやないか」「奥様、左様でございます」「いくらだえ。」「八百ルウブル」「あゝ、あゝ」と言つて、それから斯うです。それから、人は翌日彼女を迎へにやります。『でも、お前は、どうしやうと言ふのだね。如何しやうと言ふのだ。さあ、言つて御覽。』——そして、終ひに金の貰へることになるのですが、それは、ほんのほつちりであることは、私によく解つてゐます。とアレクサンドル・バヴロギツチは言ひます。——『でも、これはあなたの御金でございます。あなたのお好きなやうになさいまし。私はそれに何にも口を出すことはございません。』『あゝ、どうしやう、どうしやう、さう言はなければならないのか。』『屹度、それを仰つて下さいまし。』『アレクサンドル・アレクセイギツチ、手紙があります。』『あゝ、それをお讀み下さいまし、およみの金を送つてくれと言ふのだよ。』——『お送り下さいまし、お送り下さいまし、直ぐにお送り下さいまし。』

し。』さうすると、彼女はすよりなきに咽びます。然し、そこで、凡てのことは終り、金は送られます。彼女は、そこで、そのものを恐れてゐることを考へなければなりません。……然し、慥に、それから、彼女はそれ以上の性格も、しつかりした所もなくなります。

私は、アレクサンドル・バヴロギツチにも、誰にも、我々の秘密は、何にも言ひません。(アレクサンドル・バヴロギツチが、それを發表するやうなことはないとおあなたに斷言してもいいのですけれども。) 私は最近ブリアに會ひました。彼女はあなたを愛し、あなたのことを言つてゐます。然し、彼女が凡てを叔母に物語らうとする誘惑に抵抗するか如何か、私には解りません。然し、彼女があなたの爲めに辯護しないこと、殊に、準備の爲に、前もつて辯護するやうなのないのは、私の信じてゐる所です。然し、恐らく、彼女は、秘密を保つことが出来るでせう。

決定的に、私の考は、斯うです。

あなたが仲介者を以てなさるならば、(仲介者もありませんから、ブリアが同意したならば、それはブリアの外は仲介に立つものはないので。)もし、あなたが彼女に手紙を叔母に渡してくるやうに頼んで御書きになるならば、あなたは慥かに何物も得られないでせう。あなたは慥に拒絶に會ひます。そして繰り返して申しますが、ブリアは、慥かに、直接に相談することは拒むでせう。

千ルウブル位ならば、人々は恐らくは尙同意するでせう、でも、一萬ルウブルは駄目です。——それをくれると言ふことは、駄目でせう。

あなたが御自分で御出でになり、個人的に願ひを打ち明けられたら、それは恐らく全く別物となるでせう。(私は恐らくそうなるでせうと言ふのです。)返事に就いては、どんな考へ方をして、出来ません(私は只、それは私の決定した意見であることを申上けるので、斯う言ふことになるのです。)私の考では準備すると言ふことは、全く無駄です。私を信じて下さい。誰れも、あなたと同じやうに、そのことをよく披瀝することは出来ません。準備と言ふ場合には、それは、無益な非常に害のある泣き言にすぎません、のみならず、また無駄な曉舌で、公開となります。却つて、あなたが御望みなら、斯うして下さい。あなたの本を印刷して、復活祭の週の始めに、それが現はれるとすぐ来て下さい。(御注意)——あなたは、アレクサンドル・バヴロギツチに御會になるまいと思ひます。彼は決定的に境界を定める爲、屹度、十日間の休みを田舎に過しに行きませう。そして、復活祭に行きませう。それは解り切つたことです。)

あなたは、アレクサンドル・バヴロギツチの家に宿られるでせう。始め、何の爲に、あなたがらつしたか、彼らに仰つてはいけません。(あなたの御到着の数日前に、あなたがバズノフと金銭上の用事の爲、多分いらつしやるかも知れないと私は豫告しておいてもいいのです。)それを只、ブリアに話せばいいのです。そして、尙それは、あなたの企てを少くとも彼女が敵視しないやうにする条件の下にです。然し、彼女に方法と準備をするやうに振舞つたり、頼んだりすることは、すべきことではないのです。あなたは、第一度目の御訪問をなさるでせう。それから、その翌日、あなたの頼みを打ち明けらるつ

しやるのです。全然、打ち解けて、祖母にそのことを打ち明けたら、うまい工合になるだらうと思ひます。それは、彼女を喜ばすことにさへもなるかも知れません。然し、それは、嫌がらせるやうにはなりません。何故と言つて、叔母は、むやみに喋るのですから、(彼女は全く常識に富んでゐますけれども。)彼女は驚いて、直ちに、祖母を呼びませう。祖母は、既に豫告されてゐるので、恐らく、あなたの御頼みを助けやうとはしますまいが、あなたの準備をなすつた爲に、反対はしますまい。叔母に、非常にうちとけて、非常にはつきりと、斷乎として言はなければなりません。既に昨年、あなたが文字通りに、うまく難關から脱しなされたとすれば、どうして、あなたは雜誌を完成することに成功なさらぬと言ふことがありませう、疑ひもない立派な成功がやつてくるのに、如何してあなたが死なれることがありませう。叔母が決して損をすることはないこと、彼女の拒絶があなたの家族の災厄となることを、叔母に言ひ表はさなければなりません。——叔母も祖母も、第一撃で決心はしないでせう。彼女達は、泣いたり、嘆いたりするでせう。氣の毒です。が、彼女達に、第一撃を持つて行かねばなりません、精神的に暴行をしなければなりません。彼女達の前に、次ぎのやうなデレンマを横へる爲めにです、『もし、やるとすれば、危険で、——彼が返さないかも知れない。もし、やらないとすれば、此男を駄目にしてつて、罪をつくることになるであらう』と。いゝですか、彼女達は直ぐに決心をきめはしません。彼女達は相談し合ふでせう。もし、眞にブリアが手助けをしてくれやうと思つてゐるなら、その時、彼女を使つたらいゝでせう。そうでなければ、彼女は來ない方がいゝのです。もし、ブリアがそう望んでゐるなら、

ら、彼女の意見は有用なものとなりませう。彼女は、叔母に願ふ必要はありませんが、アレクサンドル・バツロギツツに、下のやうに言つて貰たいのです。『それはあなたの御金です、あなたが望んで居られるなら、おやりなさい。そうでなければ、そうするのを謹みなさい。あなたがおやりにならないければ、あなたは、すつかり、彼を破滅させて了ひなさるでせう。そして、彼を駄目にして了はれるでせう。彼はあなたの甥です、名付子です、彼は今迄あなたから何にも貰はず、何にもあなたに請求もしなかつたのです。あなたは墓の中に足を入れてゐられます。そして、罪を犯さうとしてゐられます。主の前、あなたの哀れた姉妹の前に行つて、あなたはどんな様子で會はうとなされるのですか。あなたの姉妹達はアレクサンドル・アレクセイギツツの手で、身を立てゝゐりました。そして、あなたは、何をなすつたのですか。あなたは十五萬ルウアル御持ちです、そして、破産しはしまいかと心配して居られるのです。此事が本當であり、いつかはそれを言はなければならぬ丈に、この事をすつかり、手短かに言はなければなりません。もし、ブランクがそう言ふことを欲しなければ、私は自分でそう言ひませう。そして、私はそう言ふことに決心してゐるのです。とに角、あまり嘆願的であつてはいけません。慄へる必要もなければ、屈辱的に言ふ必要もありません。商人のやうな浮調子を用ゐてはいけません。また、事務家のやうな眞面目な様子は、その場合くだらぬものとなります。感情上、道徳的に振舞はねばなりません。感動的に振舞ふ必要はありませんが、固く、眞面目にしなければなりません。最も彼女を動かすものは此事です。私は一切の事情に通じてゐないかも知れませんが、恐らく、彼女の金に就いては、彼女は、x:

…の許可を得なければならぬかも知れません。その時は、x……の考によつて、非常にいゝ、若しくは、悪い結果を生ずるかも知れません。

とに角、ヴリアは、非常に爲めになることをすることが出来ませんが、全く準備を先きにしなければ、何にも爲すことは出来ません。彼女が泣き言を言ふとか、至る所で相談をきくに身を投げ出す時の他は彼女は行動をとることが出来ません。

要するに、勝つ機會はあります。——それは澤山あります。そして、私の考では、失ふよりも、勝つ機會が澤山あります。あなたの凡ての利益は、仕事を始めることにあります。利益は大きいでせう。そして、只一つの危険は、モスコウに無益な旅行をしないことです。それですから、私は、あなたに、復活祭の週間に間違ひなくお始めになることをおすゝめするのです。

恐らく、始めは單純に人は捉はるゝかもしれません。然し、後では、後悔が彼らを捉へ、彼女達はあなたを呼び返へし、あなたに與へませう。

今の所、私はヴリアに一言も言ひはしません。すぐに此手紙に御返事を下さい、あなたの御決心を知ることの出来るやうに、直ちにです。そうすると、ヴリアに、前に知らせることが出来ませう、(あなたがお出でになつた後に、知らせた方が、恐らくいゝかも知れません。——それは私の考です。)祖母の方から始めなければいけません。

つまり、此事を自らお始めになること、そして、私はそれを御延ばしになることをすゝめません。

今、他のことを話ませう。

我が友よ、あなたは慥に、私の最定の手紙を御受取りになつたでせう。短篇は終らないだらうと思ふと、私はあなたに書きました。ミハエル、私はあなたにさう繰り返へして申し上げます。私は非常に惱まされてゐるのです。全く、境遇の爲に打ちのめされてゐるのです。私は非常に苦しい状態に居りますので、私の仕事に必要な肉體的の力にさへも責任を負ふことは出来ませう。私はあなたの御返事を渴望して待つてゐます。然し、今、斯う言ふことを、あなたに言ひませう、短篇は延びて行きます。それは恐らく、印刷紙五帖になりませう。私には解りません。それで、非常な努力をしてすらも、書き終ることは物質的に不可能です。どうしませう。それが終らない中に、印刷しなければならぬのでせうか。それは不可能です。それを細かと分けることは出来ません。けれども、——私にはどうなるか解りませんが——恐らく、それは大したものではないでせう。然し、個人的に、私は、それに大なる希望をかけるるます。それは強い眞面目な作物となるでせう。それは、眞理となりませう。それが印象を生ずることすらも、悪いことになりませう。私は知つて居ります。恐らく、それは、非常によくなりませう。どうしませう。とにかく、繰り返して言ひますが、斯様な作物は、斯様な短い時日の間では、物質的に不可能です。あなたが、復活祭の週間に、公にしゃうと思はれるなら、批評の論文も恐らく同様に駄目でせう。それは必ずです。それですから、それが可能でしたら、三月號から、私を除いて下さい。私の恩人となつて下さい。それで、四月には、あなたは可成り重要な短篇と、批評論文をおのせになること

が出来ませう。私が死なないならば、私は此頭にかけて、あなたに責任を負ひます。私の短篇を終らせて下さい。そうすれば、あなたは、私が如何に心を打ちこんで書いたか御解りになるでせう。

次號は、もつと面白いものでなければならぬと、あなたは仰る。私は四月には責任を負ひます。然し三月は？　それで、批評の方は、ストラホフを責めて下さい。あなたが三月に何か面白いものを御持ちになつたら、それを公けにして下さい。四月の方は御心配下さいますな。然し、「謎の自然」を出来る丈のせて下さい。それは非常に好奇心を動かすものですから。あらゆる號に、ツルゲネエフをのせたとしても、今は、申込みの数は、そんなに殖えるものではありません。凡ての申込みは、第一號から出るのです。第一號の廣告と論文は、試みです。田舎では、廣告や雑誌が来るのもやつとのことです。後になつて、即ち、夏頃になつて、雑誌が完全となつて、漸く増加させよう。年内で、三月號のみが、讀書にいゝ印象を與へるものではありません。來年には、我々は、讀者をすばらしく得る暇をもつことが出来ませう。私はその責任を負ひます。

此頃、A……の短篇の新刊書が出来た。あなたが私から小荷物を受けとられる時、それは、私の短篇であると御思ひにならない爲に、前もつて、御報らせします。此短篇は、前のものより、悪くはありませう。うまく行きませう。

百ルウブル有難う。それから私の身に起ることは、私には解りません。叔母に對して、御決心をなさる前に、私の手紙に、必ず、直ちに御返事下さい。お忘れになつてはいけません。それは非常に必要な

ことです。

此手紙に御返事を下さるまで、私はブレンカにあなたの手紙を見せないでせう。彼女には何にも言ひません。誰にも何にも言ひません。あなたの方でも、ブレンカに御手紙をやられないやうに願ひます。マリア・ドミトリエヴナは、殆ど、最後の息をついてゐます。私は前もつて言ひます、あなたは、埋葬の時に、多分私の家に来て下さるでせう。さようなら、あなたを接吻します。凡ての人々に宜しく。

あなたの

エフ・ドストイエフスキー

あなたはマアシャを御連れになりませんか。實際、それはあなたの役に立ちませう。こちらでは、彼女に會ひたいと非常に思つてゐるのです。凡ての人々が、あなたに對して、いゝ思ひを残してゐます。

同じ人に

一八六四年四月十三日　モスコウにて

我が親愛の友ミハエル、

今日、あなたの二通の御手紙を受取りました。一つは、百ルウブルと二行の後書きがありました。その爲、(即ち、御手紙と追伸の爲)私は心から感謝致します。四月十日のもう一つの御手紙に、取り急ぎ

御返事を致します。私は既に、二通の手紙で、私の短篇のことを申し上げました。我が愛すべき友よ、短篇が出来上らず、最も危険なる時機に、(雑誌の初號時代に)短篇も、論文も送らずに、あなたを捨てゝおいたことを、私も非常に悲しく思はずにはゐられません。でも、どうしやうもありません。凡てこれらのものは、外部の事情から来た不運の外はありません。凡てのとは、私自身と關係がありません。斯う言ふことが起らなかつたならば、私は喜んで、雑誌の各號の爲に、私の生命の一年づゝを投げます。私は、恐ろしい、神経質な、精神上病的な状態となつて居ります。そして、あなたから、金を引き出す外のことはいししないのです。何故と言つて、私の出費は減ぜざるのみか、増加してゐるのです。凡てのことは、私を苦しめ、惱まし、それが何時終りを告げるか解りません。私が短篇について書いたやうに、尙書いて居ります。短篇は、長くなつて行きます。それは、多くの効果を與へるかも知れません、私は一生懸命で働いてゐます、然し、私は進むのが遅々としてゐます、何故と言つて、私の思ふ通りに行かず、私は凡ての暇を奪はれてゐるからです。短篇は三章を含み、各々、印刷紙半帖位あります。第二章は尙渾沌の状態となつて居ります、第三章は未だ書き始めません、第一章は、訂正し、整理してゐる途中です。第一章は、半帖あつて、約五日の中に、多分出來上ることです。それを別々に印刷しなければなりませんまいか。それは、(最も重大な)他の二章がないと凡ての味ひを失ふ丈、笑ひを買ひませう。あなたは、音楽の移動トランジションが何であるかと言ふことを御承知です。それは同じことです。第一章には明かに饒舌の外は何物もないのです。然し、次ぎの二章では、此饒舌は、思ひがけないカタストロフに

終ります。あなたが、始めの一章丈送らなければならぬと御書きになるならば、私は送りませう。それで間違ひなく書いて下さい。私は斯様なつまらないことは、犠牲にしてもいいのです。そして、私はその章をあなたに送りませう。然し、斯う言ふことがあります。あなたは、復活祭に、雑誌を出さうと思つて居られるとお書きになりました。何日、あなたに、それを送つたらいいですか。祭日の後に、それは印刷されるのでせうか。そうすれば、申込みがなくなるでせう。此度は、申込みのことを話しませう。兄上、私は信じてゐます、そして、あなたの御経験から、今は申し込みは殆ど御了ひになつてゐることをあなたは御存知になるに違ひありません。もし、我々が、各號に、ツルゲネエフの新作を公けにしたとしても、それでも、申込みの數を著しく引き上げることは出来ません。あなたは、ザルピンの作を可成り澤山御持ちです。それを印刷させて下さい。それは悪くはありません。ミリウコフや他の人々の物語を入れて下さい。批評のことのみを心配して下さい、殊に批評のことをです。いいですか、我々の考へは、公衆に對しては間違ひはありませんが、特に、かゝる傾向を研究する論文は、少しもありません。お、儲かに、エドワールは、始めの二號よりもいゝものとしなければいけません、絶対にしなければいけません。然し、如何することが出来ませう。のみならず、今年の申し込みは、もう期待してゐる譯には行きません。でも、それから、我々は次ぎの號で、今年中に、勝つてせう、年の終りに、すばらしい申込みを得ることが出来ませう。私はその責任を負ひます。今年の金は、叔母から貰つて下さい。あなたは、もう儲かに、此問題に就いて私の返事を御受取りになつたことと思ひます。此借金を賦

みないのは、(全く成功する機会があるので)馬鹿々々しいことです。それで、直ぐに、復活祭前に、雑誌を出して下さい。そして、復活祭の週間に、こゝに着くやうにして下さい。

時に、出来るならば、三月に、大した題をつけた。ゴルスキイの論文を、得るやうにして下さい。公衆の喜んで読むのは、斯う言ふ論文です。モスコウでは、大人も小供も、彼の文を読み、その噂をししてゐるのを見ました。(譯者曰、ベートル・ゴルサイの物語にして、一八六四年エボカ誌にのりたる「貧しき借家人」病院と寒さに。)のことを言ふ。)それは、はつきりしてゐて、解り易いのです。その魅力があるのはこれが爲めです。ツルゲネエフの文章に就いては、衆人と言ふ人に屬して凡ての人々は、よくは言ひません。そして、斯う言ふ人々は、海の眞砂のやうにゐるのです。それで、「謎の自然」をもつとさせて下さい。次ぎの號には、慥かに、「地下室の思ひ出」の續きが載ることを讀者に約束して下さい。私が病氣であると廣告して下さい。私は新聞で、オテチエストエンチャ・ザビスキの三月號が現はれんとしてゐると言ふ廣告を見ました。此廣告のみでも、藥の一瓶に價します。

私は、既に、一度、チカエフに就いてあなたに書いたことがありました。そして、いつも、あなたの御返事待つてゐるのです。私は約半頁書いたと、今見るやうに思ひ出してゐます。あなたは、慥かに、注意せずに読み過されたのです、それとも、手紙は紛失したのでせう。個人的に、私は此戯曲を少しも知りません。こちらで、彼は、凡ての文學會でそれを朗讀しました。デン新聞で、アクサコフは、その詩を賞めました。チャエフは、教育ある人間で、よく、ロシア歴史を知つて居ります。オストロフスキ

イは、それには劇的な場所がない、それは年代史であると言ひました。詩は美しく、ある成功した場面があります。その劇は、久しい前から、ボボリキンに送られてありました。彼の友、ドミトリエフ(短篇「森林」その他)は、最近、彼がボボリキンの所から其をとつて、エボカ誌に持つて行かうとしてゐると、彼の所に手紙をよこしました。ボボリキンは、それを全部公けにしようと言ふ決心はしてはゐませんが、ある場面は、公けにしようと思つてゐます。チャエフは、それに同意をしません。彼は、一帖、百ルウブルをボボリキンに請求しました。私は、あなたが、どんな場合にも、それ文の金は出さなと言ひました。(のみならず、さうすることは出来ません。)それですから、あなたはドミトリエフから其を御受けとりになつたならば、條件をきめないで公けにしないで下さい。チャエフは、自分で、あなたに手紙を書かうと思つてゐました。彼は非常に善良な男です。然し、あなたは注意して、彼の戯曲をお読みにならないといけません。何故と言つて、恐らく、全體は重苦しいものかも知れません、斯う言ふものは、購讀者を引きつけません。さて、チャエフのことは、これ文としませう。

今度は、ストラホフのことです。このことに就いて、もつと前に、二行でも彼が私に手紙をかいてくれたら、どんなにいいことになりましたことになりませう。始めに、私は、ボボリキンの最初の要求で、金は全部あなたの所に用意されてゐると彼に言ひました。あなたに其を要求するのは、これだからです。私は、一切のことが、彼らの所でどう言ふ風になつたか、大變知らうと思ひました。それは、單なる好奇心ではありません、それは、名譽の問題です。私がボボリキンをだましたやうに、彼が思ふことは、私

の欲する所ではありません。神が私の證人です、どんな境遇にあつても、私は始めに、彼に短篇を持つて行きませう。私が持つて行かないとすれば、それは、三百ルウブルの爲に、人に笑はれるに任せるやうなことをしたくない爲です。尙、私が此三百ルウブルをあそこで取らなかつたら、私は彼らの嘲笑を文庫」の編輯は、約束で私を縛つてゐるのではなく、名譽の言葉と、金とで縛つてゐるのですから、その雑誌の頁で、私に嘲笑を負はせることを許すことにはない筈です。それは斯う言ふ意味です、彼は買はれてゐるのだ、彼は身を逃れることは出来ない、そして、怒ることを敢てしない、そして、それでも彼は短篇をよこすだらうと。否、紳士よ、私は三百ルウブルで、自分の身體を賣つたのでもなければ、行動の自由を賣つたのでもありません。それですから、詳細のと、即ボバリキンが、どうして、如何なる條件で金を要求したかを知りたいと言ふとを烈しく絶望してゐるのです。ボバリキンが自分で私に説明しないでは、此三百ルウブルを返したくないと、私は恐しく欲してゐるのです。今、こゝから、ボバリキンに手紙を書くことは出来ません。何故と言つて、あそこで何か起つたか、何に返事をしなければならぬかは、神も御存知でせうか。私は先づ第一にそれを知らうと思ふのです。然し、あそこでは、何か屹度起つたに相違ありません。何故と言つて、さうでなければ、ニコラス・ニコライエギツチがあなたから金を要求し始めることはないであらうから。サン・ペテルスブルグに滞在してゐた間、私は病の爲にそこなはれ、「讀書文庫」のことを考へにおくことは出来ませんでした。ニコライ・ニコライエギツチ

が、ボバリキンの所に行くやうに私をすゝめたためでしたが、私はそれに必要な暇もなく、健康も悪るかつたことを思ひ出します。のみならず、尙、何物かゞそこに行くことを妨げたのです。それは斯うですボバリキンが、もうその時、私が辱かしめられたことを少しでも氣がついたならば、單なる禮儀から、最も單純な禮儀から言つても、彼から最初にやつて來なければならぬやうに私は思はれたのです。――それは、辯解の爲でなく、單に釋明の爲です。然し、彼はそんなことすらもしなかつたのです。それで、後生ですから、ニコラス・ニコライエギツチを眞實に愛してゐる私の爲に、彼が斯うしてくれないか如何か、私の方から彼にきいたと言つて下さい。それは、ボバリキンに金を渡すことを、せめて、數刻遅らせることです。私の爲に、彼が悪るい曖昧な境遇に陥つたことを私はよく悟つてゐます、(それは私の爲ではなく、ボバリキンと、凡ての此境遇の爲です)彼は、金を借りた始めには、私とボバリキンの間の橋渡しでありました。彼は彼に私の名譽に契つた言葉を傳言してくれました。そして、橋渡しとして、彼は言はゞ自分でボバリキンの借金を保證したのです。もしボバリキンが怒り、辱を感じ、金を要求したならば、それは彼にとつて、非常に苦しい程不愉快となつたに相違ありません。それだから、彼が本當に非常に曖昧な状態に身をおいたならば、そうさせておいて下さい。そして、あなたは例へ、運悪くさうすれば、私の不名譽にのみなるとしても、彼に金を返して下さい。何故と言つて、黙つて金を返して、私は實際ボバリキンを欺さうと思つたのだと言ふ風をしませう。もし、彼が、せめて少しの間待つことが出来るなら、ニコラス・ニコライエギツチにさうするやうに頼んで下さい。今の所、私

の名義で、事件の一切の事情を彼から知るやうに努めて下さい。彼が詳細にあなたに報らせることを拒まないだらうと思ひます。何故と言ふに、彼は私に慥かにそれを拒まないでせうから。(私は彼が打ち明ける性質をもつてゐると言ふのではありません、彼とボマリキンの中に、個人的に起つた一切のことを私に報らせてくれと頼むのでもありません。)何も起らなかつたか如何か報らせて貰つた後、その起つたことに従つて、私はボマリキンに、非常に丁寧な正當の理由を述べた侮辱の陰のない短い手紙を送りませう、それに封をしないで、ニコラス・ニコライエギツチにお渡し下さる様に、あなたに送りませう。ニコラス・ニコライエギツチは、そこに何も度外れのことを書いてない、直接あれに關するものは何もないと認めて、彼は自分で、その封をしませう。何故と言つて、彼は、それでも此事件の仲介者ですから。——そして、その時、エボカ誌の發行を以て、そこに金を入れて、すつかり、ボマリキンに拂つて了ひませう。さうでなければ、出来るならば、ニコラス・ニコライエギツチに渡して下さい。要するに私は斯う言ふことを大變御願ひするのです、第一、ボマリキンは此問題をどう言ふ風に見てゐるか、(金のことを待つことが出来るか如何か)御報らせ下さること。第二、彼は公然と私を非難してはるませんか。私に對して、また、ニコラス・ニコライエギツチに對して、何か侮辱したやうなことを言はないでせうか。それですから、あなたは、ニコラス・ニコライエギツチに、此私の手紙のことを報らせて頂かねばなりません。つまり、彼の言ふことは、さうなりません。繰り返して申しますが、もし、支拂ひが延びることが、全く出来ないならば、あなたから直ちに金を拂つて下さい。彼にさうさせて下さい。もし

し待つことが出来るならば、彼がもつと詳細に事件を知ればいゝのです。そうして、その時、必要と思はれる手段を私は取りませう。

私は遅延なくボマリキンに手紙をかいてもいゝのです。然し、第一、(私は前にもう言ひましたが、)非常に微妙になつてゐる現在の状態を知らないのです。第二、ニコラス・ニコライエギツチは、どんな眼で此れを見てゐるか解りません、何故と言ふに、此事件に彼は仲介者となつてゐるのですから。要するに、これは非常に混み入つた話です。

時に、ニコラス・ニコライエギツチが、私が彼に手紙を書かないことを非難しないやうに願ひます。私がかゝでどんな生活をしてゐるか知つてゐれば、今迄、私はこの事件に就いて書く暇のなかつたことを、彼は悟つてくれるでせう。そして、今、私は、ボマリキンと斯う言ふ困つたことを掃一して了ふいゝろんな多くのことを考へました。私はニコラス・ニコライエギツチのエボカ誌の論文を読んだ後に、彼に手紙を書かうと欲しました。ニコラス・ニコライエギツチ宛の手紙を書いたとしても、私はボマリキンのことを書くのを慥かに忘れるでせう。

さやうなら、兄上、あなたを接吻します。御健康と勇氣を持たれんことを祈る。

すつかりあなたのものなる

エフ・ドストイエフスキ

火曜、四月十四日。昨日の午前二時に、私は此手紙を書き終へました。それから、マリヤ・ドミトリ

エヴナは非常に悪くなりました。彼女は坊さんを呼んでくれと言ひました。私はアレクサンドル・バヴロキツチの所に行きました。そして、坊さんを迎ひに送りました。我々は夜を過しました。四時に彼女は聖餐をうけました。午前八時に、私は寝ました、十時になると起されました。此時、マリア・ドミトリエヴナは、気分がよくなりました。

あなたの御送り下さつた百ルウブルは、復活祭の翌日になると、一銭も残らなくなるでせう。それが私の生活です。

我が親愛なる友よ、私はボマリキンのことに就いて、うまく手紙を書いたと思ひます。それをよんでニコラス・ニコライエギツチは少し待つてくれるかも知れません。のみならず、私は本當のことを書いたのです。何故と言つて、さうでなければ、私は自分でその問題を解決することは出来ません。然し、あなたから金を引き出すことばかりしてゐるこの私が、どうなるでせうか。今迄決して、私は斯様な悲しむべき時代を過したことがありませんでした。

私は別に、A……の短篇をお送りします。それに注意を拂つて下さい。それを公けにしてもいゝかも知れません。

同じ人に

一八六四年四月十五日 モスコウにて

親愛なるミハエル、

私は只今、アレクサンドル・バヴロキツチの手から、電報を直ちに送りました。ボオルを御寄こしになるやう御願ひしました。彼は恐らく何か黒チョコッキを持つてゐませう。彼に一對のズボン丈を買つてやればいゝでせう。それはあなたに出費をかさましめないかと恐れてゐます。明日、四月十六日、正午の汽車で、出發するといゝのです。

昨日、マリア・ドミトリエヴナは、最後の發作を起しました。血が喉から迸り、彼女の胸を溢れさせました。それで、呼吸困難を引き起しました。我々凡ては、その終りの來たのを期待し、皆、彼女の傍に行きました。彼女は皆に別れを告げて罪を許して下さる様にと凡ての人々に願ひ、遺書をしました。彼女は、あなたの全家族の幸福を祈つてゐることを私に傳言してくれと言ひました。殊にエミリー・フィオドロヴナの爲めにです。彼女はあなたと仲直りしたいと言ふ望を洩しました。(我が友よ、御存知でせうが、彼女はいつも、あなたが彼女の秘密の敵であると思ひてゐたのです。)彼女は苦しい夜を過しました。アレクサンドル・バヴロキツチは、今日、たつた今、疑ひなく斯う言ひました、彼女は今日死ぬであらうと。それはもう疑ひないことです。

私は金を借して貰ひたいと叔母の所に行きました。然し、彼女にも金がないかも知れないから、斷はられるかも知れません。

私は如何していゝか解りません。どうぞ、御願ひします、私を見捨てないで下さい。費用は非常にかさませう。凡ての爲に、出来る丈送つて下さい。後生です、私はそれを儲けませう。

私は昨日ボマリキンから一通の手紙を受取りました。然し、現在のやうな事情では、直ぐに彼に返事を出すことは出来ません。今は、文學にかゝり合ふ時ではありません。其上、私の返事は遅れませう。彼はそれでも、八日の中に返事を受け取るでせう。

彼は私に直接に金を請求して來ました。文章は、無禮な程、汚いものでした。私は彼に返事を書かうと思つてゐます。私は丁寧に返事をかき、私の爲に、彼に金を貸されんことを願ふと言ひませう。私はあなたが彼に金を返して下さることを如何に望んでゐるでせう、あなたに用意がないから、少し遅れたとしても、彼れの怒らないことを祈つてゐます。どうしても、(私は断言します)、遅延はくだらぬことで、あなたは彼に間違ひなく渡して下さるでせう。

私がボマリキンに、どんな調子で金のことを書くかは、斯う言ふ風です。私は他にしやうがありません。ミハエルに、同意して下さい。絶対に、大至急、金を返さなければなりません。私の爲に金を拂つて下さる関係のある人として、全くすべき人として、私はあなたを、ボマリキンや、ニコラス・ニコライエギツチに紹介はしません。あなたが拂つて下されば、それは、私の熱心な御願の爲です。そして、それは、只あなたがさう思つて下さる場合です。

恐らく、私はまたその時、ストラホフに書きませう。私はボマリキンに出す手紙の寫しを、あなたに

送りませう。

電報の内容が何であるか、ストラホフに言つて下さい。斯様な場合に、ボマリキンのやうな人間に返事を微細に書くと言ふことは、不可能であることを、彼は悟るでせう。そして、彼がボマリキンにそれを傳言してくれれば、非常に好都合でせう。

私があるあなたに書く此手紙に就いては、あなたはストラホフに御話しになることはありますまい。さようなら、我友よ、私はあなたを強く接吻します。

あなたの

エフ・ドストイェフスキ

追伸、——今、如何なる場合でも、私は、小説を送ることは出来ません、(始めでもです)如何しませう。四月には出来るやうになるでせう。

復活祭の週間に來て下さい。あなたの雑誌を直ぐ出して下さい、——とにかく、其は、オチエエスト・エンニヤ・ザビスキよりもよく、ソヴレメンニクと恐らく同じやうなものとなりませう。取材の表は大切です、あなたは選擇をなさることを知つて居られます。

マリヤ・ドミトリエヴナは、完全な意識の中に、穩かに、死にました。彼女は、不在のボオルを祝福しました。

ボバリキン宛ての手紙の寫し (前の手紙に添へて)

一八六四年四月十四日 モスコウにて

拜啓、

私は今日兄に手紙を書きました、そして、あなたに負債を拂つてくれるやうに頼みました。私は兄が私の頼みをきいてくれることを望んで居ります。

此金をあなたに返すやうに願つて、私の不決斷を決定したことに就いて、私は非常にあなたに感謝します。私に取つて最も大切なことは、私が金以外に、名譽の誓ひでもつて、あなたと關係したことです。且つ、我々の共通の友なる非常に尊敬すべきニコラス・ニコライエギツチ・ストラホフが、あなたに此名譽の誓ひを傳言し、私の心配をしてくれたのです。私はお約束を守ることが出来ないから、恐らく、私の名譽の誓言に汚點を附したやうな風になりました。そして、恐らく、また、ニコラス・ニコライエギツチに、ある不愉快を惹き起してゐます。いろ／＼な事情が起つたので、私は、此事件を詳細に明かにすることの出来るやうにと、あなたに一言申し上げなければならなくなりました。

それを明かにする爲に、私は斯う眞誠の自白をしなければなりません、私に襲つて來た家庭の苦しい悲みと、私の長い病氣の外に、それは私の仕事を非常に妨げたものですが、その外に、約二ヶ月以前、

私がお約束を守らうとする望みは十分あるのですけれど、あなたの雜誌に、私のこれからの創作を持ってゆくと云ふ善意がなくなるやうになりました。その時まで、即ち、約二ヶ月前まで、私は「讀書文庫」に對して約束を守らうと言ふ確固たる意志と、眞誠な望みを抱いてゐたと言ふ確なる證據を、私はあなたに提供することが出来ませう。あなたの雜誌の中に、私の作物に就いての嘲罵を讀んで、私は少し不愉快に思つてから、私の考は、自分の意志に反して變りました。私の文學的生涯の中で、非常に長い年月の前から、私の作物に加へられた嘲罵は澤山あります。私の注意は、斯う言ふ澤山のものに引かれましたけれども、私は公けにも私にも、それに就いて、未だ曾て、何等の説明をもしたことはありません。然し、今は、それと違つて來ました。そして、ある物を正視せんとする私の方法の爲め、「讀書文庫」の嘲罵を、(例へ、可成り、穩かであつたとしても)、不問に附することは出来ません。あなたの論文の中には、私が「センチメンタルな方法」で書いてゐると言はれました。そして、それは十分に嘲笑的な調子で言はれました。全く、それは非常に無邪氣なものです、然し、私の「讀書文庫」の關係を以てしては、——許して下さい——不可能なことなのです。私が前金を受取らなかつたならば、そして、殊に、私が名譽の誓言を以て、あなたと關係しなかつたならば、かゝる嘲罵は、それがどんな印象を與へるとしても、「讀書文庫」に發表する發表しないと云ふ自分の不可能事に、何らの關係もありません。然し、今、それは、全然關係のある人に關してゐるのです。私が事情を變更することを敢てしないと、私は如何なる口調をも忍ぶと言ふことを、あなた達は推量することが出来たのでした。何故と言ふに、

私が金をとつたからです。儘かに、我々の「讀書文庫」の編輯に關係することに於て、かゝる考をすら推量することは私には出来ませんでした。然し、その唯一の可能性は、斯かる非常に微妙なる場合にあるのです。私の方が、「それは氣短かのことである、」と言ふのに私は同意します。然し、私によれば、人生のある事情の中には、過度の短氣の事は、常に、親しい關係よりもいゝものです。——許して下さい、然し、私は世間の人々との關係に於て、常に避けてゐるシニズムを表はすに正確な言葉を見出すことを知りません。

あなたが斯う言ふ凡ての諷刺を遠けられた丈、こんなことを詳しく言つて、あなたを困らせることは出来ないとあなたは仰るでせう。そして、金を返すやうにと要求なすつて、此事件に、純然たる商賣的の言ひ廻しを與へて下つた。然し、許して下さい、私には、何故だか知らないが、現在のやうな状態では眞誠を以て理解し合ふ事はないやうに思はれます。それにも係らず、私にはあなたと御知合になつたのを續けてゆくと云ふ名譽を持たなかつたけれども、あなたと御知合になつて愉快に感じた丈、あなたを文學上の同胞としか見ることは出来ません。然し、とに角、あなたは、明かに、一切の紛擾の打撃から私を救ひ出さうとして、我々の一切の相互の友情を、非常に微妙に、商賣上の關係に御變へになりあなた自身で仰つたやうに、「私から金を支拂ふと言ふことが、我々の關係の最もよき終りである、」と見出されたことを、私はもう一度感謝します。私は此意見に同意し、兄があなたを長く待たせないことを望んでゐます。

我が深厚の敬意を以て、尊敬すべきあなたよ、あなたのものたることを名譽と致します。

ドストイェフスキイ

アレクサンドル・エゴロチツチ・ヴランゲルに

(譯者曰、此時、彼はコオペンハーゲンのロシア大使館の秘書官なりき。)

一八六五年三月三十一日、ペテルスブルグにて

我が善良なる親愛の友、アレクサンドル・エゴロキツチ、

あの親しい誠ある二通の御手紙を下さつた後、私が御無沙汰してゐたことに對して、あなたは非常に驚かれたに相違なく、また、私に對してあなたの感情を傾けてゐられたので、屹度、非常に怒られたに相違ないと思つて居ります。お驚きなすつてはいけません、お怒りなすつてはいけません。私はその時直ぐに御返事しやうと思つて居りました。私は出来ませんでした。何故でせう？ あなたは、その譯をもつと下で御讀みなさるでせうから、然し、まだ、私は親友を持たないのに、親友のあなたを忘れると言ふことが出来るものでせうか、私の無限の幸福と、恐しき不幸の目撃者であるあなたを、(我々が彼らを見送つて行つた時、セシバラチンクスの附近の森の中で夜を過したことを思ひ出されますか)それから、ペテルスブルグでも私の友であり、恩人であつたあなたを忘れると言ふことが出来るものでせうか。

反對に、此多くの年月の間、私はずるぶん屢々、あなたを思ひ出して居りました。然し、此頃の私の生活は、何たる有様であつたでせう。私があなたの御手紙に返事を出さなかつたことを説明する爲に、あなたに詳らかな辯解をしなければなりません。それで、おきよ下さい。私は、此頃の私の話を、あなたに述べやうと思ひます。それでも、一切の話ではありません。それは不可能です、何故と言つて、かゝる場合に、手紙の中で、重要な事柄を決して語ることは出来るものではありません。私の極くあつさりと言ふことの出来ないものがあります。それですから、私の最近の年の手短かな概括をあなたに語る丈にして置きます。

四年前、兄が雑誌の編輯を計畫したことは、あなたも恐らく御存知でありませう。私はそれを共同に編輯しました。凡てのことは、うまく行きました。「死人の家」は、非常な成功をおさめ、私の文學的名聲を復活致しました。私の兄は、編輯を始めながら、多くの負債を造りました。それは、一八六三年の五月に、一時に支拂はなければなりません。雑誌は、熱烈な愛國的の論文の爲に、發行禁止を食ひました、其論文は、曲解されて、政府の意志と、公衆の意見に反するものと判断せられたのでした。我々の最も親しい寄稿家なる論文の作者に、少しく誤ちのあつたの眞實です。彼は餘りに誇張し、その思想は、誤解されたのでした。間もなく、人々は、此論文の眞意を悟りましたが、雑誌は、もう禁ぜられてゐました。此前から、私の兄の仕事は、非常に悪くなりまりました。彼の信用は動搖しました。債権者は現はれました、それを支拂ふ所のものがありません。兄は、出版を繼續する許可を得ましたが、

他の名の「エボカ」と言ふのを以てした。許可は、一八六四年、二月の終りにやつと與へられたのでした。第一號は、それで、三月二十日前に出すことは出来ませんでした。それは遅かつたのです。購讀申し込みは至る所でなされました。何故と言つて、公衆には、十二月、一月、二月の三ヶ月間しか申込まないと云ふいゝ習慣があるのです。グレミヤが禁止された時に、雑誌を皆受け取らなかつた元の購讀者を満足させてやらねばなりません。一八六四年の一年の間、エボカ誌を受けとるのに、六ルウブル拂へばよいと彼らに知らせたのです。

新しい購讀者は少く、昔の購讀者は、平均六ルウブル出して、雑誌をうけとつたので、とう／＼、兄は損をして雑誌を發行しなければならぬことになりました。此打撃は、彼を駄目にしました。彼は負債に負債を重ねました。彼の健康は變り始めました。私は、その時、彼の傍に居りませんでした。私はモスコウの死にかゝつた妻の枕元に居りました。さうです、アレクサンドル・エゴロギツチ、さうです我が親愛なる友よ、私の天使、兄ミハエルの死は、私に取つて、残酷なる損失でありましたが、あなたは、手紙を書いて、それに同情して下さつた。そして、あなたは、何處まで、運命が私を粉砕せんとしてゐるか御存知がありませんでした。私を愛し、私も無限に愛してゐた他の一つの存在、私の妻は、一年前から住居してゐたモスコウで、肺病で死にました。私は彼の傍に行きました、一八六四年の冬から、私は彼女の枕元から去りませんでした。そして、去年の四月二十六日、彼女は、凡ての人々を記憶に止め、彼らに最後の別れを告げて、完全な意識の中に、死にました。彼女はあなたを忘れませんでした。

我が親愛なる舊友よ、彼女の挨拶と彼女のよき思出とをあなたに傳言します。

おゝ、我が友よ、彼女は私を無限に愛して居りました。そして、私も同じやうに愛して居りました。けれども、我々は一所にゐて、幸福な生活をしませんでした。あなたにお目にかゝる時に、私は一切のことを物語りませう。只、一所にゐて、非常に不幸であつたけれども、(彼女の不可思議なヒステリーで病的に空想的な性格の爲に、)我々は互に愛し合ふことを止めることが出来なかつたことを御承知下さい。我々が不幸になればなる程、愈々、我々は互に愛着し合つたのです。それは如何に不可思議に思はれるとしても、斯う言ふ風であつたのです。彼女は、私の一生中知つてゐるあらゆる女性の中で、最も正直な、最も立派な、最も重大な婦人でありました。彼女が死んだ時、(私が彼女の死ぬのを一年中見てゐて苦しんだにも係らず、)彼女と共に、私が埋めやうとした所のものを、やつと判じ悟つたけれども、人々は彼女を地に埋めた時に、私の生活は、如何に空虚で悲しいものとなつたか、殆んど想像することも出来ませんでした。もう、一年立ちましたが、此感情は常に同じやうに残つて居ります……

彼女を埋葬した後、直ぐに、私はベテルスブルグの兄の下に駆けつけました。彼は私には唯一のものとなつたのです。三ヶ月の後に、彼も亦此世の人ではありませんでした。彼は一ヶ月しか病みませんでした。そして、重くはないやうに見えました。それで、三日の中に、彼を奪ひ去つた危機は、殆ど氣がつかない位でした。

そして、そこで、忽ちにして、私は一人ぼつちとなつて了つたのです。私は恐怖を感じました。恐し

くなりました。私の生命は二つに折れました。一つは、その爲に生きてゐた一切のものを持つ過去で、他の一つは、私にとつて、二人の死去に代るべき只一つの心もない未知のものです。文字通りに、私は生活する理由がなくなりました。新しき係累をつくり、新しき生活を見出すのです！ そんな考を起すことすらも、私に恐怖を起させます。こゝで、始めて、私は、彼らに代るべきものは持たなかつたこと、私は此世で彼らのみしか愛さなかつたこと、新しき愛は起らないのみならず、起る筈のないことを感じました。

私のまわりの一切のものは、冷たく荒れ果てたものとなりました。そして、三ヶ月前、あなたの善良な親しいお手紙を受取つた時に、昔を胸いつばい思ひ出して、あなたに手紙を書く勇氣もなくなつた程非常に悲しく感じてゐました。

然し、もつと、聞いて下さい。

一八六五年四月九日

私は、此手紙を九日前に書き始めました。そして、それから、文字通りに、私はそれを書き終る一分間の時ありませんでした。アレクサンドル・エゴロギッチ、信じて下さい、あなたの二通の手紙を受けとつて、三ヶ月の月日が流れた間、殊に、あなたが私のことを如何思つてゐらつしやるかと考へて悲しく思つてゐる最後の手紙以来、私が文字通り、御返事を出す一分の時間もなかつたことを信じて下さい。それは私の沈黙が原因です。あなたが御信じにならうがなるまいが、それは眞實です。そして、如

何してそうなつたか、あなたは直ぐに御解りになりませぬ。私は筆を續けます。

兄は、全部の所有として、三百ルウブル残しましたが、それを葬式に費ひました。そして、二萬五千ルウブルの負債を残しました。此額の中、一萬ルウブルは、非常に遠い期限の負債で、家族を心配させることはありませんが、如何しても支拂はなければならぬ約束手形は、一萬五千ルウブル残つて居ります。

どんな方法で、年の終りまで、最後の六號の雑誌を發行することが出来るかと、あなたは御きよになります。(彼は一八六四年七月に死んだのです。)然し、私は非常に大きな信用をもつて居ました。その上彼は思ひのまゝに、借りることが出来ました。負債は既にうまくいつて居ました。そして、彼がなくなると、雑誌の信用は、すつかり、落ちて了ひました。

發行をつゞけるには一コベックもありません。そして、尙、六號を發行しなければならぬのです。それは、少くとも、一萬八千ルウブルを要ませう。のみならず、債権者を満足させる爲に、一萬五千ルウブルを要するので、年を終り、購讀の申込みを望むためには、全體で三萬三千ルウブルを要することになります。

彼の家族は、文字通り、乞食のやうに、一文なしになりました。私が彼らの只一つの望みです。寡婦と孤兒は、私の救ひを望んで、私の周圍に集まつて來ました。私は無限に兄を愛して居ました。彼らを捨てることは出来ません。こゝに取るべき二つの決心があります。即ち、雑誌の發行をやめ、それを債

権者に、動産と共に渡して了ふこと。(でも、いくらかの價の財産はあるのです。)そして、家族を私の所に引き取ること。それから、働いて、文學にたづさはり、小説を書き、兄の寡婦と孤兒の運命に準備すること。もう一つの決心。それは、金を見出し、どうしても、發行をつゞけること。始めの決心をとることが出来ないのは、如何なる損害でせう。債権者は、疑ひもなく、二千ルウブル以上を受けるとは出来ずまい、けれど、家族は、法律に従つて相談を放棄するのであるから、何にも支拂はなくてもよくなるでせう。私は、此五年間、兄及び他の雑誌に働いて、一年、八千若しくは一萬ルウブル儲けました。それで、いゝですか、朝から晩まで、一生淫働いたら、私は彼らを養つて行くことが出来ませう。然し、私は第二の決心を撰びました。即ち、雑誌の發行を續けることです。其を撰んだのは、私一人のみではありません、凡ての友や、昔の寄稿者は、そうするやうに私にすゝめました。

四月十四日

また、妨げが起りました。アレクサンドル・エゴロギツチ、私が、一日中、如何に恐しい壓迫的な仕事をして暮してゐるか御存知になつたらう！ それでは、書きつゞけます。

更に、兄の負債を拂はなければなりません。悪い記憶が彼の名につき纏ふことを欲しません。こゝに、一つの方法があります。購讀の時期に到達すること、一部の負債を拂ふこと、雑誌が一年一年とよくなるやうに努めること、そして、三四年の中に、一度に負債を拂つて了つたら、兄の家族の生活方法を保證した後に、雑誌を誰かにゆづると。そこで、私は休息が出来ませう。そこで、私は久しい前から、

言はねばならぬ所のものを、書くことを始めませう。

私は決心しました。私の年老つた金持の叔母の遺言で、貰ふ筈になつてゐた一萬ルウブルを彼女に貰ふやうに頼んだ後で、モスコウに出發しました。それから、ペテルスブルグへ引き返へし、雑誌を繼續しました。然し、計畫は、もう、するぶん損はれてゐました。雑誌を編輯する許可を、検閲局に乞はねばなりません。此許可は非常に遅れたので、六月號が八月の終りにしか出ないやうになりました。あらゆることを嘲けつた購讀者は、怒り始めました。検閲局では、編輯人、發行人として、雑誌に私の名をのせることを許しません。非常な手段を取らねばなりませんでした。私は一時に、三つの印刷所で發行にとりかゝりました。私は金も健康も努力も惜しみませんでした。私は校正をよみ、作家や検閲局と關係をつけました。論文を訂正したり、金を得んとしたりしました。私は朝の六時から立ちつゞけで、五時間しか眠りませんでした。私はとうとう雑誌を整理することに成功しました。然し、それは餘りに遅かつたのです。あなたは御信じになりますか、九月號が十一月の二十八日に出ました、そして、一八六五年の一月號が二月十三日に出ました、即ち、各々、三十五帖の各號を編輯する爲に二週間かゝつたのです。如何に働いて私が供給しなければならなかつたか判斷して下さい。然し、最も悪いことは、斯様なガレリアン（譯者曰、昔の船を漕ぐ奴隷にして、一生涯船底に櫂を放すこと能はざるもの。）のやうな仕事をして、私は雑誌の爲に何にも書くことが出来なかつたことです。私の一行もありません。公衆は私の名前のつたのを見ません。田舎のみならず、ペテルスブルグでも、雑誌を編輯してゐるのは私であ

ると言ふことを知りません。そして、突然、我々の所で、一般の雑誌の危機が起つたのでした。一聲にして、凡ての雑誌は、購讀が止りました。五千の購讀者をもつてゐたソヴレメンニクは、二千三百に落ちました。他の一切の雑誌も同じことです。我々には、千三百の購讀者しか残りませんでした。全ロシアに起つた此文壇の危機には、多くの原因がありました。それは複雑してゐますが、はつきりしてゐます。それは後にさせう……

私の境遇を判斷して下さい。兄の昔の負債の爲、事件の進行が打ち切られないやうにと、私は自分の名で約一萬ルウブルの借金をしたのです。もし、運がわるくても、雑誌は元の四千人の購讀者はなくとも、二千五百人位はあるならば、すつかりうまく行くだらうと計算しました。少くとも負債は支拂ふことが出来る。私は非常に精密な計算をしました。未だ嘗て、ロシアに、雑誌事業あつて以來、三十年以來、未だ嘗て、購讀者の數が、一年に二十五パーセント以上に下つたことはありませんでした。私はそれを編輯のわるいせむだとするには出来ません。

ヴレミヤを始めたのは、私自身と兄とです。私がそれを編輯しました。要するに、家屋か工場が焼け

た破産した屋主が、商人と同じやうなことが、我々にも起つたのです。購讀申込みの始め、負債は、重に死んだ兄のものでしたが、支拂を要求されました。雑誌を運用するには、他の金をもつてすることが出来るだらうと思つて、我々は、購讀者の金で支拂ひました。然し、購讀は止りました、雑誌を二號出したら、我々は一文なしとなりました。

あなたの手紙がついたのは、此時でした。最も有利な条件で、雑誌の発行をつゞける爲に、金を借り、仲間を求めに、私はモスコウに出立しました。然し、雑誌事業の危機の外に、我國では、金融の危機が起つたのです。今、金がなくては、私達は発行をつゞけることが出来ず、一時的の廢刊を宣言しなければなりません。そして、私には、約束手紙一萬ルウブルの借財の外に、尙、口約の五千ルウブルの借財があります。此額中、三千ルウブルはどうしても拂はなければなりません。のみならず、契約した私の作物の發行權を買ひ戻し、私自分でそれを刊行するには、二千ルウブルの金を見出すことが必要です。發行人は、此權利を買ふ爲に、五千ルウブルに出すと申込んでゐます。然し、それは私にとつて、有利なものではありません。私自身で發行すれば、もつと多くのものが得られませう。今、借財を返へす爲に、私の新しく書く小説を、英國で行はれるやうに、分冊にして發行しやうと思ひます。私はまた、「死人の家」を分冊にして、繪を入れて、贅澤に組んで、發行したいと思つて居ります。そして、來年には、私の著作の全集を發行することになりませう。それですつかりで、一萬五千ルウブルを得られるだらうと希望をつないでゐます。然し、何と言ふガレリアンのやうな仕事でせう。

お、我が友よ、もし、借財が支拂はれ、再び自由の身と思ふやうになれば、それ丈の年月の間、喜んでまた監獄に這入りませう。

今、私は鞭でうたれて、小説を書き始めやうとしてゐるのです。即ち、必要にさし迫つて、大急ぎです。それは反響を起しませう。然し、私に必要なのは何でせうか。必要な金の爲の仕事は、私を押し潰し、腐蝕しました。

し、腐蝕しました。

然し、それを始めることゝしても、三千ルウブル必要です。それを見出す爲に、あらゆる方面に走りました。それがなければ、私は駄目になつて了ひます。今は私を救けてくれるものが外にないことを感じました。

力と元氣の貯への中から、私の魂には、懊惱と波瀾のあるもの、絶望に近いあるものが残りました。懊惱、苦悶は、私にとつて、最もアブノオマルな状態です。……そして、其上、私は一人ほつちです！四十年の友はもう居りません。けれども、常に私には、生きる準備をしてゐるやうに思はれます。それは滑稽です、さうではありませんか。猫のやうな活力です。

私はあなたに、すつかり書きました。そして、重なるもの、私の道徳的精神的の生活に就いては、何にもあなたに言はなかつたことを認めます。私はあなたにその觀念さへも與へませんでした。我々が手紙の往來してゐる間はさうでありませう。私は手紙をかくことは出来ません、そして、私のことを書き、制限を越えずに、書くことは出来ません。のみならず、それは困難です。多くの年月が、我々の間に横たはりました、何なる長い年でせう。

あなたが私に手紙を書いて下つたのは、何たる好時機でせう。あなたは、私に、一切の過去を思ひ起させて下さいました。嘗て、あなたが若く善良であつた時、知合ひになつた時と同様に、私はあなたを愛して居ります。斯様に、いつも、私はあなたを思ひ出してゐるのです。

時に、私は、家庭の父として、あなを全然知りません、あなたは今は幸福であるに相違ないと思はれます。(過去を思ひ出せば)然し、家庭の生活が私には解らないある色調をば、あなたの魂の中においたかどうか、餘り洞察しやうとは思ひません。あなたの御家族の御寫眞を有難くうけます。私は長い間其寫眞を見くらべ、推察しやうと努めました。

私は、一八六二年の夏と、一八六三年と、二度、外國へ行きました。各々、三ヶ月です。私は殆ど全獨逸を見物しました。私はスミス、フランス、イタリヤ(至る所に)に行きました。二度共、外國で、私の健康は、よくなりました。私は毎年三ヶ月外國に行かうと決しました。こちらで、我々の生活が高價なるのを見て、金の問題とならない限りに於てです。私は健康を恢復する爲に、そこに行き、一年の他の月を出来る丈ロシアで働かうと思ひました。然し、去年、私の兄の死は、私をして止むなく止まらしめました、そして、今の負債と、仕事とは、我をこゝに決定的に止めるでせう。ほんの一ヶ月でいゝから、頭を新鮮にし、生き返へる爲に、どんなに私は出發したいと思つてゐることとせう。私は慥かにあなたの家を通りませう。

で、恐らくそう言ふ風になるかも知れませう。「死人の家」の發行は私でなければ、續行することは出来ません。そして、外國で、私は絶えず働きます、何故と言つて、殊に、一つ所に定住すれば、こゝよりも、あちらでは、もつと暇と安靜が得られます。

あなたが私の長い御無沙汰を怒られず、すぐに御返事下さるならば、間違ひなく、寫眞をあなたに御

送り致しませう。で、あゝ、何故、あなたは御怒りになることが出来ませう。怒に罪があるのですか。私は一人ほつちで生活してゐます。私と一所に、繼子のボオルがゐます。彼はもう十六歳になりました。そして働いてゐます。彼はあなたのことをよく思ひ出し、あなたに宜しくとのこととです。

私共が會つたら、私はあなたにいろいろの物語りをしませう。

さようなら、我が親愛なる友よ、私は心から、あなたを接吻します。幸福でゐて下さい。今後、私は正確に御返事しませう。大至急御手紙を下さい。此手紙が、コオベンハアゲンのあなたの手に這入りはしまいかと恐れてゐます。

永久にあなたの古るい友

エフ・ドストイェフスキ

同じ人に

一八六五年九月五日。井エスベアアゲンにて。

最も尊敬する親友のアレクサンドル・エゴロギツチ、一ヶ月前、コオベンハアゲンのあなたの所にあつた、私の手紙を御受け取りになりましたか。私が手紙をあなたに送つた時、私はあなたがコオベンハアゲンに御在でになると思つて居りました。何故と言つて、私が外國に來てから、あなたに手紙を殆ど

やらなかつたからです。あなたが七月十日（我國の曆で）コオベンハアゲンからロシアに向つてお出になつたならば、あなたは屹度、サン・ペテルスブルグで私を御探しになつたでありませう。そして、サン・ペテルスブルグでは、如何に我々は互に會はれなかつたでせう、私は屹度、あなたがロシアに未だ御立ちになるまいと思つて居りました。（あなたは既に此意志を私に報らせて下さいました。）それで、私は今さう考へてゐるのですが、私が外國へ出立した時に、我々は行き違ひになつたのです。然し、多分、私の手紙はコオベンハアゲンから、ロシアのあなたの所に廻送されたこととせう。そして、多分、私の書いて上げた通り、多分、ズウリヒ宛であなたは御返事を下つたこととせう。そして、その時は、キエスバアデンに止つて居て、未だズウリヒには行きませぬ。そして、それに就いては何にも知りませぬ。

こゝに、コオベンハアゲンから來た牧師のヤンチェフと言ふ人が居ります。私は、こゝで、キエスバアデンで、偶然に彼と知り合ひになりました。そして、彼があなたを知つてゐることを知りました。就中、あなたが、此夏、ロシアに行かうと思つてゐるとあなたが御話しになつたこと、九月にコオベンハアゲンに歸ると仰つたことを、彼は私に話しました。それが、またあなたに手紙を書く希望を私に起させました。多分、此度は、私の手紙がコオベンハアゲンであなたの手に這入るでせう。

此度は、只、私のこと、事件のことしか、あなたに御話しますまい。あなたに言ふことは誰にも仰つて下さいませぬ。何故と言つて、それは私の爲にならないと思ふからです。然し、今の場合、こんなこ

とを言つても、全く無益で苦痛ですから、私はあなたに、明けつばなしに自白します。——私はそれを自白するのを非常に恥ぢてゐますが——私の馬鹿な所から、十五日前に、私は勝負で、すっかりなくて了つたのです、即ち、私の身につけてゐるものを、すっかり賣つて了つたのです。

私がキエスバアデンに到着してから、矢張り、殊に勝負事をしました。そして、幸せに勝つて、大した金（比較的）を儲けました。然し、愚かにも、深入りして了ひました。そして、三日の中に、凡てを失つて了ひました。そして、今は、想像も出来ないやうな最も醜い状態になつてゐます。そして、キエスバアデンを去ることは出来ませぬ。

私は、私に忠實な人（ミリウコフ）に手紙を書きました。私の發行人となる誰かゝら、前借をしてくれるやうに、未來の著作の手附金を貰つてくれるやうにと、彼に頼みました。彼は屹度さうしてくれると約束しました。そして、恐らく、彼は自分で私を助けに来てくれませう。けれども、私は、自分の計畫によると、十五日前に、（今日から）手紙と金を受取る望みがありません。そして、最も早くてさうです。今の所、私は全く一文の金もないのです。そして、悪いことには、ホテルで負債をしてゐるので

我が善良な友よ、それですから、私はあなたにお願ひするやうにしました。私を助けて下さい、困難から引き出して下さい。最も早い日限で、百タアルを送つて下さい。私はこゝで勘定を済まして、直ぐに、仕事のあるバクイに行きませう。そして、そこで、直ぐに私を助けてくれる人を（必ずそこに居

るに違ひありません。)見出しませう。その時、遅延なく償却しませう。

あなたがコオペンハアゲンにゐらつしやると思つて、私は急いで書きます。然し、あなたがロシアにまだ居られ、此手紙があなたに廻送せられ、十五日間の前御に受取りになつたなら、即ち、新式の曆の九月十九日(我國の七日)前に御受取りになつた時には、それは何でもありません、その時、出来るならキエスバアデンへ百タアレル送つて下さい。あなたがそれより遅く御受け取りになつたならば、もうお骨折はいりません。私は、そんなこともあるまいと思ひますが、最も都合の悪い場合を豫期しなければなりませんから、こんなことを書くのです。ミリウコフは、屹度此事件を纏めてくれるでせう。然し、第一、彼は、私のロシアに於ける唯一つの希望です。第二、彼はベテルスブルグに居らないかも知れませんから。何故と言つて、我々が別れた時、彼は、此夏、ニジュンに小旅行をしに行かうと思つてゐると私に言ひましたから。

此の場合には、私は金なしで長くなるなければなりません。そして、私にとつて非常に必要なパリイ旅行は、出来ないでせう。あそこでは、私は金を得ることが出来るかも知れません。且つ、私はまた餘りに借金をし過ぎてゐます、そして、それは非常に苦しいのです。それですから、あなたが出来るなら、後生ですから、それを送つて下さい。

あなたが昔どんな方であつたかと思ひ出し、我々の生活には、我々を非常に結合させた時が澤山あつたので、もし、人生が我々を引き離したとしても、互に知らない他人となることは出来ない程であつた。

から、私はこんなことをあなたに頼むのです。それですから、私は、勇氣を振つて、あなたに私の馬鹿な卑怯な行爲を自白することに決心したので。これは我々の間丈の話にして下さい。金に就いては、あなたが今御持ち合せになるなら、溺れかゝつてゐる不幸者を、助けずにはおられないであらうと思ひます。

私は出来ることなら、屹度、コオペンハアゲンに御寄りします。

あなたを接吻します。

あなたの誠實なる

フィオドル・ドストイエフスキ

私の宛名、獨逸、ナツソオ、キエスバアデン、郵便局留置、フィオドル・ドストイエフスキ氏に。

同じ人に

一八六五年九月十日(二十二日)キエスバアデンにて

最も親切な最も尊敬すべきアレクサンドル・エゴロキツチ、

私はもう二通の手紙をあなたに差し上げましたが、まだ御返事を受けません。あなたは屹度ロシアに御出でになり、あなた宛の手紙をロシアに送るやうにと、あなたは指圖されたことと思つて居ります。

こゝには、ロシア教會の牧師ヤニチエフが居ります。私は彼と知り合ひになりました。彼と話して、彼がコオペンハアゲンに居つたことのあること、彼があなたを知つてゐることをききました。あなたはロシアに行かうと思つて居られ、九月にコオペンハアゲンに歸つて來られると言ふことを彼は言ひました。それで、此手紙がコオペンハアゲンのあなたの手に這入るかも知れないと望んで、私は三度目に手紙を差し上げる決心をしました。此手紙はあなたにつくかも知れません。

私の第二の手紙で、私を助けて下さるやうあなたに御願ひしたことを言はなければなりません。私凡てを使ひ果たし、ホテルに借をし、こゝでは信用を失ひ、最も苦しい状態に居るのです。前より二倍も悪くなつたと言ふ違ひで、それが今迄もつゞいてゐるのです。けれども、私はロシアに行かなければなりません、私にはそこに遅延を許さない仕事があります。私は借財を支拂ふことも出来なければ、金なしで、旅行に出ることも出来ません。そして、私は全く絶望して居ります。それに、まだ少しあります、私は重い病氣にかゝりさうです。どうしませう、どうしていゝか解りません。

私は晝夜兼行で書いてゐる短篇をあてにしてゐました。然し、三帖でまとまらず、六帖に延びました。仕事は未だ終りません。私がつと金をとれるやうになることは實際です、然し、どんなことをしても、一月前に、ロシアから受けとることは出来ません。そして、これから、こゝでは、警察に渡すと脅かしてゐます。どうしたらいいでせう。

私はあなたに手紙をかき、百タアレルを送つて下さるやう御願ひしました。此金は、私を根本的に救

助するものではありませんが、非常に緩和させることになり、私を不名譽から救ひ出させよう。それであなたが私をお助け下さることが出来るなら、また、あなたがいつも同じ人で、いつも私の善良な友であつたなら、此百タアレルを拒絶しないで下さい。私の短篇は、今の我國の價では——少くとも、千ルウブルのねうちがあります。そして一ヶ月の中に、私はあなたに屹度お返しさせよう。

私は心配の爲に、非常に悲觀し、非常に苦しんでゐるので、此上あなたに手紙をあけることは不可能な程です。我が善良な友よ、あなたの御助けをするのを許して下さい。出来るなら、私を助けて下さい。私の宛名、キエスバアデン、郵便局留置、フィオドル・ドストイエフスキイ氏に。一ヶ月間此宛名で宜しいのです。親密にあなたと握手します。

あなたの

フィオドル・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八六五年九月廿八日 井 エスバアデンにて。

我が尊き友よ、私をお救ひ下つたことを感謝致します。あなたが私の友であり、不變で忠實で、あな

たの心が年月と共に變らなかつたことを、あなたは御示し下さいました。近い中に恐らく、あなたはシユエデンに御出になるのです。そうすれば、此手紙は、コオベンハアゲンであなたの手に這入らないかも知れません。こゝに問題が起ります、私はコオベンハアゲンであなたに會はれませうか。私は途中であなたに非常にお目にかゝりたいと思つて居ります。然し、二三日の時日を自分のまゝに出来、そして、都合のいゝ状態になるならば、——海を渡つてサン・ペテルスブルグに歸ると言ふ、あなたの御忠告に従ひ兼ねます。何故と言つて、ビスコフ州に（途中）二三日止まることは、私にとつて大切なことですから。

あなたの百タアレルは、いくらか、比較的私に教つてくれました。何故と言つて、プリンケン夫人が、自分で、夜（昨日）ホテルに来て、私に會へなかつたので、暇があつたので、家主に、書き留めの手紙を私に渡さなければならぬと言ひました。そして、その爲に、今日、私が彼女の家に行つて、金を受け取つた時に、家主は、金のことを知つて、私から殆ど全部奪ひとつたので、私には、十五フロリンしか残らなかつたのです。それは全く、此國の習慣です。然し、私はまた負債をもつており、出費をしなければならず、（質物を出すので）それで非常に心配して居ります。然し、そんなことは、どうでもいゝのです。私は、もう少し経つて、充分金を受取りませう、そして、家主にやつたものは、償還されませう。それ丈得られませう。

私は永く待ちあぐんでゐることのないやうにと望んで居ります。然し、それは、十分十日はかゝりませ

う。此十日に、私は熱を出すかもしれませぬ。私の決心したことは斯うです。カトコフに手付をかいてルスキイ・ギエストニクに短篇を提供し、前借三百ルウブルをこゝへ送つてくれるやうに願ひました。然し、私は、二つの事情を、可なり恐れて居ります。第一、六年前、シベリヤにゐた私が、私のシベリヤ出發前）短篇をかくと言つて、前借五百ルウブルを送つてくれたことがありました、私はそれをまだ書いてはるませんでした。（恐らく、彼は千ルウブルに送つたのかも知れませんが、五百だか、千だか、私は忘れませんでした。）それから、我々は、條件が一致しませんで、その事件はまだ解決しませんでした。金はカトコフに返却せられました。そして、私の中既に送つた短篇は、再び取り戻しました。第二、此時からウレミヤの發行中、二雜誌の間に、常に、喧嘩がありました。カトコフは、過去を根に持つて、私の提供する短篇を傲然と拒絶し、私を困らせるまゝにしておきはしまいかと、私が今恐れて居る程の人間です。私の短篇を彼に申し出でながら、心配のないやうな調子で、少しも無頓着でないと云ふ外に、彼に申し出ることが出来ない丈一層さうです。

けれども、私が今書いて居る短篇は、それを書き終へる暇が與へられるなら、恐らく、私の書いた凡てのものよりよくなるでせう。おゝ、我が友よ、強制的に書くことは、如何なる苦みを嘗めるものだからあなたは御存知ありますまい。それは、物質的見地から見ても不利益なものです。作物が力弱いものであればある程、價は下ります。然し、どうすることが出来ませう。去年の今頃は、私は一コベツクの負債も持つてゐなかつたのに、今一萬五千ルウブルの負債があります。私が兄弟の家族の爲に、自分の一

萬ルウブルを犠牲にしたのみならず、私は手形に署名し、兄の名の手形を私の名に書き變へました。そしてから、今、他人の負債の爲に、數年牢獄に入れられることになるのです。そして、我が哀れなボオルはどうなることでせう、そして、私の弟のニコラスは病氣なのです。私は自分の身體を治療し、何か書か爲に、外國に行かなければなりません。書く爲に——私は書いたのです。けれども、私の健康は悪いのです。私にはもう癲癇の發作は起りませんが、内部の熱が私を燃えつくしてゐます。私は戦慄を感じ、熱は毎晩起るのです。そして、恐ろしく瘦せました。私は風邪をひいたに違ひありません。さようなら、我友よ——私の宛名は同じです、キエスバアデン、郵便局留置。郵便局留置に願ひます。すつかりあなたのものなる

エフ・ドストイフスキー

もし、私がロシアに歸る前に、あなたに、金を御渡しすることが出来なかつたなら、あなたが行つたやうに、ペテルスブルグで、それを御報しませう。

私はカトコフの返事がくるまで、屹度、まだ十日ばかりキエスバアデンで過しませう。

同じ人に

一八六五年十一月八日　ペテルスブルグにて。

傑れたる非常に尊敬すべき友、アレクサンドル・エゴロギツチ、

四週間過ぎ去つて了つたとは考へられません。私は計算しました。實際それは本當です。それで、私は何をしたでせうか。不思議です。あなたの御手紙によると。あなたはクロンスタッドの蒸氣汽船からの私の手紙を御受け取りにならなかつたやうに思はれます。そうではありませんか。そのことを書いてよこして下さい。私はまだあなたに一リイヴルをお借りしてゐます、これは、手紙ではありません、蒸氣汽船の手紙につけ加へた數語と思つて下さい。私には一リイヴル不足です。けれども、私はいろんな出費に五シルリングしか使はなかつたのです、(ビイルの爲、海はひどかつたのです)それに加へて思ふことも、避けることも出来ないやうなことがあるました。それで、コオペンハーゲンで、此の金を返すやう御願ひすることにして、あなたに數行の手紙を追加したのです。何故と言つて、私はもう一コベックも持つて居りません。彼らが紹介されなかつたと言ふことは本當でせうか。航海は穩かでしたか、我々の着いたのは、六日目でした。

到着すると直ぐ、始めの晩から、私は、最も強い發作を起しました。私は恢復しました。五日の間に——また、もつとひどい發作を起しました。最後に、一昨日、輕かつたけれども、また一つの發作が起りました。然し、引き續いた三つの發作は、我を恐ろしく疲れさせました。それでも、私は頭を上け秘に、働いてゐます。カトコフは、キエスバアデンで、私に三百ルウブル送つてくれました。私はこちらへ着いてからそれを知りました、カニチエフが私に廻送してくれました。その間に、凡てのものが、私

の上にか落ちて来ました。私の兄の家族は（死んだ兄の）全く困り切つて来ました。私をのみ残して居ました。私は彼らに凡てのものを與へました。其上、私は最近また百ルウブルを借りました。私はどうしたらいいか解りません。私はボロンスキイに相談しに行きました。彼は私にいろんなことを言ひ、雑誌をあてにし、小説や他のいろんなものを書き、そして、その時事を始めるやうに忠告しました。それは一年間かゝるかも知れません。救助のことは、彼は頭を振りました。然し、私はまだ何にも試みませんでしたが。それでも、試みてみようとは思つて居ます。私は兄の家族の爲め、大臣に歎願書を呈出しやうとして居ます。

私は雑誌ではないが、定期刊行物を出さうと思ひました。それは必要で、また、有利です。恐らく、來年それを實現するかも知れません。然し、今の所、小説を書き終へねばなりません。私は一生懸命で働いて居ます。然し、それは、發作が起る爲に、醫者から禁ぜられました。あなたに直ぐには何にも御送りすることは出来ません。我が善良の友よ、忍耐して下さい。小説の方で、二千五百ルウブル以下を受けることはありません。屹度御返しませう。何故と言つて、それは全く體かなことですから。私は手附をうけとりました、それを書き終ると言ふ條件で。

外套に旅行服が着きました。明日、ルウベックへ御送りするかも知れません。ヤニチエフルにはどうしたらいいでせうか。あゝ、十二月十二日までに、私は彼に絶対に負債を返さなければなりません。その時、恐らく、私は、あなたに對しても、御拂ひすることが出来ませう。然し

どこからそれを得ませう。カトコフにまた前借を要求することは、いゝ策ではありません。それは不可能です。馬鹿々々しいことです。我々は、全く、こんな間柄になつては居りません。

私はあなたの奥様に、私の完全な誠實と、無限の尊敬を捧げます。殊に、彼女の御健康を祈ります。それが重大です。御嬢さんの御生れになつたことを祝します。そして、御子さん皆を接吻し、殊に最も利巧な御子様を接吻します。

さようなら、親愛なる舊友よ。あなたと強く握手します。すつかりあなたのものなる

エフ・ドストイエフスキイ

何か確實なものを期待しながら、いつもあなたに手紙をかき始めます。ボオルは丈夫で居ます、私に満足を與へません。弟は病氣です。彼は恐らく間もなく死ぬでせう。——多分、今年中に。私は凡ての消息や、凡ての企てを詳細にあなたに御話ませう。私の方も亦忘れないで下さい。雪が降りました。人々は橋にのつて行きます。そして、ネグ河は凍りました。蒸汽が走ることは殆ど駄目です。私はあなたに何とかして外套を送りませう。私はフランクフォルトから荷物をうけ取りました。凡てと六十五ルウブルかゝりました。

ストラホフに

一八六六年

我が善良な最も尊敬すべきニコラス・ニコライエギツチ。

二月十二日の日曜、何か異常のことでも起らなければ、私の結婚式は、トリニテ大寺院で、夜の八時に舉行されませう。

我が親愛なるニコラス・ニコライエギツチ、あなたが、我々が斯くも親密に誠實な数年の交際を御忘れにならなかつたなら、私の生涯の幸福な時に當つて、(多くの心配があるにしても) 私があなたを思ひ起し、先づ私の立合ひ人として、それから、人々の家の新婚者につき添ふ來賓として、真心からあなたに御出でを望むと言つても、あなたは少しも驚かれることはないでせう。

久しい前から、私は、あなたにさう御願ひしに行かうと思つて居りました。然し、此頃は、第一、私が苦しんでゐたので、第二、非常の心配事があつたのです、私が記憶が悪るので、全く私は困つて了つた程、澤山の些細のことを心配しなければならなかつたり、澤山の買物をしたり、澤山の指圖をしたりましたのです。

それですから、此手紙で、あなたを御招待することを許して下さいと御願ひするのです。それから、

今年の私の獨身生活では、非常に失禮をするやうになり、今年は、四十四帖も書いて頭が馬鹿になつてゐるので、あなたに非常に眞實な同情を感じて居つたにも係らず、數行の手紙を差し上げることすら非常に苦しかつた程で、また、文體に頓着することは出来ない程なのです。我々が互に會はなくなつてから、久しくなります。それでは、さようなら、あなたと強く握手します。

あなたに誠なる

エフ・ドストイエフスキ

ヴランゲルに

一八六六年二月十八日。メテルスブルグにて。

我が善良な舊友のアレクサンドル、エゴロギツチ、

長らく御無沙汰しまして、あなたに罪を犯しました。然し、私の誤ちは辯解出来ないものではありません。私の長い御無沙汰の澤山の原因をはつきりとあなたに御報らせする爲に、いろんな事情のある現在の生活を描くことは、私には今は困難です。是らの原因は澤山あつて、複雑してゐます。それですから、それを描きはしません。只、私は斯う言ふことを申し上げます、第一、私はガレリアンのやうに働

いてゐる事です。それは、ルスキイ・ギエストニイの爲の小説です。小説は大きく、六篇になります。十一月の終りに、既に、大部分のものをすつかり書き上げましたが、私は全部を焼却しました。今、これを自白しますが、それは、私の氣に入らなかつたのです。新しき形、新しき企てが、私を引きずつて行きました。私は再び書き始めました。私は夜も晝も働いてゐます。けれども、少ししか働けません。私は、月に六帖まではルスキイ・ギエストニクに送らなければならぬと計算しました。けれども、私が精神の自由を得たなら、そうすることは出来ませう。小説は、詩的の作物です。それは、精神と想像の安靜を要します。然るに、私は、牢獄に入れると脅かしてゐる、債權者に苛なまれてゐるのです。今日まで、私はまだ彼らと話しがまとまりません。彼らの多くのものは、話の解つてゐて、支拂ひを分割し五年間猶豫してくれと言ふ私の申込みをうけ入れてくれましたけれど、私には、それがうまく書けるか如何かまだ解りません。然し、あるものとは、私はまだ話の都合がつきません、それで、私の不安はどんなものだかさつして下さい。それは心や魂を腐らし、幾日も妨げをします。それにも係らず、腰をかけた書かなければなりません。時としては、それは不可能になります。斯う言ふ譯ですから、舊友と話をする爲に、一瞬間の落ち着きも見出すことは困難です。私はあなたにそれを誓ひます。

それから病氣です。歸つて來ると直ぐ、私は恐ろしく、癲癇で悩まされました。外國にゐて、三ヶ月間起らなかつたのに、その埋合せをしてゐるやうに思はれました。今は、一ヶ月から待疾に悩まされてゐます。あなたは、恐らく斯う言ふ病のことを御知りになりませう。そして、その發作が如何言

ふものか、御想像も出来ませう。もう六年前から引き續いて、一年の二月と三月の二ヶ月間は、必ず病むことになつてゐるのです。どう言ふ有様でと言ふに、十五日間は、安樂椅子に寝てゐなければなりません。そして、此十五日の間は、筆をとることは、不可能です。そして、今、他の十五日は、私は五帖だけ書かねばなりません。何故と言つて、よくなつても、私は寝てゐなければなりませんから、只起きたり、腰かけたり、すると、直ぐに、苦痛が起つて來るやうになるからです。でも、三日前から、私は非常によくなりました。私の治療をしてくれるのは、ベッセルです。此苦痛の起らない時を利用して、私は友と話すことにしてゐます。

御返事をしなかつたことを、私は如何に恥づかしく思つてゐるでせう。然し、私が手紙をあけなかつたのは、あなたのみではなく、私の愛さなければならぬ他の人々にもさうなのです。

私の悲觀を申上げて、元の兄の事件や、家族や、廢刊した雑誌の事柄の爲に起つたいろんな心配や、家庭上の不愉快なことを何にも申し上げませんでした。私は神経質となり、怒りつほくなり、私の性格は悪るくなりました。どこまで其がどくが解りません。私は冬中外に出ることは出来ません。私は何物も見ず、何人にも會ひません。私は一度、ログニエダの始めの芝居に行つたのみでした。借財の爲めに、私を牢獄に入れないとしても、私が小説を終るまでは、斯う言ふ風にして續いて行、のです。

私が小説を書き終る時も、私は何をするのか解りません。然し、重なることは、私の文學的名聲が新しくなるでせう、そして、秋までの中に、何か計畫することが出来ませう。私にはある計畫があります

然し、賢明にしなければなりません。

尙、一つの事實があります。雑誌の申込みと、本の賣行きは、非常な率をもつて、増加してゐます。それは、本屋の最近の報らせです、私にはその證據が外にもありません。

此度は、あなたの御書きになつたことを言ひます。あなたは、私に取つて最上の策は、官吏になることにあると御書き下さいました。私はそれに疑ひをさしはさみます。私に取つて最上の策は、最も金のとれる所に居ることです。私は文學に於ては、常に一片のパンを得る（負債がないならば）ことが儲かである程の名聲をもう拍してゐるのです。此最近の年月にさうであつたやうに、然も、うまい白パンの一片さへ得ることは確なのです。

さて、私はあなたに、現在の私の文學の仕事をお話させよう。あなたは、それから、必要な解決をされるでせう。

事情に迫つて、私はカトコフに外國から手紙を書いて、私にとつては、非常に安い價で彼に短篇をやることになりました。それは、ソヴレメンニクで一帖百五十ルウブルにする所のものを、一帖、百二十五ルウブルで書くことになりました。承諾しました、それから、彼は喜んでそれをうけ入れたことを知りました。何故と言ふに、文藝に就いては、彼は今年に雑誌に何も載せるものがなかつたからです。ツルダネエフは書きませんでした。エル・トルストイに對しては、怒つてゐました。私は教主としてやつて來たのです（私はそれを儲かな根據から知りました）然し、彼らは、私に對しては、非常に慎重であり。

又、政略的なのでした。彼らは、恐ろしくけちん坊です。小説は、彼らに、大したものと思はれました。一帖、百二十五ルウブルで、二十五帖（若しくは三十帖）出すと言ふので、彼らは、驚いてゐます。要するに、彼らの政略は、（彼らは私にもう送つてよこしました。）一帖の價をへらすことにあり、私に對する政略は、それを増すことにあるのです。それですから、我々の間には、今、祕密な戦ひが行はれてゐるのです。明かに、彼らは、私がモスコウに來ることを望んでゐます。私はその時機を待つてゐます。そして、私の目的は斯うです。天祐を以て、私の小説は、恐らく素ばらしい作物となりませう。私は、少くとも、三篇（半分）を公けにしようと思つてゐます。公衆には感動が起りませう、そして、私は、私はモスコウに行つて、彼らが如何にしてに價切るつもりか、して見ることにさせよう。恐らく、反對に、彼らは、價を上げることです。それは、復活祭の頃になりませう。のみならず、私は前借をとらないうことに努めませう。私は乞食のやうに、自分の身を苦しめて、生活してゐます。私のものは、私の手から逃れなくするのです。然るに、前借をすると、後に、決定的に、支拂ひのことを言ふべき場合となると、私は道徳上自由にはなれなくなります。私の小説の第一篇は、二週間前、ルスキイ・ギエストニクの一月の第一號にのりました。それは、「罪と罰」と言ふ題です。私は既に、澤山の熱心な賞讀を耳にしました。それには、大膽な新らしいものがあります。それをあなたに送ることが出来ないのを残念に思ひます。そちらで、あなたの居られる國で、ルスキイ・ギエストニクを取つてゐる人はありませんか。

さて、御聞き下さい。私が此仕事をうまく、即ち、私の望むやうに、書き終るとして御覧なさい。私の夢想してゐるのは、何だか御存知ですか。此年、平均二千若しくは、三千ルウブルで、本屋に第二版を賣ることです。役所は、それ丈の金を私にはくれますまい。そして、私は、屹度、その第二版を賣ることになるのです。何故と言つて、私の全著作は、いつも斯う言ふ工合になつてゐるのです。然し、こゝに不幸なことがあります。私は其小説を駄目にするかも知れません。私はそれを豫感してゐます。もし、負債の爲に、牢に投ぜられたら、私は屹度粗製濫造します。そして、それを完結させることも出来なくなりませう。そうすると、凡てのものは駄目になつて了ふのです。

だが、私は自分のことしか話しませんでした。それが、利己主義の證據だと思はないで下さい。それは、餘り長い間、室の隅にゐて沈黙してゐるものには、ありがちのことです。

あなたは、あなた及び全家族が病氣だと御書きになりました。それは悲しむべきです。外國の生活は少くとも、健康上、あなたに害あるに相違ありません。この冬、ベテルスブルグで冬を家族と共に過されたら、あなたは如何なつたこととせう。我々はひどい目に會つてゐます。此夏は恐らく、コレラが流行りませう。

奥様に、私の尊敬の情を、あらゆる幸福の祈願と、更に始めに、御健康を祈つてゐることを御傳言下さい。我が善良な友よ。あなたは、せめても、御家族の中にもらつして、御幸福で暮してゐらつしやいます。

そして、私には、此大なる唯一の人間の幸福の運命は拒ばんでゐるのです。さうです、あなたは、御家族に對して、感謝しなければなりません。

あなたは、あなたの父が申し出でられたことを御拒みになつたと一言仰いました。私はあなたに御忠告を申し上げることは出来ません。何故と言つて、私は其事件を詳細に知りませんから、けれども、私は、友としての御忠告を申し上げることにします、あなたは、そのことを急いで御きめになつてはいけません。最後の言葉を仰つてはいけません、夏まで、御歸りになるまで、その決定的の御決心を延ばして下さい。斯う言ふ種類の決心は、全生涯なものです。それは、全生涯の變化です。此夏、あなたが役についてゐると御定めになつても、決定的の言葉を仰つてはいけません。そして、最後の言葉は、事情に御任せなさい。

此夏、私はベテルスブルグに行きませう、その時、お互に會ひませう、我々はいろんなことを話し合ひませう。

さて、あなたが、ロシアの内的生活に同じやうに興味を感じてゐられることを、私は嬉しく思つてゐます。あらゆる點で、あなたと一致すると言ふことは出来ませんが、私にとつて、味方を得ることには、非常に愉快なことです。あなたは、物事を少し排他的に見て居られる。あなたは、あなたの御便りを外國新聞から得られませんか。外國では、ロシアに關することを凡べて、系統的に惡變してゐます。然し、それは非常に廣い問題です。私の考によると、人が外國に居ると、自分の意志に反して、外

國の新聞の影響をうけることになり。私は、それを自分で経験しました。けれども、多くの點で、私はあなたと一致してゐることを感じます。

ギエストは二人の編輯者、スカリアチンとウマトフによつて編輯されてゐます。さようなら、親愛なる友よ、さようなら。

後便で、あなたにもつといふ御便りをする考です。神も照覽して下さい。

全くあなたのものなる

エフ・ドストイエフスキイ

あなたの親愛な御子供達を接吻して下さい。

(横書き。)

私の所にあなたの御残しになつた凡てのものは、手を觸れずに、筆筒の中に納つてあります。我が友よ、私はあなたの債務者です。もう少し辛抱して下さい。屹度、お拂ひ致します。今は、私は前借を避けてゐます。そして、あなたは、私がどれ程出費を要するか御存知だつたら。

同じ人に

一八六六年五月九日　ペテルスブルグにて

我が善良なるアレクサンドル・エゴロギッチ。

私は御返事が遅れました。そして、失つた時をとり返へさうと努めてゐます。我が忠實な友よ、私の良心が大變、私を責めてゐることを御信じ下さい。そして、あなたの御手紙がほんの八日前に來たなら私はすぐにあなたに金をお返したであります。私の境遇は斯うです、私は冬中、隠者として、生活しました。私は働きました。健康を損じました、私は少しばかりで生活しました。そして、千五百ルーブルの出費が入つたのです。どうしてと言ふのですか。でも、人が私から奪ひとつて行つたのです。私は神聖週間にモスコオへ行きました。そして、カトコフから、前借として、千ルーブルとりました。私の目的は、速かにドレスデンに行き、三ヶ月そこに滞在し、誰も妨げるものゝないやうにして、私の小説を書き終ることでした。何故と言つて、こゝ、サン・ペテルスブルグでは、書き終ることは不可能でしから、私の發作は一層烈しくなりました、そんなことは、外國にゐると起らないのです。そして、債權者の方は、彼らにやればやる程、彼らは横暴になつて來ます。けれども、彼らは、私に感謝しなければならぬのです。兄の死後、私は負債を私の名に書き換へ、私はその一部をもう支拂ひました。そしてもし、私が、約束手形を私の名に書き換へなかつたら、彼らは、何にも受けとれなくなるのです。此度外國の旅行券を渡された時は、ある形式を踏むことが必要であつたと言ふことが解りました。事件はのびくになり、ルーブルの相場は下つたのです。それで、神聖週間には、出来る丈、そんなことを考へてはいけません。然し、債權者は、その權利を執行して、私の千ルーブルはなくなつて了つたので

す。それにもかゝはらず、私は止り、一生懸命で、小説を書きつゞけてゐます。今は、これが私の只一つの望みです。私には、尙、その爲に、千五百ルウブル又は、それ以上、恐らく取ることが出来るやうになつてゐます。それから、私は第二版を賣りませう。千五百ルウブル以下ではありません（人々は既に價をつけてゐます。）然し、カトコフから、七月にならなければ、金をうけとることは出来ません。七月にあなたに金を御送りませう。——間違ひなくです。然し、其以前に、送ることが少しでも出来るやうな場合には、（それは全くあり得べきことです、何故と言つて、本屋は小説の終る前に、第二版をも出さうと言つて來ますから。）私は直ちにあなたに送りませう。それで、タアレルで、去年の私の負債の正確な勘定を、せめて一言なりとも、書いて下さるやう御願ひします。何故と言つて、私は手帳をなくし、負債のあらましは記憶してゐますが、正確には覚えてゐないからです。付け加へて言ひますが、今、あなたに御返済出来ないことは、あなた以上に、私は心苦しく思つてゐるのです。屹度、あなたは斯う私を非難して居られるのでせう。他人に拂つて、何故、自分に拂はないのかと、私に勘辯して下さい。然し、私が呼吸することも出来ない程、押しつけたのです。私は志に反して、凡てを分配しました。ルウブルの相場は、外國の方の理由から、下り始めました。私はカトコフを辯護するものではありません。あれ以上、彼を辯護しやうとは思つて居りません。然し、彼は社會主義を鼓吹してゐるではありません。あなたは、恐らく、外國の論文しか御よみにならないのでせう。それでは、事件を知るには駄

目です。あなたは夏を通しに行らつしやいませんか。我々には澤山御話することがあるのです。私は、サン。ペテルスブルグに止まらうと思つて居ります。それで、私は尙、千ルウブルの出費を致ませう。モスコウか、どこか田舎へ行くのがいいではないでせうか。それでは手紙を書いて下さい。

全くあなたのものなる

エフ・ドストイエフスキ

アボロン・ニコライエギツチ・マイコフに

一八六七年八月十六日（廿八日）ツエネツにて。

どれ程の間、私は御無沙汰し、あなたの尊い御手紙に御返事をしなかつたこととせう、親愛なる忘れ難き友アボロン・ニコライエギツチ。私は自分の忘れ難き友を思ひ起してゐます。そして、心の中で、斯う言ふ名を言つても理由があると感じてゐます。我々は、ずるぶん長い間友達でありました、我々は非常にお互に、親しんでゐたので、時として我々を離し遠ざけた生活は、全くお互を引き離すことは出来ず、また、恐らく、決定的に、我々を結び合ひさへもしたので、あなたが私に會はれないと言ふことに幾分氣にしてゐられるとしたなら、私はどんなにあなたに會はれないと言ふことを氣にしてゐるでせう。我々の觀念と、感情の類似してゐると言ふことを日々固く確信してゐる外に、その上、あなたを

失つて、私が外國にゐるのだと言ふことを考において下さい。外國では、ロシア人の顔や、ロシアの本
や、思想や、配慮を認めないのみならず、好意をよせる顔をした人にも會ひません。實際、外國に於け
る生きてゐるロシア人は、感情と常識とを持つてゐるなら、どうして其を認めたり感じたりすることが
出来ないのか、私には解りません。恐らく、彼らの考によれば、こちらの人々は好意をよせてゐる人々か
も知れませんが、我々には、彼らはそうでないやうに思はれます。それは眞に斯様です。そうして、外
國では、如何して人々は自分の生涯を送ることが出来るでせうか。祖國のないこと——それは苦痛です
私はそれを誓ひます。そこで、六ヶ月や、一年位を過すのは、——結構なことです。然し、私のやうに
何時歸れるか、全く解らずに、こゝへ來るのは、非常に悪いことで、また苦しいことです。そう考へ
たばかりでも切ないのです。私の仕事のため、及び作物のために、私はロシアが必要で、非常に必要
です。(一般の生活は言はないとしても。)人は水のない所にゐる魚のやうになります、力も策も失つて
了ひます、我々は、斯う言ふことを凡べて話しませう、私には、あなたに多くの言ふべきこと、あなた
の御忠告や御援助を乞ふことが澤山あります、あなたは、私がこゝから御話することの出来る只一人の
人です。(御注意——時に、御手紙を只一人でよんで下さい、これを知る必要のない人には、私のことを
何にも話さないで下さい。あなたは一人でそれがお解りでせう。)尙、一言申し上げます。何故、私は
あなたに手紙を書かずに、こんなに長くゐたか、あなたに詳細に御返事するのは、私の力以上です。私
は餘り定住してはをりません。我々が通信を始めるには、せめて、暫くの間、定住しやうと望んでゐま

す。私はあなたより外に頼りにする人がありません。あなた只一人です。もつと屢々、書いて下さい、
友よ、私を見捨てないで下さい。これから、私はあなたにするぶん屢々、また規則的にお書きませう
それで後生だから、通信を繼續して始めて下さい。それは、私にとつて、ロシアの代りになり、私に力
を與へませう。

私はこの四ヶ月のことを、辛うじて、胸襟を開いて、あなたにこれから物語りませう。

私がどうして、如何なる理由で出發したかはあなたは御存知です。重なる理由は二つあります。第一
私の健康を救はんとする爲のみならず、私の生命を救はう爲です。發作は毎週繰り返へされてゐます。
此神經及び惱の錯亂を感じたり、意識したりすることは、堪え難いことです。理性は實際動搖し始めま
した。それは本當です。私はさう感じました。そして、神經の錯亂は、私に時として、忿怒する時を與
へます。第二、理由、又は事情。債權者は、もう待つことが出来なかつたのです。私が出發した瞬間に
ラトキンとベチャトキンは、その權利を執行しました、——もう少しすれば、私は捕へられたのです。
一面で、負債の爲に牢獄へ這入るのは、私に非常に有益なことであると認めてもいゝのです。(私は想像
も誇張も加へずに、そう言ふのです。)實狀、材料、新しき死人の家、要するに、私は四千か五千ルウブ
ルの材料を少くとも得るかも知れません。然し、私は結婚したばかりなのです。のみならず、タラソフ
の家で、私は果して、息づまるやうな夏をよく忍ぶことが出来たでせうか。それは決すべからざる問題
です。然し、タラソフの家で、最も烈しい發作を起して、私が書くことが不可能であつたとすれば、負